

長野県松本市
松本城三の丸跡

DOIJIRI

土居尻 第1次

—緊急発掘調査報告書—

～遺物編2(木器編)～



2003.3

松本市教育委員会

長野県松本市
松本城三の丸跡

DOIJIRI

土居尻 第1次

—緊急発掘調査報告書—

～遺物編2(木器編)～

2003.3

松本市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成3年4月9日から7月19日にわたり長野県松本市大手において実施された松本城三の丸跡土居尻第1次緊急発掘調査報告書のうちの遺物編2（木器編）である。なお当該報告書は、遺構編、遺物編1（土器・陶磁器編）、遺物編2（木器編）、遺物編3（その他）の4分冊で構成される予定である。
- 2 本調査は、松本市による松本市営大手駐車場建設事業に伴う緊急発掘調査であり、松本市教育委員会が発掘調査を実施し、本書の作成を行ったものである。
- 3 本書の執筆は、以下のとおりである。
Ⅲ：太田万喜子、竹内靖長、Ⅳ-11：廣田早和子、Ⅴ-1：太田万喜子、竹内靖長、Ⅴ-2：廣田早和子、その他を竹内靖長が行った。
- 4 本書作成にあたっての作業分担は、以下のとおりである。
遺物洗浄・整理カード作成：太田万喜子、林 和子、松山あずさ
遺物保存処理：(財)長野県埋蔵文化財センター
遺物実測：太田万喜子、廣田早和子、福島紀子、村田昇司
実測図トレス：太田万喜子、松山あずさ
遺物図版作成：太田万喜子、松山あずさ、廣田早和子
遺物一覧表作成：太田万喜子、竹内靖長、廣田早和子
遺物写真撮影：宮嶋洋一
総括・編集：竹内靖長
- 5 本報告書作成にあたり、次の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表します。
小原正幸（工房やまと）、太田洋志（(財)木曾地域地場産業振興センター）、
北野信彦（くらしき作陽大学）、竹原 学
- 6 本調査で得られた出土資料及び調査の記録類は、松本市教育委員会が保管し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市大字中山3738-1 TEL.0263-86-4710 FAX 0263-86-9189）に所蔵されている。

目 次

例 言	
目 次	
I 調査の概要	
1 調査地の位置	1
2 調査結果の概要	1
II 出土木製品の概要	
1 概 要	3
2 木製品の分類	3
III 漆 器	
1 碗	4
2 碗 蓋	4
3 皿	5
4 曲 物	5
5 杓 子	5
6 円 板	5
7 その他の漆器類 1	6
8 その他の漆器類 2 (用途不明)	6
IV 木 製 品	
1 曲 物	7
2 円 板	7
3 蓋	7
4 柄 杓	7
5 桶	7
6 椀	7
7 籠	8
8 杓 子	8
9 榎	8
10 鋤 先	8
11 下 駄	8
12 その他の木製品	10
V 考 察	
1 本遺跡出土漆碗の様相について	71
2 松本城下出土下駄の様相について	74
写真図版	
抄 録	

目 次

第1図	調査地の位置	2	第38図	木製品(26)	60
第2図	漆器(1)	24	第39図	木製品(27)	61
第3図	漆器(2)	25	第40図	木製品(28)	62
第4図	漆器(3)	26	第41図	木製品(29)	63
第5図	漆器(4)	27	第42図	木製品(30)	64
第6図	漆器(5)	28	第43図	木製品(31)	65
第7図	漆器(6)	29	第44図	木製品(32)	66
第8図	漆器(7)	30	第45図	木製品(33)	67
第9図	漆器(8)	31	第46図	木製品(34)	68
第10図	漆器(9)	32	第47図	木製品(35)	69
第11図	漆器(10)	33	第48図	木製品(36)	70
第12図	漆器(11)	34	第49図	漆碗分類図	72
第13図	木製品(1)	35	第50図	下駄分類図	76
第14図	木製品(2)	36			
第15図	木製品(3)	37			
第16図	木製品(4)	38			
第17図	木製品(5)	39			
第18図	木製品(6)	40			
第19図	木製品(7)	41			
第20図	木製品(8)	42			
第21図	木製品(9)	43			
第22図	木製品(10)	44			
第23図	木製品(11)	45			
第24図	木製品(12)	46			
第25図	木製品(13)	47			
第26図	木製品(14)	48			
第27図	木製品(15)	49			
第28図	木製品(16)	50			
第29図	木製品(17)	51			
第30図	木製品(18)	52			
第31図	木製品(19)	53			
第32図	木製品(20)	54			
第33図	木製品(21)	55			
第34図	木製品(22)	56			
第35図	木製品(23)	57			
第36図	木製品(24)	58			
第37図	木製品(25)	59			

I 調査の概要

1 調査地の位置

調査地は、松本城天守閣の南東約500mの松本城三の丸跡土居尻地籍に位置する。松本城三の丸は、二の丸外側を囲む外堀と、総構を囲む総堀に囲まれた区域で、上級家臣団の武家屋敷地が置かれていた。幕末に作成された「嘉永七年三月改 家中名前附図」（個人所蔵）によれば、今回の調査地付近には、家臣の「宇野傳衛門」の屋敷地があったことが記されている。これを裏付ける資料として、出土木製品のうち、第Ⅱ検出面から出土した刷毛（第41図372）には、「安政五戊午年 宇野」という墨書がみられる。

調査地一帯の地形は、標高587mで女鳥羽川と薄川の複合扇状地の末端にあたる。周辺は伏流水の集水地域で、非常に湧水が豊富である。このため、今回の調査では、木製品の遺存状況が非常に良好であった。

なお、松本城および調査地周辺の詳細な地形・地質、歴史的概要については、遺構編で述べる。

2 調査結果の概要

発掘調査では16世紀後半～19世紀後半にかけての4層の生活面を確認した。ここでは調査終了時点での概略を以下に記述する。なお、遺構・木製品以外の遺物についての調査報告は、各分冊で報告する予定である。

発掘調査日程：平成3年4月9日～7月19日

調査地：松本市大手3丁目2-27、松本市大手2丁目3-10（松本市営大手駐車場建設事業）

調査面積：1,360㎡（第Ⅰ～Ⅳ検出面合計：5,442㎡）

調査結果：

第Ⅰ検出面（19世紀後半～）

遺構：建物址6、土坑16、石組水路1、埋設窰14

遺物：陶磁器・銭貨

第Ⅱ検出面（18世紀後半～19世紀前半）

遺構：建物跡2、土坑45、井戸・集水枡13、木樋2、竹管10

遺物：陶磁器、土器（かわらけ、内耳鍋）、木製品、金属製品

第Ⅲ検出面（17世紀中頃～18世紀前半）

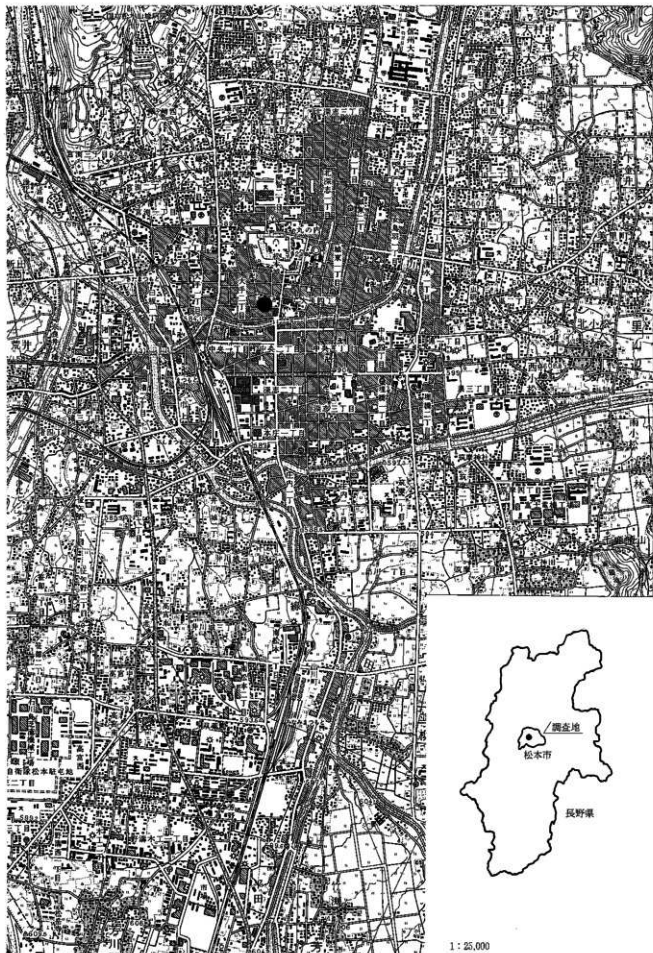
遺構：建物跡3、土坑260、井戸・集水枡10、溝4

遺物：陶磁器、土器（かわらけ、内耳鍋）、木製品、金属製品、その他（基石、砥石）

第Ⅳ検出面（16世紀後半～17世紀前半）

遺構：建物跡5～6、土坑101、井戸1、溝5

遺物：陶磁器、土器（かわらけ、内耳鍋）、木製品、金属製品、その他（印鑑）



第1図 調査地の位置

Ⅱ 出土木製品の概要

1 概要

今回の調査では、第Ⅱ～Ⅳ検出面より536点の木製品が出土した。このうち本報告書では、図化可能である372点を提示した。出土資料の所属時期は、層位・共存遺物等から16世紀後半～19世紀前半に比定される。これらのうち、遺構覆上からの出土量は214点で57.5%を占める。中でも廃棄土坑からの出土が際立っており、148点を数える。また、遺物包含層である各整地層中からの出土も多く、Ⅱ～Ⅳ検出の合計で158点を得た。以下、各検出面ごとに出土木製品の概略を示す。なお、木製品が出土した遺構の様相や出土状況は、本報告書「遺構編」であらためて報告する。

第Ⅰ検出面

木製品の出土はなし。

第Ⅱ検出面

計20点が出土した。これらには水道遺構の木樋およびジョイントが3点含まれている。他の17点の内訳は、漆器6点（椀5、蓋1）、下駄3点、曲物3点（曲物胴部2、円板1）、皿・箸・栓が各1点、不明2点である。出土した遺構は井戸2・8・9（水道溜桶も含まれる）で、他は整地層中からである。

第Ⅲ検出面

総数279点を数え、最も多くの木製品が出土した。種別の内訳は、漆器65点（椀・蓋・杯・皿・曲物・曲物円板・杓子・膳・箱・下駄・鬘壺）、その他の木製品214点（栓・円板・曲物・籠・杓子・下駄・鎌・柄杓・砥石台・楔・箸・膳・槌・人形代・男根状木製品・墨書荷札など）である。出土した遺構は、廃棄土坑からの出土が最も多く、53点を数える。

第Ⅳ検出面

総数73点出土した。内訳は、漆製品17点（漆椀6点・杓子2点・円板2点・櫛1点・その他6点）、その他木製品56点（曲物円板・蓋・柄杓・栓・籠・楔・下駄・槌・帚・荷札など）である。出土地点は、廃棄土坑・ピット・溝・井戸などの遺構覆上中および整地層中からである。

2 木製品の分類

本報告書では、漆が塗られているものを一括して「漆器」とし、それ以外のものを「木製品」として分けて掲載した。各種別での器種の分類は下記のとおりである。

(1) 漆器

漆椀・椀蓋・皿・曲物・杓子・円板・その他（杯・箸・蓋・柄杓の留具・膳・箱・鬘壺・櫛・刀柄など）

(2) 木製品

曲物・桶・栓・籠・杓子・楔・鋤鎌先・下駄・その他（箸・木槌・人形代・独楽・砥石台・男根状木製品・荷札木筒・水道継手など）

上記分類項目をもとに、各検出面ごとに報告していく。このため、「漆器」と「木製品」の項目で器種が重複するものがあるので了承されたい。

以下、各器種別に検出面ごとに詳細を述べていく。

Ⅲ 漆 器

本調査では漆製品が190点出土した。そのうち145点について図化した。以下、器種別に検出面ごとに記述する。

1 漆 椀

第Ⅱ検出面（第2図1～5）

5点を図化した。1・2は、下地・上塗りともに内外黒漆が塗られているものである。3は、腰部が面取りされ、体部がほぼ直に立ち上がるものである。体部上位には、0.5cmほどの細い突帯が巡る。内面は朱漆、外面から底部にかけて黒漆が塗られている。4は、底部が厚く、口縁にむけて薄くなっていくもの。5は、内面が黒漆の下地に朱漆が塗られ、外面は黒漆に紋様が描かれている。

第Ⅲ検出面（第2図6～32、第3図33～61）

57点を図化した。内外面の漆塗りの色で大きく3つに分類できる。内外面ともに黒漆が塗られているものは、19点（6・9・15・19・26・27・31・32・37・42・45・48・53・55・56・57・58・60・61）みられる。このうち、紋様が描かれているものは2点（15・32）のみである。いずれも、黒漆の器面に朱漆で描かれている。26は底部中央部分に径2.6cmの穿孔がみられる。2次的に加工したものと考えられる。27は、底裏に線刻がみられる。48の底裏には朱漆で「玉源仕入」の文字が残る。

内面が朱漆、外面が黒漆塗りのものは31点（7・10・12・13・14・16・17・18・20・21・22・23・24・28・29・30・33・34・35・36・38・39・40・41・43・44・47・49・52・54・59）ある。このうち、紋様の描かれたものは11点ある。7・16・22には、金蒔絵の紋様がある。7は、外面に金蒔絵で秋草（紅葉）紋、16は朱漆と蒔絵で朝顔紋が描かれている。13は、外面に朱漆で左三つ巴紋が描かれている。破片のため、紋様の単位は不明である。23は、外面中に松紋様が3箇所描かれている。紋様部分は摩滅し、白濁した状態で残存している。47は、体部外面に松紋様が描かれている。これも、白濁した状態で残っている。52は、外面に金彩で左三つ巴紋が描かれている。54は、金彩と朱漆で笹紋が3単位描かれている。20は体部外面に直径0.4cmの竹釘を刺した穴が3箇所あり、その両脇には内面まで貫通していない穴が穿たれている。椀として使用した後、転用したものか。29の底裏には、線刻がある。34は、漆が薄く塗られており、木地の木目が観察できる。59の底裏には「人」という線刻が残る。

内外面ともに朱漆が塗られたものは8点（8・9・10・25・32・46・50・51）ある。すべて、下塗りに黒漆が塗られ、その上に朱漆を塗っている。このうち紋様が描かれたものは3点（10・32・46）ある。10は外面に3個体の紋様、46は外面に黒漆で桜花紋がみられる。32は、口縁端部に黒漆が塗られ、内面に黒漆で絵柄が描かれている。34は漆が器面全体に薄く塗られており、木地の木目が明瞭に観察できる。38は、胴部に直径0.2cmの穴が一箇所あけられている。また使用痕が明瞭で、高台は摩滅が著しい。

第Ⅳ検出面（第4図62～67）

6点を図化した。63は、内面朱漆・外面黒漆塗りのもので、丸に植物の紋が3個体描かれているが、紋様部分は摩滅し、白濁して残るのみである。64は内外ともに黒漆で、底部裏面に朱漆で「ハ」の文字が書かれている。66は、木地調整・漆塗りとともに丁寧に仕上げられている。内外ともに朱漆であるが、底部にのみ黒漆が塗られ、底裏に朱漆で「昌」の文字が書かれている。

排 土（第4図68～71）

4点を図化した。69は完形で、蒔絵が施されている。71は全面に朱漆が塗られ、外面に黒漆で南天が描かれている。内面は、厚く塗られた朱漆を筋状に掻き落としており、凹凸が著しい。

2 漆器碗蓋

第Ⅱ検出面 (第4図72)

1点を図化した。72は、天井部外面に朱漆による紋様の痕跡が残る。

第Ⅲ検出面 (第4図73~81)

9点を図化した。73は、外面に朱漆によって紋様が3箇所描かれている。80は朱漆で三つ盛龜甲に花菱が描かれている。つまみの内側中央に2箇所、側面に3箇所の計5箇所が描かれている。79は朱漆で菊花紋様が描かれている。花弁先端部は金彩、葉は緑彩で描かれている。81は、外面から天井部にかけて金蒔絵が施されている。

3 漆器皿

第Ⅱ検出面 (第4図82)

1点を図化した。82は口唇部にのみ黒漆が塗られている。内側の放射状の加飾は、中山漆器にみられる加飾挽き技法のひとつで、松篁目筋と考えられる。

第Ⅲ検出面 (第4図83~85)

3点を図化した。すべて内面は黒漆で下塗りされ、朱漆が重ね塗りされているものである。84は外面に笹竹と松の紋様が、朱で描かれている。

4 曲物

第Ⅲ検出面 (第5図86~87)

2点を図化した。いずれも破片資料で、表面にのみ黒漆が塗られている。

5 杓子

第Ⅲ検出面 (第5図88~91)

4点を図化した。88~90の3点は、漆器碗蓋を2次的に加工して杓子に転用したものと考えられる。いずれも柄を装着するための穴があけられ、竹釘で柄を固定した痕跡がみられる。88は、体部側面に柄を接合するための方形の彫り込みがあけられている。方形孔周囲には、柄を固定するための竹釘が4箇所打たれている。89は、内外面黒漆の下塗りに上に朱漆が塗られている。側面には、柄の取り付け穴があけられている。90は、外面に朱漆で松葉紋様が描かれている。天井部に四角形の彫り込みがあり、径0.1~0.2cmの竹釘で柄を装着した痕跡がみられる。91は、杓子として作成されたものである。一木で作られているが、柄は欠損し、匙部のみが残る。匙部内面は、黒漆の下塗りに朱漆が塗られている。

第Ⅳ検出面 (第5図92~93)

2点を図化した。92は、匙部と柄の一部が欠損する。匙部内面には朱漆が塗られ、外面と柄部には黒漆が塗られている。93は全体に黒漆が塗られており、柄の一部が欠損する。匙部先端の漆の剝離は、使用痕と考えられる。

6 円板

第Ⅱ検出面 (第5図94)

94は、黒漆が全体に厚く塗られている。周囲に曲物側板の一部が残存するが、接合部に釘穴などは見られない。

第Ⅲ検出面 (第5図95、第6図96~102、第7図103~105)

12点を図化した。95・98・101は、径が7~8cmでいずれも両面黒漆塗りである。95は表面の劣化が激しく、漆の剝離が数箇所みられる。板全体に歪みもあり、遺存状態は良くない。98は周囲の縁が丁寧に面取りされている。100・103~105は直径が11~19cmのものである。105は周囲に曲物側板と椀の一部が残存しており、それを竹釘で6箇所とめている。表面全体には不規則に12箇所の穴があいている。96・97・99・102は、

直径が22~26cmのものである。96は他の部材を縫い留めた桜皮が4箇所に残る。97・99・102は側板接合のための釘穴が2箇所にみられる。102は裏面黒漆塗り、側板接合のための竹釘穴が2箇所みられる。

第IV検出面（第7図106、第8図107）

2点を図化した。106は、裏表面ともに漆塗り。107は、片面に把手接合痕があるため樽の蓋と考えられる。裏面全体には、鋭利な刃物で付けられた工具痕が残る。

7 その他の漆器類 1（第8図108~115、第9図116~121、第10図122~125）

環1点・箸1点・蓋3点・柄杓の留具1点・膳1点・膳の脚1点・すりこぎ状製品1点・箱1点・下駄2点・灯明台1点・蟹盃2点・櫛1点・鳥形状木製品1点・短刀の柄1点が出土した。

115・116・117は曲物の蓋と考えられるものである。周縁部分が段状に成形されているのは、曲物本体とのかみ合わせ部分と考えられる。116は、表面に釘穴が5箇所みられる。109は柄杓の留め具で、表面と側面に黒漆が塗られている。長さ12.0cmであることを考慮すれば、大型の柄杓の留具と考えられる。113は膳の脚である。盆底との接合部分は凸状に加工されており、下端接地面には使用により摩滅し、漆の剥離が観察できる。120は灯明台で、底部が使用により摩滅している。121は短刀類の柄である。全体が黒漆塗りで、紋様などはみられない。122は蟹盃で、底部・口縁が欠損している。把手部分の欠損した箇所を観察すると、本体に把手を差込んで組み合わせて作っていることが判明した。

8 その他の漆器類 2（用途不明品）

第II検出面（第10図126）

1点を図化した。126は片面に朱漆、片面に黒漆の板状製品である。

第III検出面（第10図127~130、第11図131~140、第12図141）

15点を図化した。127は、表面が黒漆、側面と片側に朱漆が塗られている。130は一方が細く加工されており、表面に黒漆、裏面に朱漆が塗られている。132は黒漆が塗られ、先端が凸状に加工されて竹釘が打たれている。133は全面が黒漆塗りで一端が欠損している。直径0.1~0.5cmの釘穴が直線状に5箇所あけられている。先端に切り込みの加工があり、その側面にも釘穴が1箇所ある。130・132・133は、何らかの部材と考えられるが、破片のため器種は不明である。135は一方が黒漆塗りで他方が朱漆塗りの板状製品である。朱漆の塗られている面には、漆塗り製作段階の刷毛塗りの痕跡が残る。131は竹製で、筒状を呈するが、破片資料であるため、器種は不明である。先端は櫛状に加工され、節も意図的に抜いてある。140は両端が欠損する。先端に凹状の切り込みがあり、他の部材との接続が考えられる。側面には面取り加工痕が残る。

第IV検出面（第12図142~144）

3点を図化した。142は一部欠損するが、楕円形を呈する。両面とも薄い黒漆塗りで直径0.2cmの穴が4箇所あいている。片面には、鋭利な刃物によってつけられた工具痕がある。143は全体に黒漆が塗られ、赤漆と金蒔絵で三葉葵紋（徳川家家紋）が2箇所に描かれている。非常に丁寧に作られたもので、武家の陣中道具である刀掛けか手拭掛けの脚部と考えられる。三葉葵紋の描かれた漆器製品の出土事例は非常に少なく、石川県金沢市の堀川町久昌寺遺跡の墓址から漆器盃が1点出土した事例がみられる。これは、器面に梨地（赤漆に金箔を混ぜたもの）で三葉葵（徳川家家紋）と劍梅鉢（加賀前田家）を蒔絵したものである。144は全面に朱漆が塗られている板状製品である。直径0.2cmの釘穴が等間隔で直線状に並び竹釘が残ることから、他の部材との接合が考えられる。

IV 木 製 品

1 曲 物

第Ⅱ検出面 (第13図145・146)

145・146ともに小型の曲物側板小片である。145は、外板と内板を桜皮で綴じ合わせている。146の下部には鉄釘が打たれているが、底板との接合固定用の釘と考えられる。

第Ⅲ検出面 (第13図147～151)

147～151は、曲物側板である。底板・蓋等は残存していない。147は、外板と内板を桜皮で13箇所綴じ合わせている。下端には、径0.1～0.2cmの小穴が5箇所あけられている。底板との接合穴か。148は曲物柄杓で、側板中位には柄を通すために0.7cmの穴が1箇所あけられている。149～151は、すべて桜皮で縫い合わせた箇所である。151には、柄を通したと考えられる方形の穴があけられているため、曲物柄杓と考えられる。

2 円 板

曲物または桶・樽の底板と考えられるものを総称して円板とした。

第Ⅲ検出面 (第14図152～第19図188)

152～188が該当する。このうち、径が15cm以上で底板部材を竹釘で接合している6点 (152・161・167・168・186・188) は、桶か樽の底板と考えられる。この他のものは、径が小さく円板側面に側板を固定するための釘が打たれているものが多いことから曲物底板と考えられる。160・166・169・175・182の5点には、側板との接合のための竹釘が確認できた。また、円板の中心に0.1～0.2cmの小孔のあるものが11点 (155～159・162・170・179・181・184・187) みられる。また、円板の一部を桜皮で縫いとめたものが2点 (171・185) みられる。

第Ⅳ検出面 (第19図189～第20図194)

189・191には、中央部に穿孔がみられる。曲物の底板か。190は、桜皮で綴じられた箇所がみられる。194は、径17.6cmを測る大型のもので、部材2枚を竹釘2本で接合している。樽または桶の底板と考えられる。

3 蓋

第Ⅲ検出面 (第20図195～第21図197)

本体との端み合わせ部分を、段状に成形しているものである。径13～22cmを測るため、大型品の蓋と考えられる。195は、表面3箇所に桜皮の縫いとめがみられる。197は、上面から竹釘が2本打たれている。

第Ⅳ検出面 (第21図198～199)

199は、墨書のある曲物蓋である。「進上 油往入升」と記されている。201・202は、曲物柄杓の柄とみられる。

4 柄 杓 (第21図200～第22図203)

中央部が穿孔されている。200は、柄杓の側板と柄の留具である。203は曲物柄杓である。曲物容器部分は、径17.4cm、高さ14.5cm、柄の長さは130cmを測る大型品である。

5 桶 (第23図204)

204は、第Ⅲ検出面から出土した結桶である。底径32.5cm、高さ34.2cmで、側板は15枚で構成される。側板は、厚さ1.2～1.4cmの湾曲した板材で、内外面に加工痕が観察できる。口縁部を中心に被熱痕が確認できる。底板は、4枚の板材を竹釘6箇所留めて円板としている。

6 栓

ⅢⅢ検出面（第24図205～215）

11点出土した。205は、水道遺構の竹管の栓である。先端部には粗く削った工具痕がみられ、径5.3cm・長さ13.2cmを測る大きな栓である。206・207・209～215は、截頭円錐形・円錐台形を呈するものである。206・209・210～212は、頭部径が2.8～3.5cmとほぼ近似した数値で、同種の栓の可能性もある。いずれも、側面には細かな工具痕が残る。

ⅣⅣ検出面（第24図216～218）

3点出土した。216は、ほぼ円柱形、217は一端を角錐状に成形している。218は、酒樽の栓と考えられる。多角形の頭部と差し込み部の段差が丁寧に作り出されている。

7 筥（第24図219～第25図225）

ⅢⅢ検出面からは6点、ⅣⅣ検出面からは1点出土した。薄い正目材で作られ、筥部を弧状に加工し細長い柄をもつ。表面に粗い加工痕が残るもの（220・222・224）と、丁寧に仕上げられたもの（219・221）がある。柄や筥部端部は、すべて面取りされている。細い柄に半月状の筥部がつく形状から、味噌などを練ったり掬ったりする「狭七（せかい）」と考えられる。

8 杓子（第25図226～230）

ⅢⅢ検出面から5点（226～230）出土した。飯杓文字の「飯七（いいかい）」と考えられる。細い柄の先端に不整楕円形もしくは不整形の筥部がある。筥部は、ほぼ平坦に成形されている。227・228は、筥部端面を取りして丁寧に仕上げている。228は、裏面に粗い加工痕が明瞭に残る。筥部は、やや湾曲して掬いやすいように成形されている。

9 楔（第26図231～236）

ⅢⅢ検出面から2点、ⅣⅣ検出面から4点出土した。いずれも長方形の角材の片面を斜めに切断して、片刃状に成形したものである。236のみ斜面側を2段に成形している。

10 鋤先（第26図237～第28図243）

ⅢⅢ検出面より7点出土した。すべてU字形の鋤先で、刃部は残存していない。中央部には、柄を差し込む方形孔があげられている。この方形孔は、柄部が抜けないように片側が狭くなっている。先端部には、鋤先刃部の装着圧痕が明瞭に残っている。いずれの表面にも、明瞭な加工痕と使用痕が確認できる。242は、表裏面ともに加工痕が明瞭に残っているものである。片面にはハの字状に削った工具痕、もう片面には長斧状の工具で削った工具痕がみられる。

11 下駄（第28図244～第39図309）

本調査で出土した下駄は総数89点、そのうち状態の良い67点を図化した。下駄はⅠ類－連歯下駄、Ⅱ類－剃り下駄、Ⅲ類－露卯下駄、Ⅳ類－陰卯下駄、Ⅴ類－無眼下駄に分類し、下駄の台形はA（長方形）、B（長円形）に大分した（第50図：75頁）。

Ⅰ類 連歯下駄

- 1 歯が垂直に下りる
- 2 歯の前後面が傾斜している
- 3 前歯前の付根がアーチ型を呈する

Ⅱ類 剃り下駄

- 1 のめり無し
 - 1-i 台裏中央が四角く削られている
 - 1-ii 前後の歯が削り込まれている

1-iii 台の前後が斜めに削られ、中央が削り抜かれている

1-iv 後ろが独立した歯である

2 のめりがある

2-i 後ろが独立した歯である

2-ii ボックリ形で台裏が削り抜かれている

Ⅲ類 露卯下駄

1 台の断面が逆三角形である

2 台の断面は逆台形で、台裏は長方形である

3 台の断面が逆台形で、台裏は長円形である

4 台の断面が逆台形で、底面が幅広である

Ⅳ類 陰卯下駄

1 両歯とも差歯である

1-i 台の断面が逆三角形である

1-ii 台の断面は逆台形で、台裏は長方形である

2 後歯のみ差歯である

2-i 前歯が独立している

Ⅴ類 無眼下駄

鼻緒孔が無く、底部両横が三日月型に削り取られている

第Ⅱ検出面 (第9図118、第28図244・245)

点数は3点で、I・II・V類各1点が出土した。245は台の周囲に孔が開けられていた。244は『守貞万稿』に見られる草履下駄に類似(文献4)、鼻緒孔はない。118は朱漆が台表・裏に部分的に残存しており、元々は全体が朱漆塗りの下駄であった。前壺の周囲には前金と留め具の痕が残っている。前金は台裏の前緒の結び目を覆う金属製の飾りである。前金の場所だけ使用痕が見られず、前金の取れた後あまり使用されず廃棄されたと考えられる。

第Ⅲ検出面 (第28図246～第35図288)

I-A類24点、I-B類14点、II類3点、IV類2点の計44点が出土した。I類の主体はI-1で、I-2は261のみである。270は鼻緒孔を持たず、周囲に孔をあけて表がつけられたと考えられる。272・276は後歯のみ独立し、276は『守貞万稿』の堂島下駄と同形である(文献4)。歯の付根が丸型で剥かれ、前壺裏は2種類の鑿で削り取られており、城下町期の出土下駄では珍しい例である。差歯下駄はⅢ・Ⅳ類とも出土し、全て横緒孔が後歯の後ろに穿たれている。284は台裏に墨書が見られる。119には茶色の漆がわずかに残存していた。

第Ⅳ検出面 (第35図289～第39図309)

I-A類11点、I-B類7点、II類2点、IV類1点、計21点出土している。301は鼻緒孔が無く、ほぼ左右対称の位置に孔が8箇所あけられた。295・303は鼻緒孔以外に台周囲に孔があけられ、壺表が付けられていたと考えられる。下駄は1足分揃って出土する例は非常に少ないが、305・306は対とわかる例外的な例である。表面に焼印風の陰刻が施され、歯の前後面が斜めに加工されている。B類の下駄にしては幅広だが、陰刻を施す面積を確保したためとも考えられる。298・308は歯が斜めに加工されている。297はII-1-ii類で前後の歯部が台形に削り抜かれている。台と歯部の割れ目の両脇に孔をあけられ、緊いで修繕されたことがわかる。292はII-1類である。231はIV-2-1類で後歯のみ差歯の後歯下駄と呼ばれるものである。

12 その他の木製品

(1) 箸 (第39図310)

図化提示したのは310の1点のみであるが、出土量は多く100本を超える。いずれも白木で、粗く削った加工痕が明瞭に残る。箸の長さは、25～30cmの範囲に収まる。漆塗りの箸は、出土していない。

(2) 木 槌 (第40図315・316)

Ⅲ検から315、Ⅳ検から316の2点が出土した。柄部と敲打部の段が明瞭である。敲打部には、使用痕とも考えられる欠損・摩滅が明瞭に観察できる。

(3) 膳 (第39図314)

破片資料ではあるが、膳縁部の側板と脚部が確認できる。復元すると幅28cm前後の膳と推定される。厚さ0.5cmの板材に縁部側板と脚部を接合している。縁部側板は、膠のような接着剤で接合し、竹釘で留めている。脚部は、膳溝を彫って膠のような接着剤で接合し、竹釘で打ち留めている。漆は塗られていないが、表裏全面に柿渋のようなものが塗られ、褐色を呈している。表面から強く叩かれた痕跡が確認でき、意図的に破砕した可能性も考えられる。

(4) 人形代 (第40図317・318)

Ⅲ検から2点(317・318)が出土した。317は、鼻・口・頸部が削り出されている。全体的に、加工痕が目立つ。顔面は、鼻と口が削り出されているが、目が表現されていない。318は、烏帽子を被った姿が削り出されている形代である。全面に細かな加工痕が明瞭に残る。目・鼻・口の顔の表現も削り出されている。裏面に切り込みが2箇所残り、下端部は細く尖らせている。2点ともに廃棄土坑からの出土である(註1)。

(5) 独 棗 (第40図319)

Ⅲ検から1点出土した。径4.0cm、高さ5.9cmを測る。上端部側面には、樹皮が残っている。上面は、径1.9cmほど膨り窪めてあり、中心部に心棒状の突起が残る。下半部は円錐形に成形され、下端は著しく摩滅しており使用痕と考えられる。

(6) 砥石台 (第40図320・321)

320は長さ13.4×幅2.6×深さ1.5cmの溝が彫られ、この中に砥石が設置されている。砥石は、長さ9.4×幅1.9×厚さ2.0cmで、小口面以外の4面に砥面が確認できることから、砥石台に設置された置砥とみられる。この砥石は、薄い黄緑色をした比較的軟らかい流紋岩質凝灰岩製で、小口部分に僅かに歯状化粧ハツリ(通称ゴザ目)が観察できることから、上野砥沢産(群馬県甘楽郡南牧村砥沢)の可能性が高い。砥石台は、砥石設置部分から長さ12.5cmの板面が延びるが、研磨時の固定に使われるものと考えられる。砥石設置部には鋸引きの溝が観察できるが、砥石を出し入れする際のおそび部分として施されたものであろう。321も砥石台と考えられる。片側端が欠損しているが、中央部分に長さ19.1以上×幅3.6×深さ1.3cmの溝が彫り窪められている。

(7) 箒 (第41図322)

棕櫚を細い縄状にし、それを7箇所編んでまとめているものである。幅12.0×厚さ2.0cmで、柄部はみられない。廃棄土坑からの出土である。

(8) 男根状木製品 (第41図324)

長さ46.3cm、径9.9cmを測る。頭部には、粗い加工痕が明瞭に観察できる。下端部には、孔が穿たれており、孔周辺は摩滅が著しい。木取りは、芯もち丸太材である。井戸から出土していることから、中世の絵画資料にみられる井戸上屋にかけられていた陽物の可能性も考えられる。広島県草戸千軒町遺跡に類似が多い。

(9) 文字資料 (第41図325～第43図334・第41図372)

墨書・焼印等のある資料は、8点出土した。325は、表裏両面に墨書がみられる。上部左右両側木口には

切り込みが入られているため、荷札木簡の可能性がある。文字は、「手代□□□門」「板□□□□（三次郎カ）」と判読できる。326は、上部に径2mmほどの穴が穿たれている。墨書は片面のみで中央部には「松」の焼印がある。文字は、欠損部分が多く判読不明である。327は、右半部が欠損している。「能勢覚兵衛」と判読可能か。享保十三年（1728）の絵図によれば、今回調査地から北へ2軒目に能勢覚兵衛が居住している。328は、右側木口端部が欠損し、左端中央部には径3mmの穴があげられている。文字は、「[] 小野商店 第九三〇」とあるため、近代の所産となる可能性が高い。329は、表面に「人足老人」の墨書、裏面に焼印が押されている。上部中央には、径6mmの穴があげられ、木口端部および四隅端部の縁が面取りされている。墨書内容と形態から人足札と考えられる。330は、下端を鋭利に加工しており、右側木口端部は欠損している。文字は、表面に「宮□□（島豊カ）右衛門行」、裏面は不明である。上端部には、木口方向から竹釘が打たれている。中央右側には、釘が打ち込まれたと考えられる径3mmの穴があいている。形態から、荷札木簡の可能性が考えられる。331は、片面に墨書がみられる。文字は、「三浦喜左衛門」と判読できる。宝永4（1707）に作成された「水野家中禄」の中に同人名が載っている。334は、水道ジョイント（継ぎ手）である。底面に墨書が認められる。文字の解釈は、「弘化三 丙午年 □ 九月十日 下□ 孫□」とした。弘化三（1846）年は丙午年である。五行説では、丙は火の兄、午は正南であるので、丙午年には火災が多く、この年生まれ的女性は夫を殺すという迷信がある。この年に、上水道を敷設したということも意味があるかもしれない。372は、刷毛である。表には「安政五戊午年 宇野」、裏面は「安 八月四日 □□」と書かれている。嘉永七年（1854）の絵図（写真図版38）には、調査箇所に宇野傳衛門という武士が居住していたことから、出土資料と絵図資料が一致した好事例となった。

(10) その他（種別不明品）（第46図340～第48図371）

344は、厚さ0.6cmの板材であるが、上方は山形に成形され幅0.3cmの溝が彫られている。349は、径8.8cmの球状を呈するものである。中心部分には、径1.5cmの穴があげられている。359は、厚さ0.8cmの薄い板材であるが、片面には「イ 大」という文字が彫り込まれている。365は、籠状の木製品である。端部には、工具痕が明瞭に観察できる。縁も、工具により面取りされている。369は、円板状の木製品である。やや隅丸方形の形態で、中心部に径4mmの穴があげられている。片面には、墨で円状の模様が描かれている。

<参考文献> 1986 寺島良安 著 島田勇雄・竹島勇雄・樋口元巳 訳注者 『和漢三才図会』 平凡社

註1：12（4）で人形代として報告したものについて、竹原学氏より七夕人形の可能性もあるとのご指摘を受けた。

第1表 漆器観察表

図No.	地区 検出面	遺構名	整理番号	器種分類	手法	長さ・口径 (cm)	幅 (cm)	高さ・底径・高さ (cm)	備考
1	A-II	検	A-279	碗	柁目			底径5.5	内外面下地・上塗りともに黒漆。
2	A-II	検	A-278	碗	柁目	12.2			内外黒漆塗り。
3	A-II	検	A-280	碗	柁目	11.5		高台5.8・高5.1	内面朱、外面黒漆。腰部に面取り。体部上位に突帯あり。
4	A-II	検	A-292	碗	柁目				内外黒漆。
5	A-II	検	A-277	碗	柁目				内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。外面に朱漆と黒漆で紋様。
6	A-III	池伏遺構	A-350	碗	柁目				内外黒漆塗り。
7	A-III	池伏遺構	A-294	碗	柁目				内面朱漆、外面黒漆。外面全体に金蒔絵で紋様あり。秋草(紅葉)紋様か。
8	A-III	土 301	A-320	碗	柁目	12.8		底径6.1	内外面黒漆の下塗りに朱漆。高台端部摩滅により、下地の黒漆露出。
9	A-III	土 301	A-314-1	碗	柁目				内外面黒漆の下塗りに朱漆。
10	A-III	土 301	A-314-2	碗	柁目				内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。外面3個体の紋様あり。
11	A-III	土 301	A-313	碗	柁目			底径6.0	内外面黒漆の下塗りに朱漆。腰部に強い稜あり。
12	A-III	井戸 301	A-311	碗	柁目				内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆塗り。
13	A-III	土 417	A-308	碗	柁目	11.8		底径5.6・高4.7	内面朱漆、外面黒漆。外面に朱漆で巴紋あり。(単位不明)
14	A-III	溝 301	A-363	碗	柁目				内面下地黒漆に朱漆、外面黒漆。
15	A-III	南東木樋	A-296	碗	柁目			高台7.0	内外黒漆、外面に朱漆で紋様あり。
16	A-III	土 430	A-334	碗	柁目	11.8			内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。外面に朱漆と蒔絵で朝顔紋様。
17	A-III	土 430	A-359	碗	柁目			底径7.0	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。
18	A-III	土 336	A-330	碗	板目				内面朱漆、外面黒漆。
19	A-III	土 336	A-348	碗	柁目				内外面黒漆。腰部に面取りあり。
20	A-III	土 336	A-310	碗	柁目	12.2		底径6.5・高4.4	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。外面3箇所に竹釘打たれている。
21	A-III	土 336	A-304	碗	柁目	12.0		底径5.7・高8.6	内面朱漆、外面へ口唇部黒漆塗り。腰部・体部中位に稜あり。
22	A-III	土 416	A-287	碗	柁目	10.8		底径4.7・高7.4	内面黒漆下塗りに朱漆、外面黒漆に金蒔絵紋様(2~3単位)。
23	A-III	土 340	A-293	碗	柁目			底径(4.7)	内面朱、外面黒漆。外面に松紋様3箇所
24	A-III	竹 301	A-352	碗	板目				内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。
25	A-III	土 362	A-331	碗	板目				内外面黒漆の下塗りに朱漆、底裏のみ黒漆。
26	A-III	土 402	A-355	碗	板目	14.0		底径6.0・高7.0	内外黒漆。底部二次的加工による穿孔あり。
27	A-III	土 419	A-298	碗	柁目			底径7.8	内外面黒漆塗り。底裏に篆刻あり。
28	A-III	土 352	A-321	碗	柁目			底径6.6	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。
29	A-III	土 430	A-303-2	碗	柁目	14.0		底径6.2・高8.5	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。底裏に線刻あり。
30	A-III	土 430	A-302	碗	柁目				内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。紋様なし。

図No.	地区 検出面	遺構名	整理番号	器種分類	手法	長さ・口径 (cm)	幅 (cm)	厚さ・底径・高さ (cm)	備 考
31	A-Ⅲ	土 430	A-344	碗	柱目			底径7.0	内外黒漆。
32	A-Ⅲ	埴 302	A-307	碗	柱目	15.2			内・外朱漆、口縁端部のみ黒漆。内面に黒漆で紋様あり。
33	A-Ⅲ	土 368	A-346	碗	柱目				内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。外面体部に朱漆の紋様あり。
34	A-Ⅲ	土 352	A-336	碗	柱目	13.1		底径6.0・高5.6	内面朱漆、外面黒漆。漆膜薄く、木地の木目が観察可。
35	A-Ⅲ	土 341	A-345	碗	板目			底径(5.6)	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。被熱痕あり。
36	A-Ⅲ	検出面	A-347	碗	柱目	11.2			内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。
37	A-Ⅲ	検出面	A-356	碗	柱目				内外黒漆。底裏に朱漆で文字。柱状高台。
38	A-Ⅲ	検出面	A-319	碗	柱目			底径6.3	内面黒漆下塗りに朱漆、外面黒漆。外面1箇所に竹釘孔あり。
39	A-Ⅲ	検出面	A-305	碗	柱目				内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。
40	A-Ⅲ	検出面	A-342	碗	柱目				内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。
41	A-Ⅲ	検出面	A-316	碗	柱目				内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。小型碗。
42	A-Ⅲ	北西隅トレンチ	A-290	碗	柱目			底径(7.1)	内外黒漆。
43	A-Ⅲ	検出面	A-323	碗	柱目				内面黒漆下塗りに朱漆、外面黒漆。外面朱漆による紋様あり(単位不明)。
44	A-Ⅲ	検出面	A-338	碗	柱目	12.2			内面朱漆、外面黒漆。口縁厚減。
45	A-Ⅲ	検出面	A-364	碗	柱目			底径(4.8)	内外面黒漆塗り。
46	A-Ⅲ	検出面	A-335	碗	柱目				内外面黒漆の下塗りに朱漆。体部外面に松紋様。
47	A-Ⅲ	検出面	A-358	碗	板目			底径(5.8)	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。体部外面に松紋様白濁して残存。
48	A-Ⅲ	検出面	A-337	碗	柱目				内外黒漆。底裏に朱漆で「玉羅仕人」の文字あり。
49	A-Ⅲ	検出面	A-341	碗	柱目			底径(5.5)	内面朱漆、外面黒漆。
50	A-Ⅲ	検出面	A-283	碗	柱目			底径5.7	内外面黒漆の下塗りに朱漆。
51	A-Ⅲ	検出面	A-312	碗	柱目				内外面黒漆の下塗りに朱漆。
52	A-Ⅲ	検出面	A-306	碗	柱目			底径5.6	内面黒漆下塗りに朱漆、外面朱漆下塗りに黒漆塗り。外面に金彩で巴紋。
53	A-Ⅲ	検出面	A-284	碗	柱目			底径6.8	内外黒漆
54	A-Ⅲ	検出面	A-360	碗	柱目			底径7.7	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆2度塗り。外面に笹紋3単位(金彩・朱漆)
55	A-Ⅲ	検出面	A-301	碗	柱目	14.9		底径5.6・高7.7	内外面黒漆塗り。
56	A-Ⅲ	検出面	A-343	碗	柱目	10.4		底径5.3・高7.2	
57	A-Ⅲ	検出面	A-353	碗	柱目				内外面黒漆。線刻あり。
58	A-Ⅲ	検出面	A-332	碗	柱目				内外黒漆。
59	A-Ⅲ	検出面	A-299	碗	柱目	14.8		底径6.8・高10.2	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。底裏に「人」文字線刻あり。
60	A-Ⅲ	検出面	A-282	碗	柱目	14.2		高台7.6・高9.4	内外黒漆。高台高い。底裏に線刻あり。
61	A-Ⅲ	検出面	A-300	碗	柱目			底径6.7	内外黒漆。高台高い。

図No.	地区 検出面	遺構名	整理番号	器種分類	手法	長さ・口径 (cm)	幅 (cm)	厚さ・底径・高さ (cm)	備考
62	A-IV	土 521	A-376	椀	砥目			底径5.8	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。外面体部に朱漆で紋様。
63	A-IV	ビット 668	A-378	椀	砥目			底径6.3	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。外面体部に紋様3箇所。
64	A-IV	土 588	A-377	椀	砥目			底径6.5	内外面とも黒漆2度塗り。底裏に朱漆で文字あり。
65	A-IV	溝 502	A-374	椀	砥目			底径7.0	内外面黒漆2度塗り。内外面朱漆で紋様あり。
66	A-IV	土 521	A-375	椀	砥目	11.4		底径4.7・高4.2	内外面黒漆の下塗りに朱漆。底裏のみ黒漆で「昌」の文字あり。非常に丁寧な塗り。
67	A-IV	検出面	A-372	椀	砥目			底径4.9	内外面黒漆の下塗りに、朱漆。腰縁に明漆な装あり。
68		排土	A-397-1	椀	砥目				内外面黒漆塗り。
69		排土	A-397-2	椀	砥目	13.0		底径6.4・高4.1	内外面黒漆塗り。外面金鈿絵の紋様。
70		排土	A-398	椀	砥目			底径8.4	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。
71		排土	A-396	椀	砥目				内面:朱漆の上に黒漆を塗り、筋状に削っている。外面:黒漆に朱漆で南天紋様。
72	A-II	検出面	A-281	蓋	砥目			つまみ5.6	内外黒漆2度塗り。つまみ内側に一部朱漆で紋様の痕跡あり。
73	A-III	土 415	A-357	蓋	砥目			つまみ5.2	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。外側側面に朱漆による紋様3箇所あり。
74	A-III	池伏遺構	A-351	蓋	砥目				内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。
75	A-III	土 416	A-333	蓋	砥目	11.5		つまみ5.4	内外面黒漆塗り。
76	A-III	池伏遺構	A-361	蓋	砥目			つまみ(4.8)	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。
77	A-III	検出面	A-349	蓋	砥目	12.0		つまみ5.4	内外朱漆。
78	A-III	検出面	A-285	蓋	砥目	11.6		つまみ5.8	内外面黒漆の下塗りに朱漆塗り。
79	A-III	西端トレンチ	A-297	蓋	砥目	11.5		つまみ7.6・高3.6	内外黒漆、外面菊花紋(花卉先端部に金彩、葉は緑色)
80	A-III	検出面	A-317	蓋	砥目			つまみ4.5	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。外側側面に3箇所、天井部つまみ内側に2箇所紋様(三つ盛亀甲に花菱紋)あり。
81	A-III	土 408	A-309	蓋	砥目				内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。外側側面から天井部に金鈿絵紋様。
82	A-II	検	A-340	皿	砥目	12.4		底径6.0・高2.2	口唇部のみ黒漆塗り。内側は放射状の加飾(中山漆器の加飾挽き技法で、松種目筋と考えられる)。ヒノキ材。
83	A-III	土 340	A-365	皿	砥目			底径8.0	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆2度塗り。
84	A-III	土 362	A-329	皿	砥目	10.9		底径6.3・高4.3	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。外面に笹竹・松紋様。
85	A-III	土 430	A-354	皿	砥目			底径6.0	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。
86	A-III	土 435	A-47	曲物	板材(砥目)	23.1	1.8	厚さ0.2	表面黒漆塗、A-48と接合。
	A-III	土 435	A-48	曲物	板材(砥目)	17.3	3.1	厚さ0.2	表面黒漆塗、A-47と接合。
87	A-III	検出面	A-162	曲物	板材(砥目)			厚さ0.3・高5.0	黒漆塗り。径実測不可。
88	A-III	土 336	A-291	杓子	砥目			底径5.1	内外面黒漆の2度塗り。体部側面に柄の接合痕(方形の彫り込みに竹釘4箇所)あり。器面に工具痕跡。

図No.	地区 検出面	遺構名	整理番号	器種分類	手法	長さ・口径 (cm)	幅 (cm)	厚さ・底径・高さ (cm)	備 考	
89	A-Ⅲ	土 416	A-295	杓子か	柱目			底径12.4・高3.4	内外面黒漆の下塗りに朱漆塗り。柄の取り付け穴あり(2次加工)。	
90	A-Ⅲ	土 430	A-328	杓子か	柱目	11.9			内面黒漆の下地塗りに朱漆、外面黒漆に朱漆で松葉紋様。底部に四角形の彫り込みに竹釘が打たれている。	
91	A-Ⅲ	検出面	A-286	杓子	柱目	(8.3)	6.9	厚さ0.5	彫部内面は黒漆の下塗りに朱漆、外面は黒漆。	
92	A-Ⅳ	土 597	A-370	杓子	板材(板目)	(13.2)	5.8	厚さ1.7	彫部内面黒漆の下地塗りに朱漆、外面黒漆塗り。柄部は黒漆塗り。	
93	A-Ⅳ	溝 502	A-453	杓子	角材(柱目)	(21.5)	11.2	厚さ1.8	全面に黒漆塗り。柄部欠損。	
94	A-Ⅱ	検	A-2	円板	板材(柱目)			厚さ1.0・径23.1	表裏面ともに黒漆塗り。	
95	A-Ⅲ	土 450	A-127	円板	板材(柱目)			厚さ0.4・径7.1	表裏面ともに黒漆塗り。	
96	A-Ⅲ	池状遺構	A-150	円板	板材(板目)			厚さ1.6・径23.4	A-150・A-151と接合、黒漆塗り。桜木皮4箇所あり。	
97	A-Ⅲ	土 301	A-136	円板	板材(柱目)			厚さ1.3・径22.8	部材接合竹釘穴2箇所あり。表裏側面黒漆塗り。	
98	A-Ⅲ	土 301	A-87	円板	板材(柱目)			厚さ0.7・径8.0	表裏面ともに黒漆塗り。	
99	A-Ⅲ	土 342	A-132	円板	板材(柱目)			厚さ1.0・径31.0	部材接合竹釘穴2箇所、裏裏黒漆塗り。	
100	A-Ⅲ	土 342	A-131	円板	板材(柱目)			厚さ0.8・径11.6	1/2欠損、径0.2cmの穴、片面に漆塗り。	
101	A-Ⅲ	検出面	A-57	円板	板材(柱目)			厚さ0.7・径8.1	表裏面とも黒漆塗り。	
102	A-Ⅲ	検出面	A-81	円板	板材(柱目)			厚さ1.1・径24.8	部材接合のための竹釘穴(径0.3cm)2箇所、裏面黒漆塗り。	
103	A-Ⅲ	検出面	A-163	円板	板材(柱目)			厚さ1.2・径15.5	A-164と接合、黒漆塗り。	
104	A-Ⅲ	検出面	A-164	円板	板材(柱目)				黒漆塗り。	
105	A-Ⅲ	検出面	A-97	円板	板材(柱目)			厚さ1.0・径17.2	側面木口径0.3の竹釘穴4箇所、黒漆塗り。	
106	A-Ⅳ	土 543	A-460	円板	板材(柱目)			厚さ1.5・径18.5	周囲に輪がめぐり、固定のための釘6箇所あり。表面黒漆塗り。裏面まで貫通する穴12箇所あり。	
107	A-Ⅳ	井戸 501	A-221	円板	板材(柱目)			厚さ0.7・径8.0	表裏面ともに黒漆塗り。	
108	A-Ⅲ	土 430	A-303-1	杯	柱目	10.3		厚さ0.9・径26.6	表面黒漆塗り。把手接合痕があるため、樽の蓋と考えられる。	
109	A-Ⅲ	溝 301	A-149	杓子の留目	角材(板目)	12.0	2.7	底径3.0・高4.0	厚さ1.4	内面黒漆の下塗りに朱漆、外面黒漆。腰部に加工痕あり。
110	A-Ⅱ	井戸 8	A-6	箸	不明	24.8		厚さ1.4	黒漆塗り、径0.5cmの穴1箇所。	
111	A-Ⅲ	検出面	A-141	棒類	丸太材(芯持ち)	29.7		径3.0	朱漆塗り。	
112	A-Ⅳ	検出面	A-454	膳	板材(柱目)	26.0	3.3	厚さ0.7		
113	A-Ⅲ	土 336	A-271	膳の脚か	角材(柱目)	6.9	5.7	厚さ1.8	黒漆塗り、接合部には差込のための溝が彫られ、接着材とみられる付着物あり。	
114	A-Ⅳ	土 589	A-274	箱類の蓋か	角材			厚さ0.7	A-7・8と接合	
114	A-Ⅲ	検出面	A-7	箱類の蓋か	板材(柱目)	26.2	9.9	厚さ0.7	A-8,274と接合、黒漆塗り。	
114	A-Ⅲ	検出面	A-8	箱類の蓋か	板材(柱目)			厚さ0.7	A-7,274と接合、黒漆塗り。	
115	A-Ⅲ	検出面	A-17	蓋	板材(柱目)	20.7		厚さ0.9	表裏黒漆塗り(重塗り)、曲物か桶の蓋。	
116	A-Ⅲ	土 336	A-76	蓋	板材(柱目)	14.9		厚さ1.2	表裏黒漆塗り、曲物の蓋か。	
117	A-Ⅲ	土 301	A-53	蓋	板材(柱目)			厚さ0.9・径14.9	表裏面ともに黒漆塗り。曲物の蓋か。	
118	A-Ⅱ	井戸 9	A-499	下駄	板材(柱目)	14.9	8.2	厚さ2.0	朱漆	
119	A-Ⅲ	検出面	A-272	差歯下駄	角材(柱目)	20.4	8.7	厚さ6.2	表面は茶漆、裏面は黒漆。(歯の側面にも黒漆)	

図No.	地区 検出面	遺構名	整理番号	器種分類	手法	長さ・口径 (cm)	幅 (cm)	厚さ・底径・高さ (cm)	備考
120	A-IV	検出面	A-66	灯明台か?	板材(柱目)	11.9	5.0	厚さ1.2	黒塗装、中央に切込みあり。縁は面取り。
121	A-III	検出面	A-32	短刀類の柄	柱目	20.3	2.4	厚さ2.2	黒塗装。刃部差込溝あり。
122	A-III	土 407	A-399	餐匱	柱目			底径19.4	全面黒漆2度塗り。突手2箇所。底部・口縁部欠損。
123	A-III	土 416	A-339	餐匱(把手)	角材(柱目)				黒塗装。餐匱の耳部。
124	A-III	検出面	A-35	不明	板材(柱目)	8.9	2.7	厚さ0.8	
125	A-IV	土 597	A-452	櫛	板材(柱目)	(5.1)	(3.8)	厚さ0.5	下地黒漆に朱塗装。部分的に金箔あり。
126	A-II	検	A-1	不明	不明	20.0	4.8	厚さ0.6	表面黒漆、裏面黒漆の下塗りに朱漆。
127	A-III	土 424	A-19	不明	板材(板目)	25.8	2.3	厚さ0.7	表面黒漆、裏面朱塗装。0.2~0.3cmの穴2箇所。
128	A-III	土 424	A-23	不明	板材(柱目)	19.2	(7.1)	厚さ0.6	表面黒漆塗、裏面朱漆塗り。端部面取り加工。
129	A-III	溝状遺構	A-270	不明	角材(柱目)	16.8	1.1	厚さ1.0	黒塗装、片端は漆なし。
130	A-III	竹 301	A-43	不明	板材(板目)	13.8	1.7	厚さ0.6	表面黒漆、裏面朱塗装、径0.2cmの穴2箇所。
131	A-III	土 351	A-82	不明	竹材	19.1	3.6	厚さ1.1	樽状、黒漆(部分)付着。節は工具により抜いている。
132	A-III	土 416	A-52	不明	板材(柱目)	(18.6)	3.2	厚さ0.5	黒塗装
133	A-III	土 362	A-39	不明	板材(柱目)	14.2	3.2	厚さ0.7	黒塗装、径0.1~0.5cmの穴6箇所
134	A-III	検出面	A-138	不明	板材(柱目)	21.8	2.2	厚さ0.7	黒塗装、径0.3cmの穴4箇所。
135	A-III	検出面	A-9	不明	板材(板目)	18.6	4.8	厚さ0.7	表面黒漆、裏面朱漆。
136	A-III	土 368	A-22	不明	板材(板目)	9.5	2.1	厚さ1.1	黒塗装、0.4cmの穴1箇所。
137	A-III	検出面	A-37	不明	不明			厚さ0.4・径2.2	黒塗装
138	A-III	検出面	A-44	不明	板材(柱目)	(5.1)	(3.7)	厚さ0.7	表面黒漆2度塗り、裏面黒漆下塗りに朱塗装。
139	A-III	検出面	A-42	不明	板材(板目)	13.3	2.1	厚さ1.0	3面に黒塗装、裏面には漆なし。
140	A-III	検出面	A-109	不明	板材(柱目)	24.2	0.8	厚さ0.4	切込み1箇所あり、黒塗装。
141	A-III	排土(検出面)	A-18	不明	板材(柱目)	19.9	9.8	厚さ0.6	表面黒漆、裏面黒漆の下塗りに朱漆。
142	A-IV	土 543	A-461	不明	板材(柱目)	16.6	8.4	厚さ0.6	黒漆塗り。0.2~0.3cmの穴4箇所あり。楕円形の曲物の蓋か。
143	A-IV	排土(検出面)	A-71	不明	板材(柱目)	12.2	4.6	厚さ3.8	黒漆塗、上面・側面に金粉絵で巴菱絵。陣中道具の手持掛か刀掛の脚部に類似。
144	A-IV	排土(検出面)	A-276	不明	板材(柱目)	27.6	2.0	厚さ0.6	竹釘跡5箇所(蓋カエリ部分の接合)、黒漆の下塗りに朱漆。

第2表 木製品観察表

図No.	地区 検出面	遺構名	整理番号	器種分類	手法	長さ・口径 (cm)	幅 (cm)	厚さ・底径・高さ (cm)	備 考
145	A-II	検	A-250	曲物	板材(楕目)			厚さ0.4・高(2.9)	椀皮で縫いとめ
146	A-II	検	A-251	曲物	板材(楕目)			厚さ0.4・高(5.0)	下端1箇所(鉄釘打ち込んだ痕跡あり(底板との接合のためか))
147	A-III	土 336	A-61	曲物	板材(楕目)	15.2		厚さ0.7・高8.5	椀皮留穴13箇所あり、下端5箇所に底板との接合穴5箇所あり
148	A-III	土 336	A-31	曲物	板材(楕目)	18.5		厚さ0.4・高6.7	椀皮で縫いとめ、径0.7cmの穴1箇所(柄を差し込んでとめた可能性あり、柄杓か)
149	A-III	検出面	A-165	曲物	板材(楕目)	(13.5)		厚さ0.2・高2.6	椀皮で縫いとめ
150	A-III	検出面	A-167	曲物	板材(楕目)			厚さ0.4・高5.3	径実測不可、椀皮で縫いとめ
151	A-III	検出面	A-161	曲物	板材(楕目)			厚さ0.6・高7.2	径実測不可、椀皮で縫いとめ、柄を通したと考えられる方形穴あり(柄杓の可能性大)
152	A-III	溝 301	A-95	円板	板材(楕目)			厚さ0.8・径42.2	樽・桶の底か
153	A-III	溝 301	A-110	円板	板材(楕目)			厚さ0.4・径7.9	
154	A-III	溝 301	A-96	円板	板材(楕目)			厚さ0.6・径9.3	
155	A-III	井戸 309	A-90	円板	板材(楕目)			厚さ0.3・径(5.3)	中心に径0.1cmの穴
156	A-III	井戸 309	A-93	円板	板材(楕目)			厚さ0.4・径(5.4)	中心に径0.1cmの穴
157	A-III	井戸 309	A-92	円板	板材(楕目)			厚さ0.4・径5.6	中心に径0.1cmの穴
158	A-III	井戸 309	A-112	円板	板材(楕目)			厚さ0.3・径6.1	中心に径0.2cmの穴あり
159	A-III	井戸 309	A-91	円板	板材(楕目)			厚さ0.4・径6.1	中心に径0.1cmの穴
160	A-III	池状遺構	A-85	円板	板材(楕目)			厚さ0.7・径13.5	側面径0.3cmの穴2箇所(側板接合固定のものと推定)
161	A-III	土 301	A-134	円板	板材(楕目)			厚さ1.5・径(26.2)	部材接合の竹釘穴3箇所あり、樽か桶の底板か
162	A-III	土 336	A-73	円板	板材(楕目)			厚さ1.4・径9.7	3箇所に0.1~0.2cmの穴あり(うち1箇所は貫通)
163	A-III	土 336	A-75	円板	板材(楕目)			厚さ0.7・径(12.8)	1/3欠損
164	A-III	土 336	A-72	円板	板材(楕目)			厚さ1.0・径13.9	
165	A-III	土 336	A-129	円板	板材(楕目)			厚さ1.0・径17.5	被熱痕あり
166	A-III	土 336	A-130	円板	板材(楕目)			厚さ0.8・径14.6	1/2欠損、周囲に竹釘穴5箇所あり
167	A-III	土 416	A-115	円板	板材(楕目)			厚さ1.2・径(17.2)	樽・桶の底か
168	A-III	土 362	A-117	円板	板材(楕目)			厚さ1.0・径15.9	板材部接合の竹釘穴(径0.3cm)4箇所、樽の底板か
169	A-III	土 342	A-212	円板	板材(楕目)			厚さ1.1・径(30.0)	部材接合の竹釘4箇所、被熱痕あり、樽か桶の底板か
170	A-III	土 430	A-158	円板	板材(楕目)			厚さ0.5・径9.0	
171	A-III	土 430	A-152	円板	板材(楕目)			厚さ0.7・径9.6	椀皮縫い留め痕1箇所あり
172	A-III	土 430	A-155	円板	板材(楕目)			厚さ0.7・径12.7	
173	A-III	竹 301	A-137	円板	板材(楕目)			厚さ1.0・径13.7	縁部分面取り加工
174	A-III	土 435	A-213	円板	板材(楕目?)			厚さ0.3・径6.6	1/2欠損
175	A-III	土 351	A-83	円板	板材(楕目)			厚さ1.0・径15.4	側面に竹釘穴(径0.2cm)4箇所(側板固定用か)
176	A-III	土 416	A-114	円板	板材(楕目)			厚さ1.1・径9.3	
177	A-III	検出面	A-128	円板	板材(楕目)			厚さ0.5・径(13.3)	1/2欠損
178	A-III	検出面	A-119	円板	板材(楕目)			厚さ0.7・径(13.0)	

図No.	地区 検出面	遺構名	整理番号	器種分類	手法	長さ・口径 (cm)	幅 (cm)	厚さ・底径・高さ (cm)	備 考
179	A-III	検出面	A-86	円板	板材(柱目)			厚さ0.7・径(9.2)	中心部に0.2cmの穴あり
180	A-III	検出面	A-108	円板	板材(板目)			厚さ0.9・径7.6	
181	A-III	検出面	A-98	円板	板材(板目)			厚さ1.0・径9.3	中心に径0.3cmの穴あり
182	A-III	検出面	A-106	円板	板材(柱目)			厚さ0.8・径8.9	竹釘穴(0.2~0.3cm) 4箇所あり
183	A-III	検出面	A-77	円板	柱目			厚さ1.3・径30.2	
184	A-III	検出面	A-113	円板	板材(柱目)			厚さ0.9・径10.4	中心に1.0×0.7cmの穴、裏面に刃物による傷が数本
185	A-III	検出面	A-78	円板	板材(柱目)			厚さ0.6・径11.4	留皮1箇所
186	A-III	検出面	A-121	円板	板材(板目)			厚さ1.3・径(31.2)	樽の底板か
187	A-III	検出面	A-80	円板	板材(板目)			厚さ0.8・径13.1	中央部に0.1cmの穴あり
188	A-III	検出面	A-84	円板	板材(柱目)			厚さ2.6・径29.9	竹の留釘4箇所、3枚の部材を接合、樽の底板か
189	A-IV	土 545	A-214	円板	板材(柱目)			厚さ0.7・径4.6	中心に凹込みあり
190	A-IV	土 589	A-275	円板	板材(柱目)			厚さ0.7・径(9.3)	中央に留皮(板皮)あり
191	A-IV	土 589	A-273	円板	板材(板目)			厚さ1.0・径9.3	中央に0.1cmの穿孔あり
192	A-IV	土 597	A-68	円板	板材(柱目)			厚さ0.9・径13.0	
193	A-IV	土 543	A-459	円板	板材(柱目)			厚さ1.2・径17.2	煤付着
194	A-IV	土 560	A-218	円板	板材(板目)			厚さ1.0・径17.6	2箇所に竹釘打ち、部材2枚を接合。樽・樽の底か
195	A-III	土 342	A-133	蓋	板材(柱目)			厚さ0.9・径13.3	板皮留3箇所、竹釘(側面4箇所・表面2箇所)、本体とのかみ合せ部段状成形
196	A-III	検出面	A-79	蓋	板材(柱目)			厚さ1.5・径16.3	本体とのかみ合せ部は段状に成形
197	A-III	土 336	A-74	蓋	板材(柱目)			厚さ1.3・径22.2	径0.3cmの穴2箇所
198	A-IV	土 597	A-488	蓋	板材(板目?)			厚さ0.4・径14.3	墨書あり(文字不明)
199	A-IV	排土	A-484	蓋	板材(柱目)			厚さ0.6・径11.4	墨書「進上油漚入研」
200	A-III	検出面	A-166	柄杓	板材(柱目)			厚さ0.2・高4.3	留具付、係実測不可
201	A-IV	土 543	A-465	柄杓の柄	角材(柱目)	47.2	2.2	厚さ1.1	先端細く穴あり
202	A-IV	方形土列	A-216	柄杓の柄	角材(柱目)	47.7	1.9	厚さ1.0	
203	A-III	検出面	A-425	肥柄杓?					
204	A-III	桶 303	A-507	桶	板材(柱目)	(35.5)		底径(33.6)・高(34.2)	被熱痕、タガの跡側板底部に使用痕
205	A-III	竹 301	A-102	栓	丸太材(苧持ち)			径5.2・高13.4	下端工具痕明瞭
206	A-III	池状遺構	A-33	栓	角材(板目)			径3.5・高3.7	全面に粗い工具痕あり、敲打痕あり
207	A-III	土 301	A-103	栓	角材(柱目)			径4.3・高10.1	
208	A-III	土 430	A-104	栓	丸太材(苧持ち)			径5.4・高6.1	上下端に面取り加工
209	A-III	土 415	A-124	栓	角材(板目)			径2.8・高5.8	下端1/2に使用痕あり
210	A-III	池状遺構	A-34	栓	角材(板目)			径2.9・高3.9	上下端に摩滅痕
211	A-III	土 702	A-49	栓	角材(板目)			径3.1・高2.5	下端使用痕あり、全面に粗い加工痕あり
212	A-III	検出面	A-122	栓	角材(板目)			径3.0・高3.4	下端1/4使用痕あり、細かな加工痕あり
213	A-III	検出面	A-45	栓	角材(板目)			径4.1・高7.9	上端に使用痕あり
214	A-III	検出面	A-99	栓	角材(板目)			径2.4・高5.8	
215	A-III	検出面	A-120	栓	角材(柱目)			径2.4・高12.8	工具痕明瞭

図No.	地区 検出面	遺構名	整理番号	器種分類	手法	長さ・口径 (cm)	幅 (cm)	厚さ・底径・高さ (cm)	備 考
216	A-IV	土 597	A-468	栓	角材(板目)			径4.3・高7.4	下端使用痕あり、加工痕明瞭
217	A-IV	土 543	A-466	栓	角材(板目)			径4.9・高8.7	上部四角錐状、工具痕明瞭
218	A-IV	土 543	A-463	栓	角材(板目)			径5.3・高10.0	工具痕明瞭
219	A-III	土 402	A-50	籠	板材(板目)	24.7	2.1	厚さ0.5	先端部使用痕あり
220	A-III	土 435	A-111	籠	板材(板目)	19.9	3.2	厚さ0.4	工具痕明瞭
221	A-III	土 435	A-148	籠	板材(板目)	18.1	3.2	厚さ0.3	被熱痕あり、籠部明瞭な加工痕あり。柄部分は面取り加工。
222	A-III	検出面	A-107	籠	板材(板目)	(11.3)	1.8	厚さ0.4	籠部工具痕明瞭
223	A-III	池伏遺構	A-38	籠	板材(板目)	(14.3)	4.2	厚さ0.4	柄部欠損、籠部に使用痕あり
224	A-III	排土	A-58	籠?	板材(板目)	29.1	(8.4)	厚さ1.1	
225	A-IV	井戸 501	A-220	籠	板材(板目)	15.8	1.8	厚さ0.9	明瞭な工具痕
226	A-III	井戸 309	A-147	杓子	板材(板目)	(14.7)	(6.6)	厚さ0.5	柄部・籠部欠損
227	A-III	土 368	A-94	杓子	板材(板目)	22.1	9.9	厚さ0.7	籠先端部・柄部に使用痕あり
228	A-III	土 362	A-116	杓子	板材(板目)	(8.5)	7.3	厚さ1.0	使用痕・被熱痕あり、工具で丁寧に加工
229	A-III	土 362	A-41	杓子	板材(板目)	10.6	8.5	厚さ1.5	下端部摩滅(使用痕か)
230	A-III	検出面	A-160	杓子	板材(板目)	20.4	4.7	厚さ0.9	
231	A-III	検出面	A-139	楔	角材(板目)	14.5	3.8	厚さ2.2	
232	A-III	検出面	A-105	楔	角材(板目)	15.1	3.2	厚さ2.6	頭部に敲打痕あり
233	A-IV	土 543	A-462	楔	角材(板目)	13.0	2.0	厚さ1.9	
234	A-IV	検出面	A-457	楔	角材(板目)	16.0	4.2	厚さ1.4	一部に被熱痕あり
235	A-IV	検出面	A-458	楔	角材(板目)	16.5	4.5	厚さ2.2	
236	A-IV	検出面	A-455	楔	角材(板目)	10.7	2.5	厚さ2.5	
237	A-III	井戸 木枠付	A-125	鍬	角材(板目)	23.6	10.1	厚さ3.8	7.0×3.3cmの柄の差込穴あり、鍬先装着痕あり
238	A-III	土 415	A-123	鍬	角材(板目)	25.8	8.7	厚さ3.8	下半端部に鍬先装着痕あり、3.5×7.4cmの柄の差込穴あり
239	A-III	検出面	A-29	鍬	板材(板目)	28.5	10.6	厚さ2.4	幅2.5cmの柄の差込穴あり(片側欠損)、下半端部に鍬先装着痕あり
240	A-III	土 336	A-156	鍬	角材(板目)	26.8	11.9	厚さ4.4	6.9×3.0cmの柄の差込穴あり、下半端部に鍬先装着痕あり
241	A-III	土 399	A-12	鍬	板材(板目)	23.7	12.3	厚さ3.7	使用痕、5.3×3.7cmの柄の差込穴あり、下半端部に鍬先装着痕あり
242	A-III	土 435	A-157	鍬	角材(板目)	27.9	10.5	厚さ2.4	6.5×3.2cmの柄の差込穴、工具痕明瞭、下半端部に鍬先装着痕あり
243	A-III	検出面	A-30	鍬	板材(板目)	27.6	8.7	厚さ1.9	長さ7.1cmの柄の差込穴あり、下半端部鍬先装着痕あり
244	A-II	井戸2南	A-3	草履下駄	板材(板目)	12.1	6.5	厚さ2.3	一部欠損
245	A-II	検	A-269	逆齒下駄	角材(板目)	22.9	8.7	高1.4	穴12箇所あり
246	A-III	土坑	A-51	下駄の歯	板材(板目)	10.5	7.4	厚さ2.7	使用痕あり
247	A-III	土 301	A-203	逆齒下駄	角材(板目)	23.8	9.7	高3.7	指頭圧痕あり
248	A-III	土 301	A-191	逆齒下駄	角材(板目)	22.4	8.7	高4.7	指頭圧痕あり

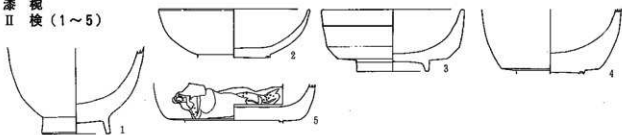
図No.	地区 検出面	遺構名	整理番号	器種分類	手法	長さ・口径 (cm)	幅 (cm)	厚さ・底径・高さ (cm)	備 考
249	A-Ⅲ	土 302	A-193	連歯下駄	角材(板目)	22.0	11.7	高4.7	指頭圧痕あり
250	A-Ⅲ	土 330	A-190	連歯下駄	角材(板目)	20.7	10.0	高2.4	指頭圧痕あり、工具痕明瞭
251	A-Ⅲ	土 336	A-178	連歯下駄	角材(板目)	21.5	8.0	高3.4	線刻あり
252	A-Ⅲ	土 336	A-170	差歯下駄	角材(板目)				指頭圧痕あり
253	A-Ⅲ	土 342	A-209	連歯下駄	角材(板目)	23.1	9.4	高3.3	指頭圧痕あり
254	A-Ⅲ	土 352	A-183	連歯下駄	角材(板目)	20.2	9.2	高3.3	指頭圧痕あり
255	A-Ⅲ	土 362	A-205	連歯下駄	角材(板目)	22.2	9.1	高2.9	
256	A-Ⅲ	土 368	A-196	連歯下駄	角材(板目)	22.3	9.2	高3.5	指頭圧痕あり
257	A-Ⅲ	土 399	A-192	連歯下駄	角材(板目)	21.6	9.5	高4.8	木広の歯
258	A-Ⅲ	土 402	A-202	連歯下駄	角材(板目)	22.7	8.0	高2.8	指頭圧痕あり
259	A-Ⅲ	土 416	A-207	剃り下駄	角材(板目)	22.8	8.9	高4.0	指頭圧痕あり
260	A-Ⅲ	土 418	A-181	連歯下駄	角材(板目)	21.1	9.6	高2.3	指頭圧痕あり
261	A-Ⅲ	土 427	A-172	連歯下駄	角材(板目)	22.0	10.9	高3.3	木広の歯
262	A-Ⅲ	土 435	A-189	連歯下駄	角材(板目)	22.5	8.6	高2.6	
263	A-Ⅲ	土 435	A-208	連歯下駄	角材(板目)	22.1	11.3	高3.2	粗雑な作り
264	A-Ⅲ	土 435	A-185	連歯下駄	角材(板目)	23.1	9.0	高2.6	
265	A-Ⅲ	土 430	A-188	連歯下駄	角材(板目)	22.2	9.5	高4.0	
266	A-Ⅲ	土 430	A-182	連歯下駄	角材(板目)	23.2	9.8	高3.6	
267	A-Ⅲ	池状遺構	A-169	連歯下駄	角材(板目)	22.3	12.3	厚さ7.1	鼻緒横に線刻あり
268	A-Ⅲ	竹 301	A-179	連歯下駄	角材(板目)	21.4	9.5	高3.9	指頭圧痕あり
269	A-Ⅲ	検出面	A-176	連歯下駄	角材(板目)	21.0	8.6	高2.4	指頭圧痕あり
270	A-Ⅲ	検出面	A-210	連歯下駄	角材(板目)	25.1	9.5	高5.0	小穴3箇所あり
271	A-Ⅲ	検出面	A-171	連歯下駄	角材(板目)	20.1	9.0	高7.4	木広の歯
272	A-Ⅲ	検出面	A-187	剃り下駄	角材(板目)	23.2	7.6	高4.0	1/3欠損
273	A-Ⅲ	検出面	A-201	連歯下駄	角材(板目)	22.8	9.2	高2.5	指頭圧痕あり
274	A-Ⅲ	検出面	A-206	連歯下駄	角材(板目)	22.7	8.5	高3.4	指頭圧痕あり
275	A-Ⅲ	検出面	A-197	連歯下駄	角材(板目)	21.5	9.5	高2.6	
276	A-Ⅲ	検出面	A-184	剃り下駄	角材(板目)	22.3	9.7	高4.8	工具痕明瞭
277	A-Ⅲ	検出面	A-200	連歯下駄	角材(板目)	22.5	8.2	高2.2	
278	A-Ⅲ	検出面	A-173	連歯下駄	角材(板目)	17.6	7.6	高2.8	
279	A-Ⅲ	検出面	A-175	連歯下駄	角材(板目)	20.7	8.8	高5.3	
280	A-Ⅲ	検出面	A-198	連歯下駄	角材(板目)	19.7	9.6	高3.9	指頭圧痕あり
281	A-Ⅲ	検出面	A-174	連歯下駄	角材(板目)	18.3			被熱痕あり
282	A-Ⅲ	検出面	A-177	連歯下駄	角材(板目)	20.4	9.7	高3.0	
283	A-Ⅲ	検出面	A-204	連歯下駄	角材(板目)	18.4	9.2	高4.1	被熱痕あり
284	A-Ⅲ	検出面	A-474	差歯下駄	角材(板目)	22.7	9.2	厚さ8.7	墨書あり
285	A-Ⅲ	検出面	A-199	連歯下駄	角材(板目)	15.0	6.4	高3.7	
286	A-Ⅲ	検出面	A-194	連歯下駄	角材(板目)	11.3	7.3	高4.4	被熱痕あり

図No.	地区 検出面	遺構名	整理番号	器種分類	手法	長さ・口径 (cm)	幅 (cm)	厚さ・底径・高さ (cm)	備 考
287	A-Ⅲ	検出面	A-195	連歯下駄	角材(柾目)	23.5	10.3	高7.5	線刻あり
288	A-Ⅲ	検出面	A-186	連歯下駄	角材(柾目)	14.8	6.7	高5.0	工具痕明瞭
289	A-Ⅳ	井戸 501	A-245	連歯下駄	角材(柾目)	21.2	8.9	高2.6	修理痕あり
290	A-Ⅳ	井戸 501	A-234	連歯下駄	角材(板目)	22.1	9.2	高2.6	指頭圧痕あり
291	A-Ⅳ	土 560	A-242	連歯下駄	角材(柾目)	20.1	9.2	高2.7	指頭圧痕あり
292	A-Ⅳ	土 560	A-240	割り下駄	角材(板目)	22.1	9.1	高3.1	
293	A-Ⅳ	土 560	A-243	連歯下駄	角材(柾目)	19.0	10.1	高3.6	
294	A-Ⅳ	溝 502	A-225	連歯下駄	角材(柾目)	20.9	10.0	高6.1	線刻あり
295	A-Ⅳ	溝 502	A-241	連歯下駄	角材(柾目)	19.4	10.2	高2.6	穴8箇所
296	A-Ⅳ	土 589	A-235	連歯下駄	角材(板目)	21.8	9.4	高5.0	末広の歯
297	A-Ⅳ	土 558	A-226	割り下駄	角材(柾目)	23.7	9.5	高5.0	修理痕あり
298	A-Ⅳ	土 588	A-233	連歯下駄	角材(板目)	20.5	10.2	高2.6	焼印風線刻あり
299	A-Ⅳ	土 543	A-231	差歯下駄	角材(板目)	24.1	10.7	高5.7	
300	A-Ⅳ	土 566	A-238	連歯下駄	角材(柾目)	21.8	11.0	高7.2	末広の歯
301	A-Ⅳ	検出面	A-230	連歯下駄	角材(板目)	20.3	7.4	高2.7	径0.3cmの穴8箇所あり
302	A-Ⅳ	検出面	A-244	連歯下駄	角材(柾目)	19.7	9.7	高3.2	
303	A-Ⅳ	検出面	A-237	連歯下駄	角材(柾目)	23.4	10.1	高3.5	指頭圧痕あり
304	A-Ⅳ	検出面	A-232	連歯下駄	角材(柾目)	20.5	10.0	高2.0	
305	A-Ⅳ	検出面	A-227	連歯下駄	角材(板目)	21.5	10.7	高7.4	焼印風線刻あり
306	A-Ⅳ	検出面	A-228	連歯下駄	角材(板目)	21.4	10.5	高7.6	A-227と対か
307	A-Ⅳ	検出面	A-239	連歯下駄	角材(板目)	21.1	7.2	高3.1	
308	A-Ⅳ	検出面	A-229	連歯下駄	角材(柾目)	19.3	10.2	高4.7	
309	A-Ⅳ	検出面	A-236	連歯下駄	角材(柾目)	22.5	8.6	高4.2	
310	A-Ⅲ	土 370	A-503	箸	板目	27.1		厚さ0.6	
311	A-Ⅳ	検出面	A-467	灯明の台		11.4		厚さ1.0・高3.6	
312	A-Ⅲ	土 430	A-159	灯明の台?		9.7	4.3	厚さ1.0	
313	A-Ⅲ	検出面	A-126	刀の柄	角材(柾目)	22.2	2.4	厚さ1.7	針金で修理
314	A-Ⅲ	検出面	A-401	膳	板材(板目)				
315	A-Ⅲ	検出面	A-28	木桶	角材(柾目)	27.3		厚さ7.3	加工痕明瞭、使用痕あり
316	A-Ⅳ	土 597	A-222	木桶	角材(柾目)	27.9		厚さ5.7	表面欠損、摩滅部分は使用痕か
317	A-Ⅲ	土 362	A-15	人形	角材(柾目)	13.6		厚さ3.4	
318	A-Ⅲ	土 362	A-10	人形	角材(板目)	9.1		厚さ1.7	
319	A-Ⅲ	木桶 301	A-20	独楽	丸太材(芯持ち)			径4.0・高5.9	上面に径1.9cmのくぼみ、下端部摩滅(使用痕か)、外面上端部樹皮残存
320	A-Ⅲ	木桶 301	A-13	砥石台	角材(柾目)	27.3	4.8	厚さ3.6	砥石台に砥石設置されたもの、置砥、砥石は小口面を除く4面を砥面として使用された(中砥)
321	A-Ⅲ	土 423	A-14	砥石台	角材(板目)	22.5	5.7	厚さ1.8	19.2×4.1×1.3cmの溝
322	A-Ⅳ	検出面	A-223	帯		12.0		厚さ2.0	

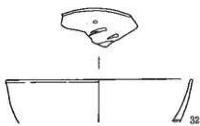
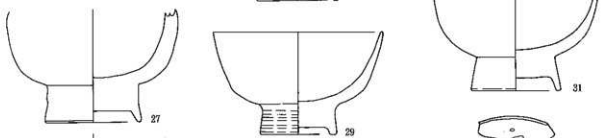
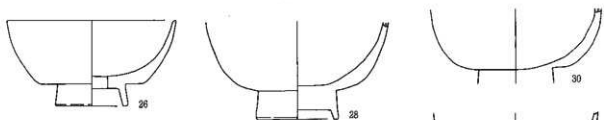
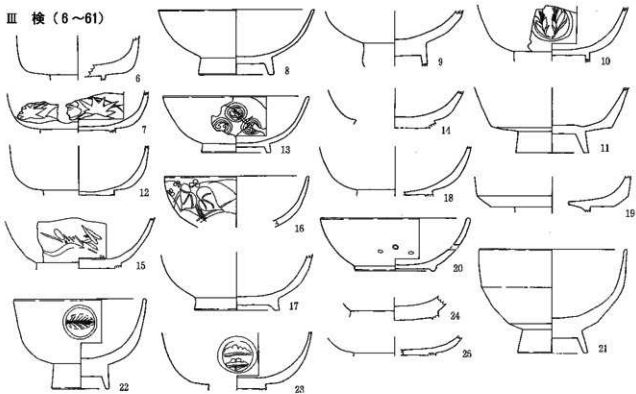
図No.	地区 検出面	遺構名	整理番号	器型分類	手法	長さ・口径 (cm)	幅 (cm)	厚さ・底径・高さ (cm)	備 考
323	A-Ⅲ	検出面	A-168	縄		89.5			
324	A-Ⅲ	井戸 304	A-495	男根状木製品	丸太材(芯持ち)	46.3		径9.9	
325	A-Ⅲ	検出面	A-477	荷札	板材(柾目)	17.6	3.4	厚さ0.5	墨書「手代□□□門」板□□□(三次郎カ)
326	A-Ⅲ	検出面	A-478	荷札	板材(柾目)	18.0	4.0	厚さ1.0	墨書:文字不明、焼印「松」
327	A-Ⅲ	検出面	A-476	荷札	板材(柾目)	21.8	2.1	厚さ0.5	墨書「能勢覚兵衛」
328	A-Ⅲ	検出面	A-475	荷札	板材(柾目)	17.0	5.3	厚さ0.6	墨書「[]小野商店第九三〇」、近代の可能性大
329	A-Ⅲ	検出面	A-473	荷札	板材(柾目)	12.2	9.5	厚さ1.2	表面に墨書「人足老人」、裏面に焼印「作」
330	A-Ⅳ	土 589	A-485	荷札	板材(柾目)	16.0	3.0	厚さ0.9	墨書:表面「宮□□(島盛カ)右衛門行」、裏面は不明
331	A-Ⅳ	土 597	A-487	荷札	板材(柾目)	19.6	2.2	厚さ0.4	墨書「一浦喜左衛門」
332	A-Ⅱ	検	A-469	ジョイント		24.0	5.9	厚さ12.5	墨書あり(文字不明)
333	A-Ⅱ	検	A-470	ジョイント		18.3	11.9	厚さ10.8	墨書あり「へ」
334	A-Ⅱ	検	A-471	ジョイント		37.0	15.5	厚さ15.3	墨書「弘化三丙午年□九月十日下□孫□」
335	A-Ⅲ	竹 303	A-505	ジョイント	角材(板目)	32.6	17.2	厚さ8.6	
336	A-Ⅲ	竹 303	A-506	竹管		24.7		径7.4	
337	A-Ⅲ	検出面	A-508	ジョイント	角材(板目)	45.0	24.4	厚さ11.9	
338	A-Ⅲ	竹 301	A-504	ジョイント	角材(柾目)	47.2	15.5	厚さ12.0	
339	A-Ⅲ	検出面	A-491	集水橋		41.5	41.0	高46.0	
340	A-Ⅱ	井戸 8	A-5	不明	丸太材(芯持ち)			径5.7・高2.4	中心に径0.5cmの穴
341	A-Ⅲ	土 362	A-40	不明	板材(板目)	7.9	7.5	厚さ0.9	
342	A-Ⅲ	土 302	A-101	不明	板材(柾目)	(13.3)	2.5	厚さ0.5	窪か、両端欠損。片面には、工具により溝状に加工。
343	A-Ⅲ	土 430	A-154	不明	角材(柾目)	20.9	2.5	厚さ1.4	径0.5cmの穴1箇所あり
344	A-Ⅲ	土 430	A-26	不明	板材(柾目)	8.2	4.3	厚さ0.6	
345	A-Ⅲ	土 359	A-46	不明	角材(柾目?)	24.5		径1.4	
346	A-Ⅲ	土 419	A-88	不明	板材(柾目)			厚さ0.6・径6.8	径0.2cmの穴6箇所、表面に煤、中央部に不整形の穴
347	A-Ⅲ	土 407	A-27	不明	角材(柾目?)	13.5	1.5	厚さ1.2	工具痕あり
348	A-Ⅲ	検出面	A-142	不明	板材(板目)	15.6	5.6	厚さ1.0	
349	A-Ⅲ	検出面	A-211	不明	角材(芯持ち)			径8.8	球状、中心に径1.5cmの穴あり
350	A-Ⅲ	検出面	A-89	不明	角材(柾目)	32.5	2.0	厚さ2.0	切込み2箇所
351	A-Ⅲ	検出面	A-145	不明	板材(板目)	9.5	5.2	厚さ2.4	1.5×0.8cmの穴1箇所
352	A-Ⅲ	検出面	A-140	不明	板材(板目)	10.1	7.8	厚さ2.0	
353	A-Ⅲ	検出面	A-143	不明	板材(板目)	22.9	5.7	厚さ0.4	径0.2cmの穴2箇所あり
354	A-Ⅲ	検出面	A-483	不明	板材(柾目)	(9.6)	(1.7)	厚さ(0.3)	
355	A-Ⅲ	検出面	A-146	不明	角材(柾目)	11.2	2.8	厚さ2.0	径0.2cmの穴3箇所あり
356	A-Ⅲ	検出面	A-36	不明	板材(柾目)	5.7	4.0	厚さ1.3	
357	A-Ⅲ	検出面	A-118	不明				厚さ2.1・径7.7	
358	A-Ⅲ	検出面	A-100	不明	板材(板目)			厚さ0.9・径4.8	中心に径0.5cmの穴あり
359	A-Ⅳ	土 543	A-490	不明	板材(柾目)	24.9	7.0	厚さ0.8	「イ」「大」の文字刻書、工具痕多致
360	A-Ⅳ	井戸 501	A-219	不明	角材(柾目?)	14.4	1.4	厚さ1.0	

図No.	遺構名	整理番号	器種分類	手法	長さ・口径 (cm)	幅 (cm)	厚さ・底径・高さ (cm)	備考	
361	A-IV	上 545	A-215	不明	板材(板目?)	38.9	2.3	厚さ0.6	使用痕あり
362	A-IV	土 589	A-464	不明	角材(板目)	19.2	3.0	厚さ1.5	両端に0.5cmの穴
363	A-IV	検出面	A-486	不明	板材(板目)	9.0	4.4	厚さ1.0	
364	A-IV	検出面	A-451	不明	板材(板目)	27.8	1.8	厚さ0.7	丁寧な工具痕あり
365	A-IV	検出面	A-69	不明	板材(板目)	9.5	2.6	厚さ0.6	下端部明瞭な加工痕
366	A-IV	検出面	A-456	不明	角材(板目?)	11.0	3.2	厚さ1.5	
367	A-IV	検出面	A-70	不明	角材(板目)	2.3		厚さ2.2	幅0.5cmの切込み
368	A-IV	検出面	A-67	不明	不明	5.5	5.6	厚さ0.9	周囲に細工、穴2箇所あり
369	A-IV	南西検出面	A-65	不明	板材(板目)	5.2	5.1	厚さ0.7	墨書で三重輪
370	A-IV	検出面	A-489	不明	角材(板目)	20.0	9.0	厚さ3.5	
371	A-IV	土 558	A-217	不明	板材(板目)	42.6	7.5	厚さ1.4	
372	A-II	検出面	A-472	刷毛か	板材(板目)	13.4	11.5	厚さ1.0	上部に0.2cmの穴あり、表裏に墨書あり「安政五戊午年 宇野」「安八月四日□□」

漆 椀
II 椀 (1~5)

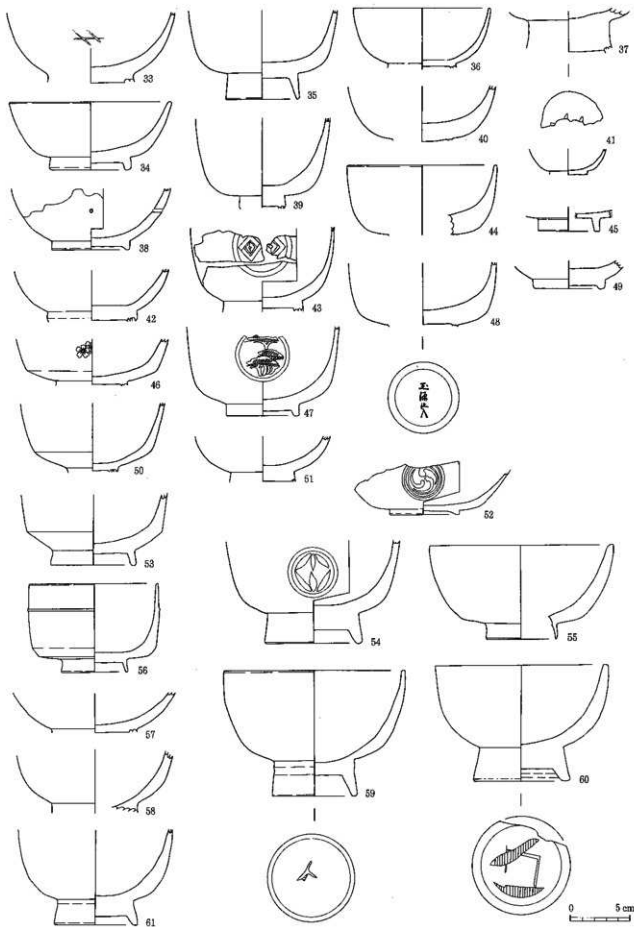


III 椀 (6~31)



0 5 cm

第2図 漆 器 (1)

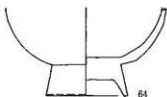


第3圖 漆器(2)

IV 椀 (62~67)



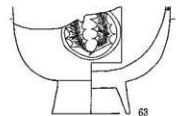
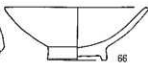
62



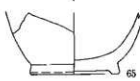
64



66



63



65



67

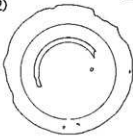
排土 (68~71)



68



漆 椀
II 椀 (72)



69



71



72



70

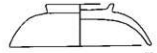
III 椀 (73~81)



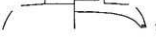
73



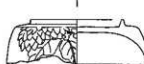
74



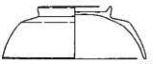
75



76



77



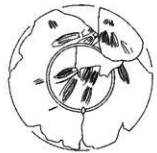
78



79

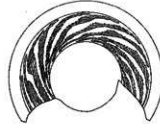


80

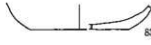


81

漆 皿
II 椀 (82)



III 椀 (83~85)



83



84

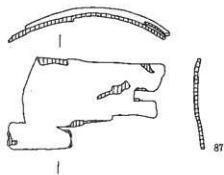
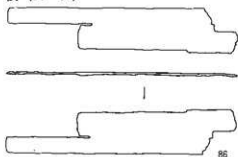


85

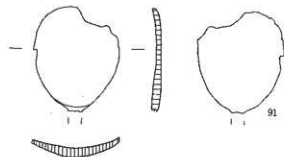
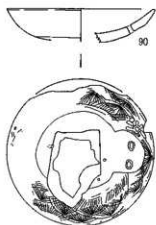
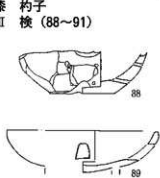
第4図 漆 器 (3)



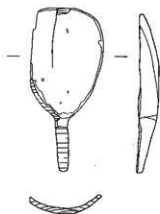
漆 III 曲物 検 (86~87)



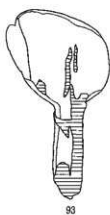
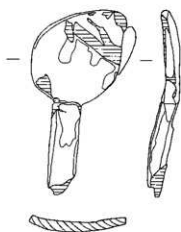
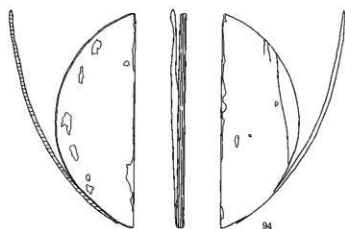
漆 III 杓子 検 (88~91)



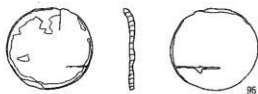
IV 検 (92~93)



漆 II 円板 検 (94)



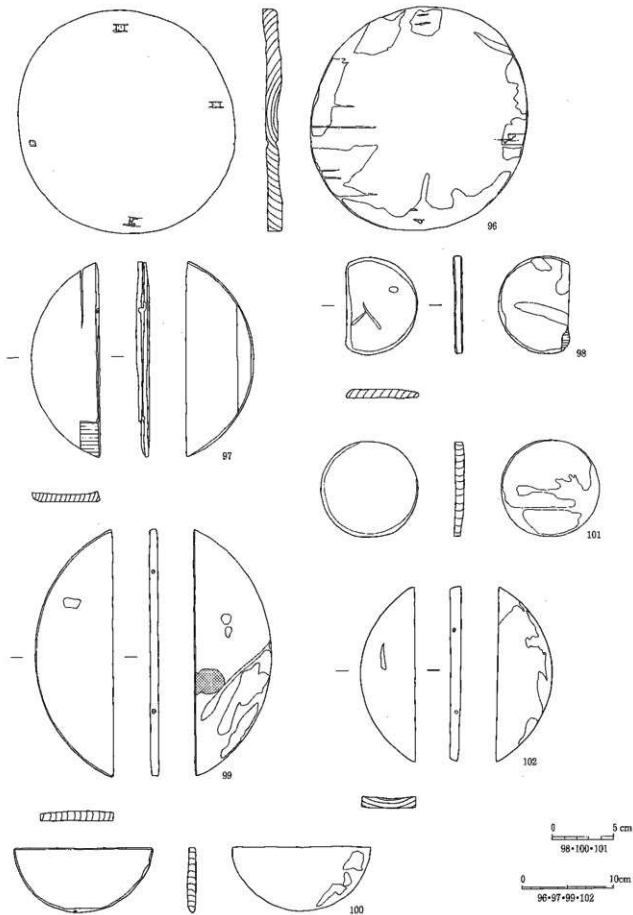
III 検 (95~105)



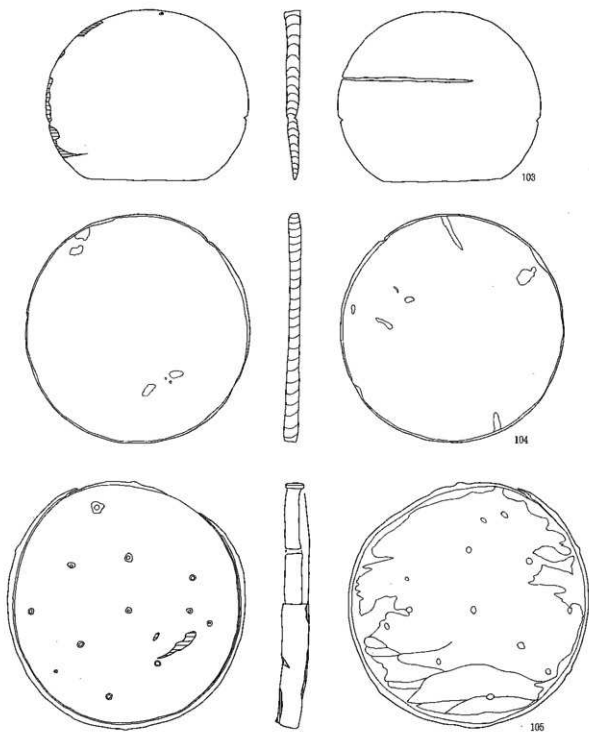
0 5 cm
87~92·95

0 10 cm
86-93-94

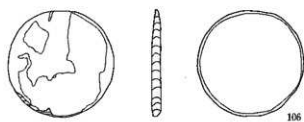
第5図 漆器(4)



第6图 漆器(5)

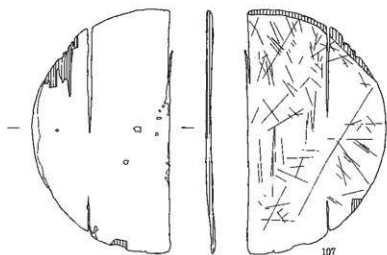


IV 檢 (106~107)



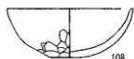
0 5 cm

第7圖 漆器(6)

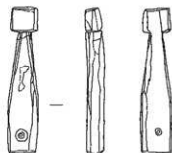


107

その他の漆器類 1 (108~125)



108



109



110



111



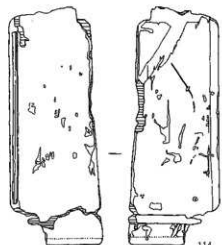
112



112



113



114



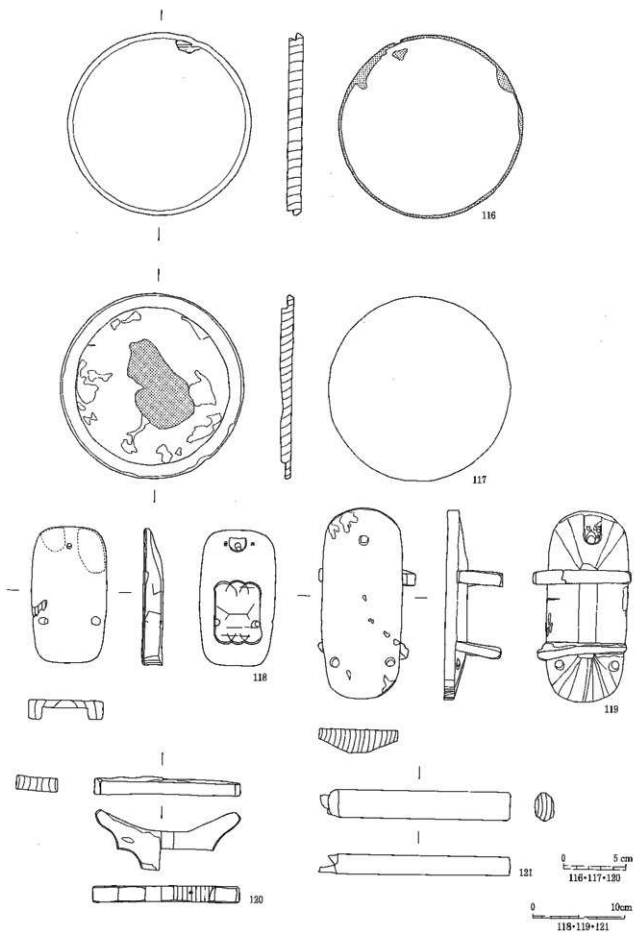
115



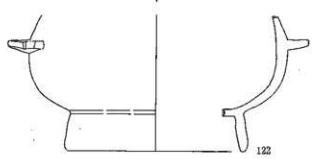
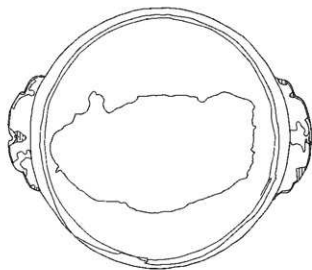
0 5 cm
108・109・113

0 10cm
107・110~112・114・115

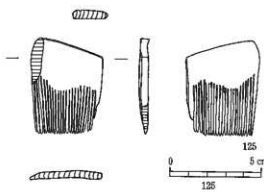
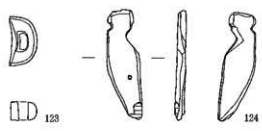
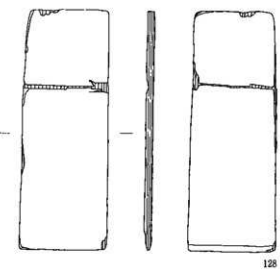
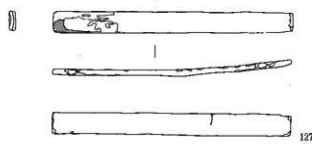
第8図 漆器(7)



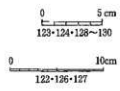
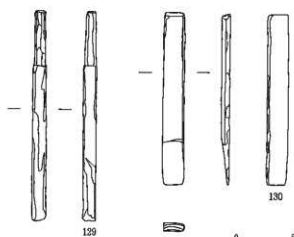
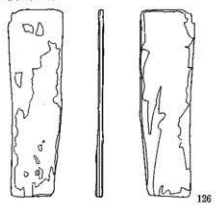
第9圖 漆 器 (8)



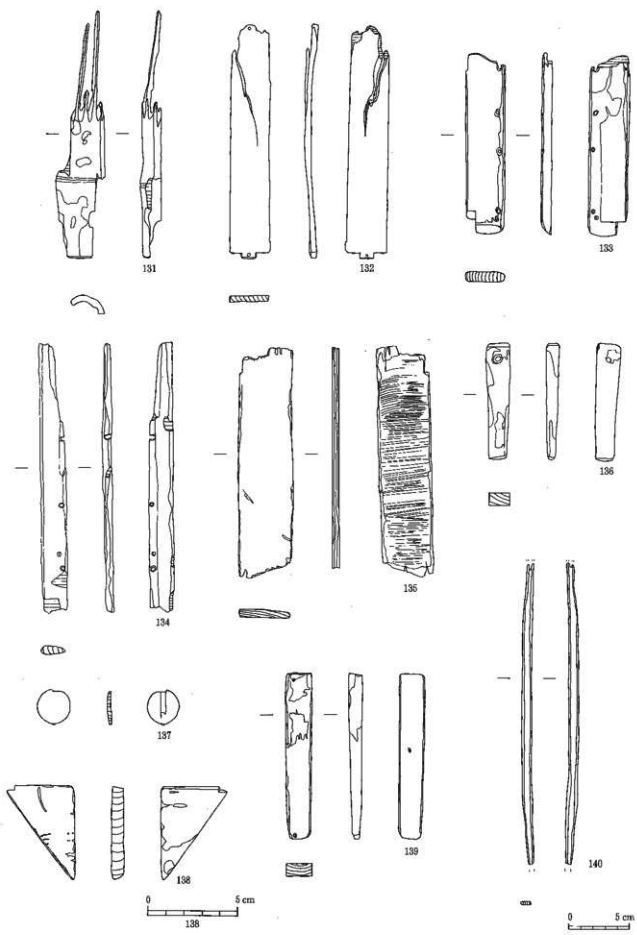
III 椀 (127~141)



その他の漆器類 2
II 椀 (126)



第10図 漆 器 (9)

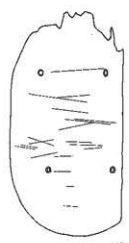
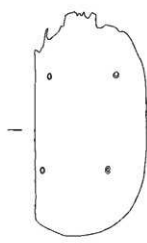


第11圖 漆 器 (10)

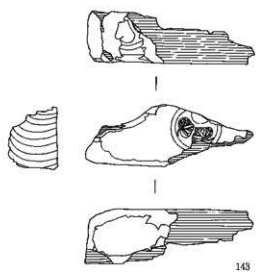


141

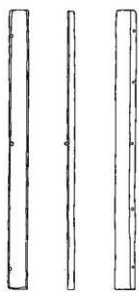
IV 椀 (142~144)



142



143

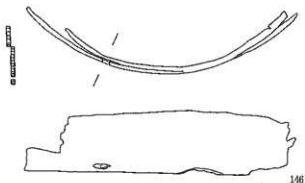
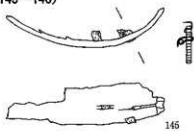


144

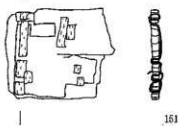
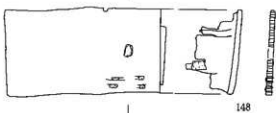
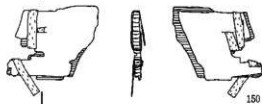
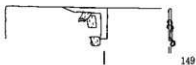
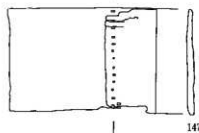


第12圖 漆 器 (11)

曲物
II 検 (145~146)



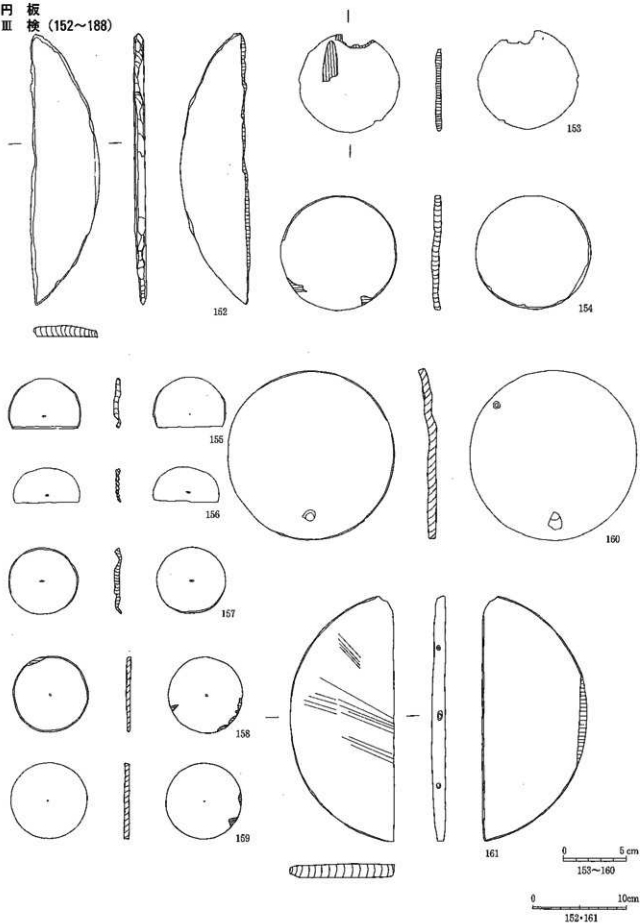
III 検 (147~151)



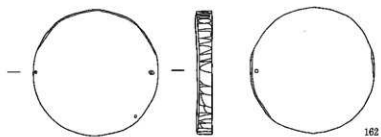
0 5 cm

第13図 木製品(1)

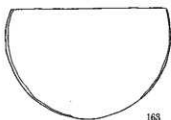
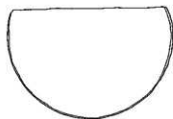
円板
Ⅲ 桧 (152~188)



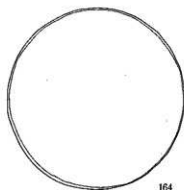
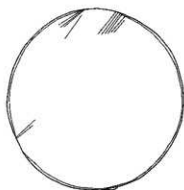
第14図 木製品(2)



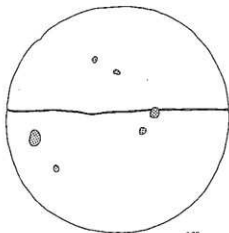
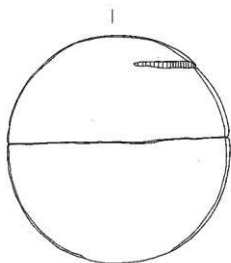
162



163



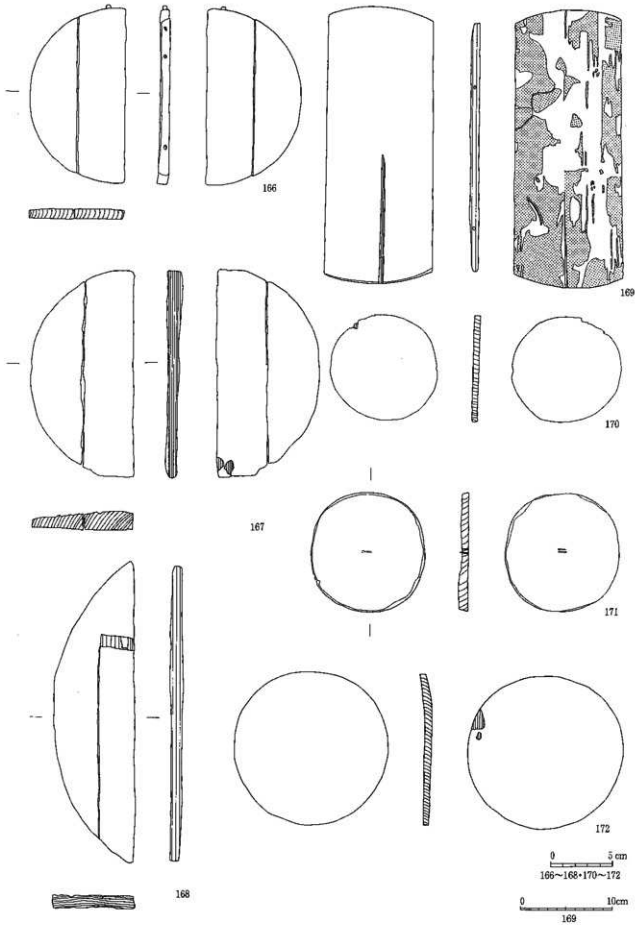
164



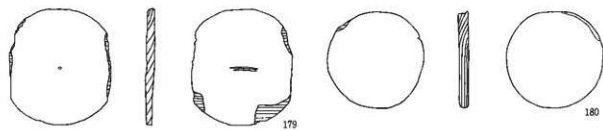
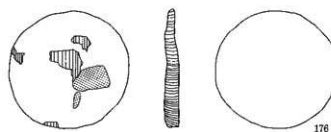
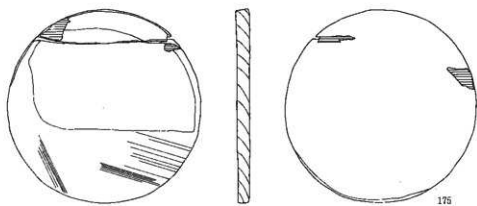
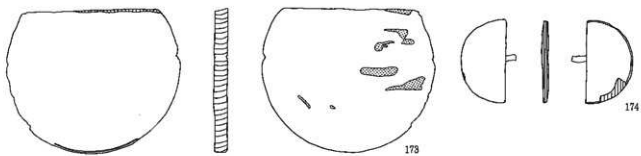
165



第15圖 木製品(3)

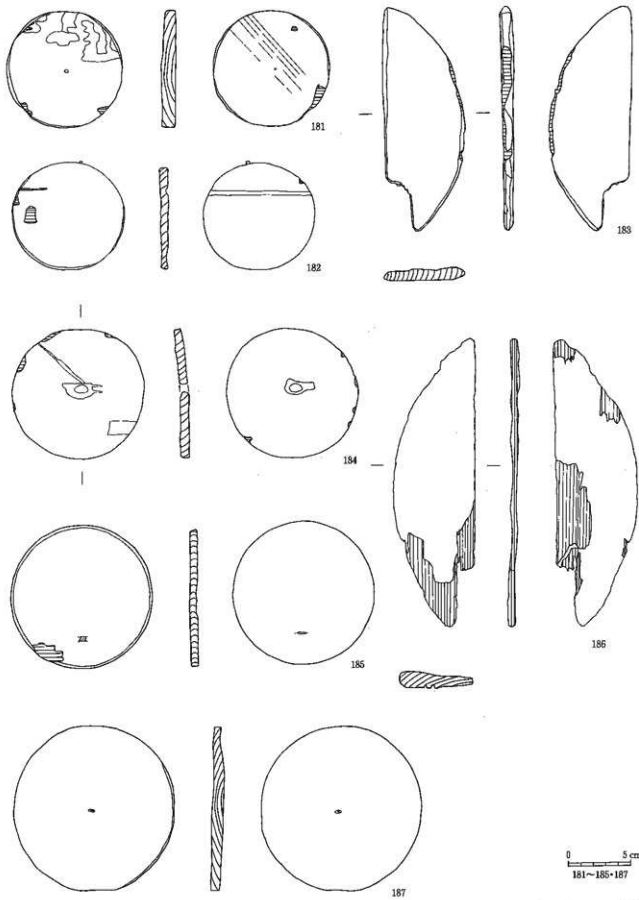


第16図 木製品(4)



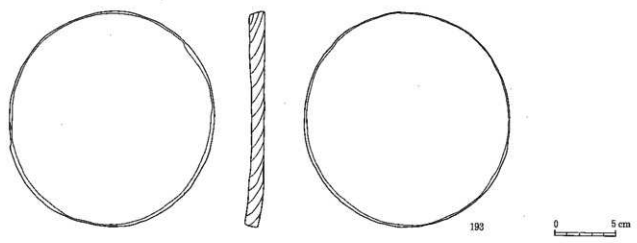
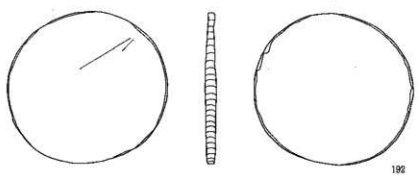
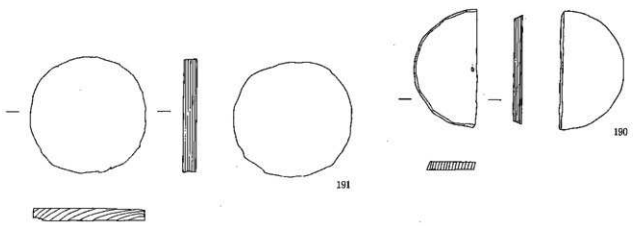
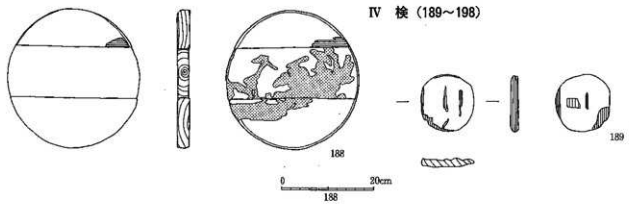
0 5 cm

第17図 木製品(5)

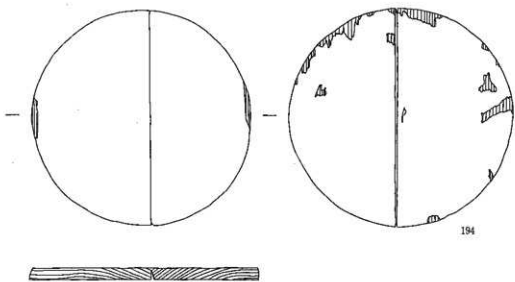


第18圖 木製品(6)

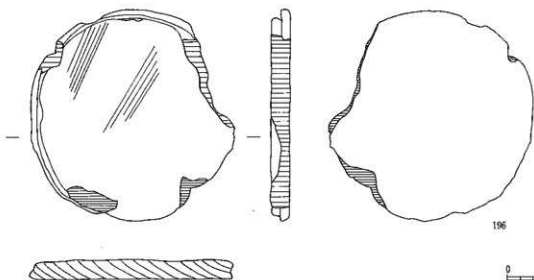
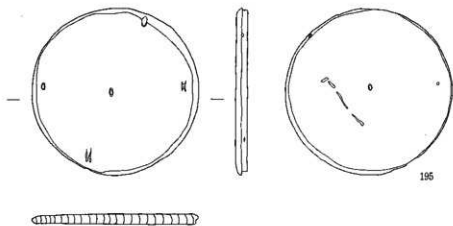
IV 検 (189~198)



第19圖 木製品(7)



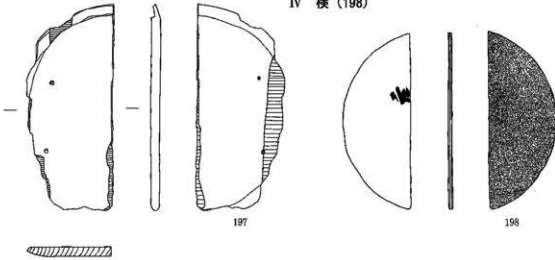
蓋
Ⅲ 検 (195~197)



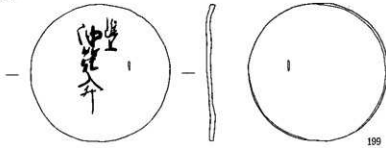
0 5 cm

第20図 木製品(8)

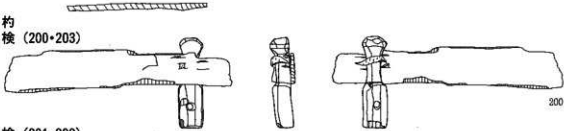
IV 梭 (198)



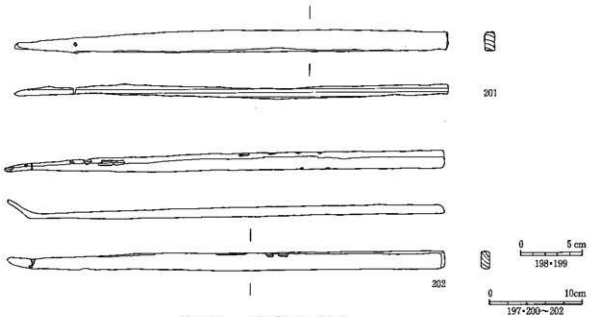
排土 (199)



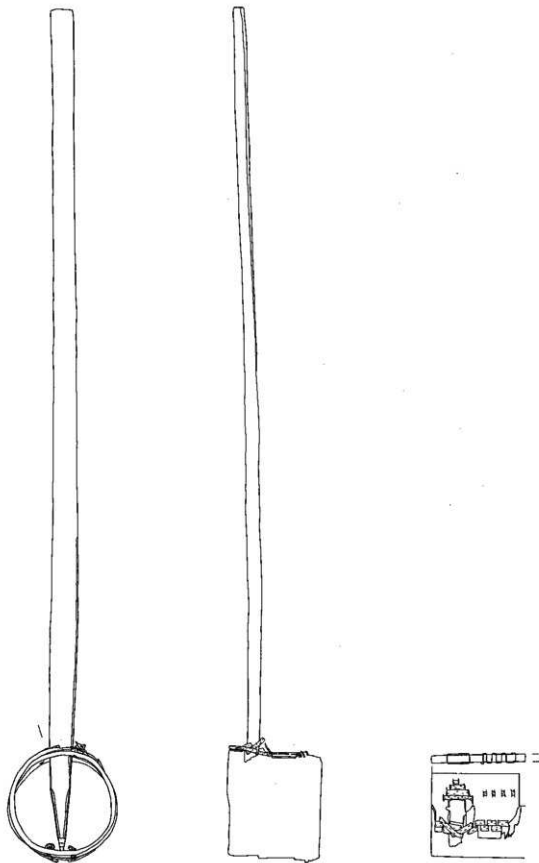
柄杓
III 梭 (200·203)



IV 梭 (201·202)



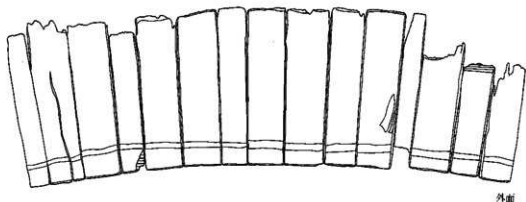
第21圖 木製品(9)



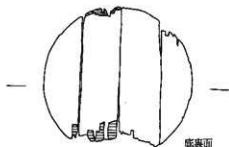
208

0 10cm

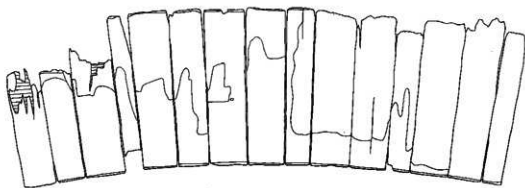
第22図 木製品(10)



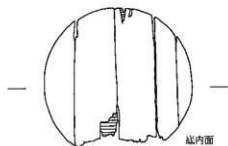
外面



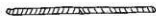
底表面



内面



底内面

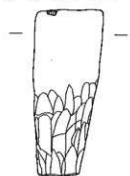


204



第23図 木製品(11)

栓
III 検 (205~215)

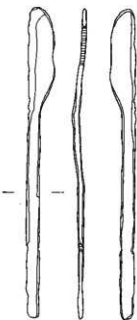


205



214

篋
III 検 (219~222)



219



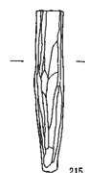
206



210



IV 検 (216~218)



215



216



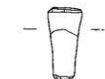
208



212



217



209



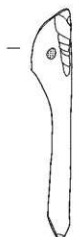
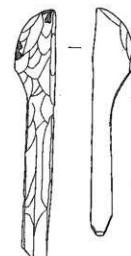
213



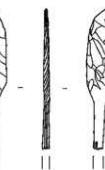
218



220



221

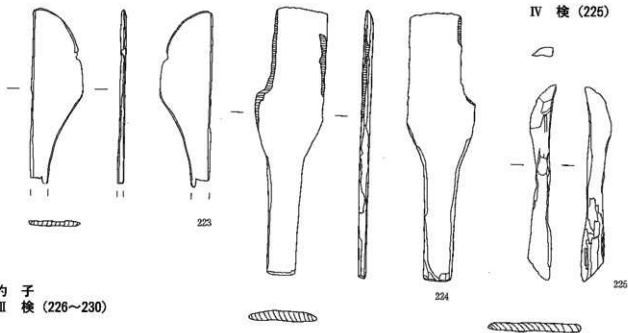


222

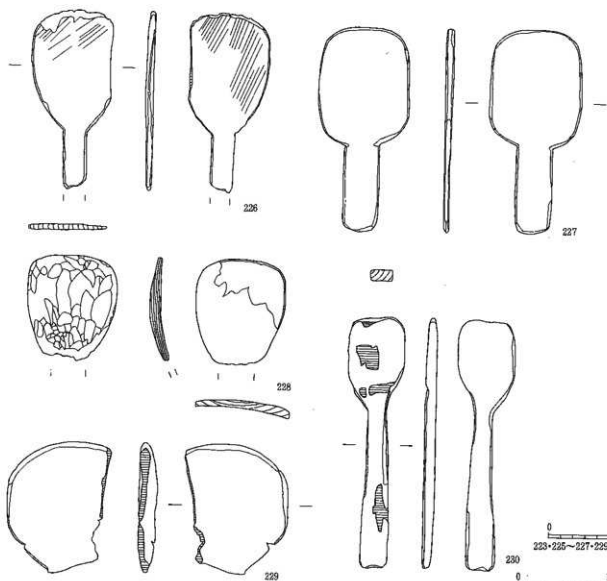


第24図 木製品 (12)

IV 椀 (225)

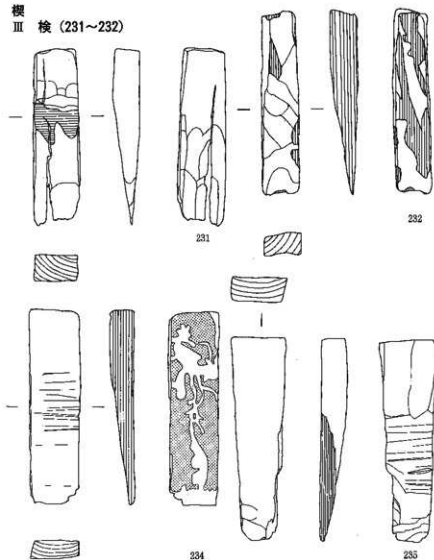


杓子
III 椀 (226~230)

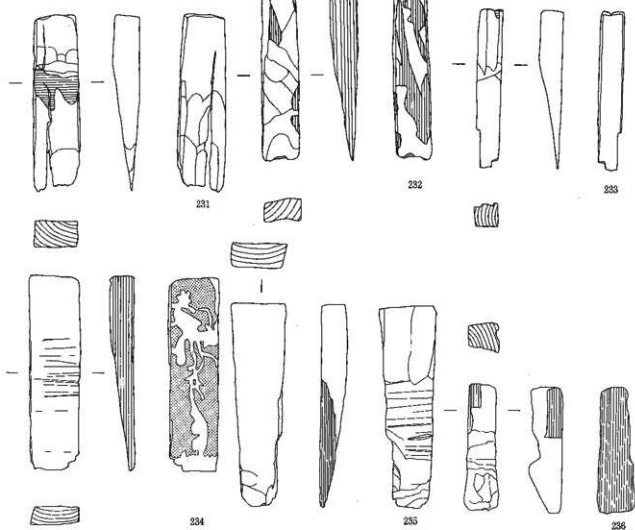


第25圖 木製品 (13)

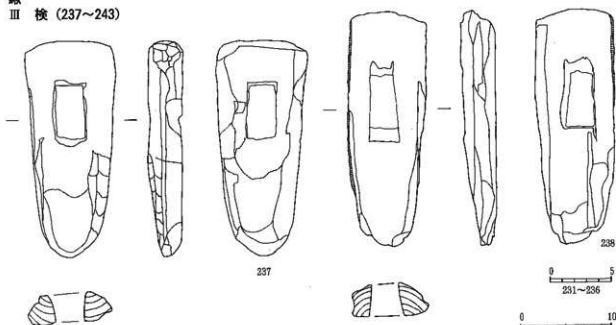
椶
III 椶 (231~232)



IV 椶 (233~236)



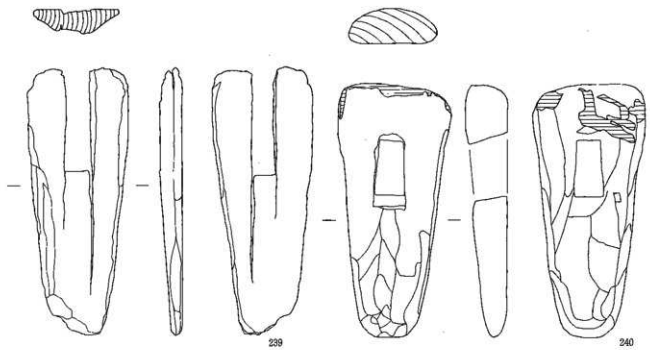
椶
III 椶 (237~243)



0 5 cm
231~236

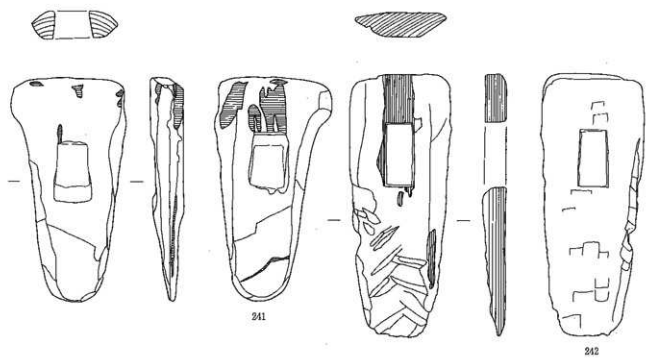
0 10 cm
237~238

第26図 木製品 (14)



239

240



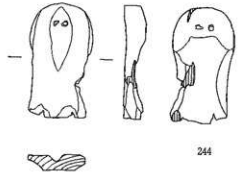
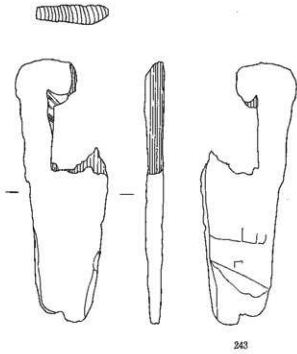
241

242

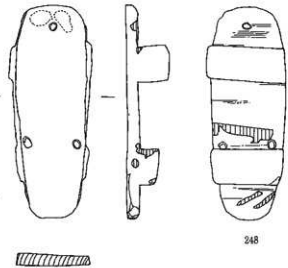
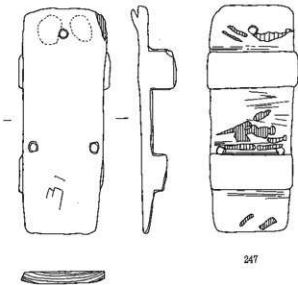
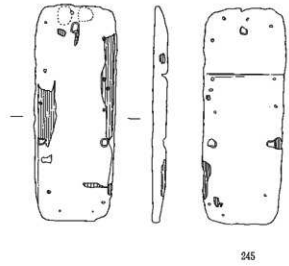
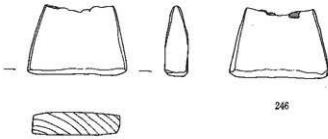


第27図 木製品(15)

下駄
II 検 (244~245)

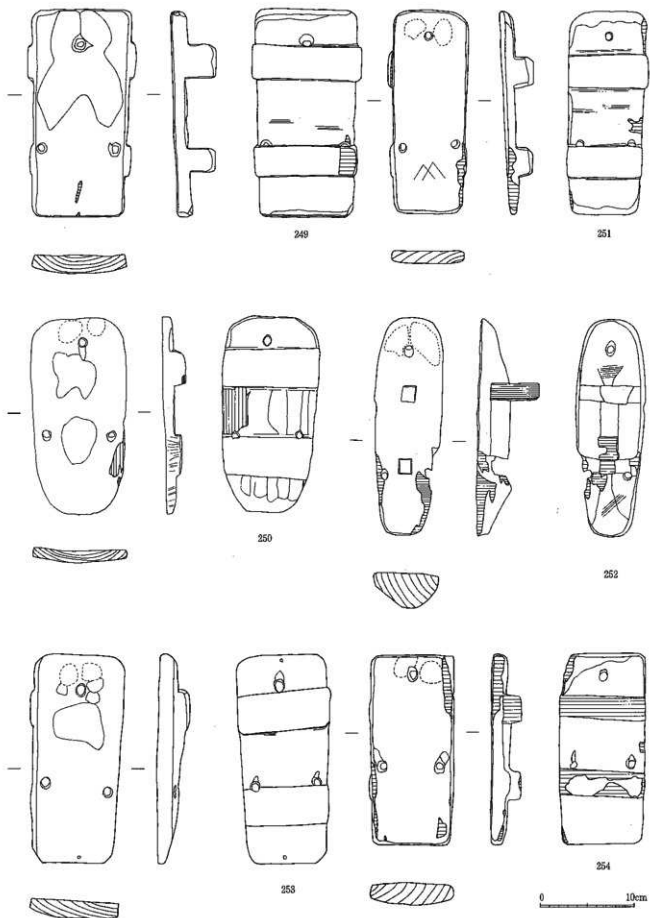


II 検 (246~288)

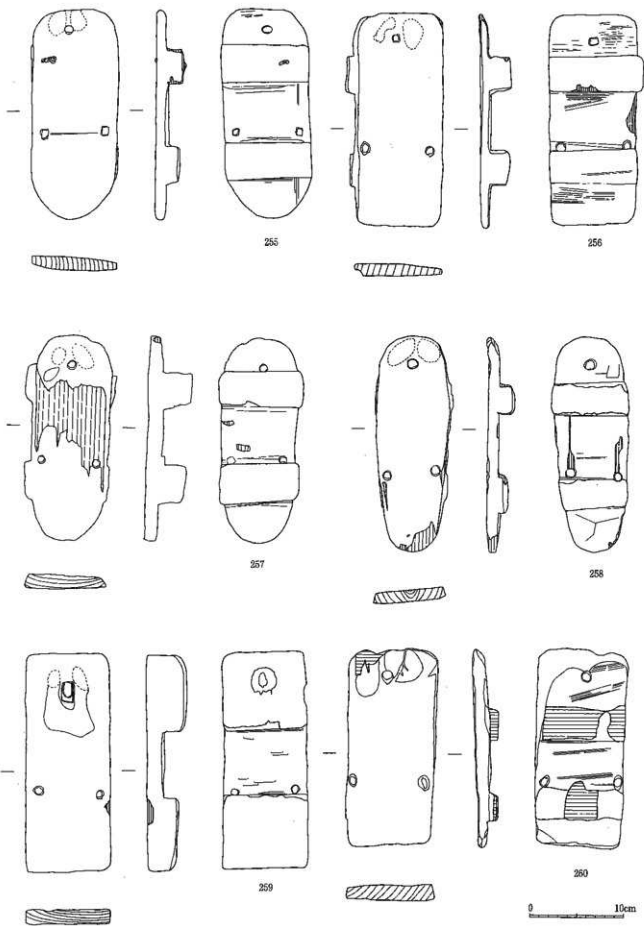


0 10cm

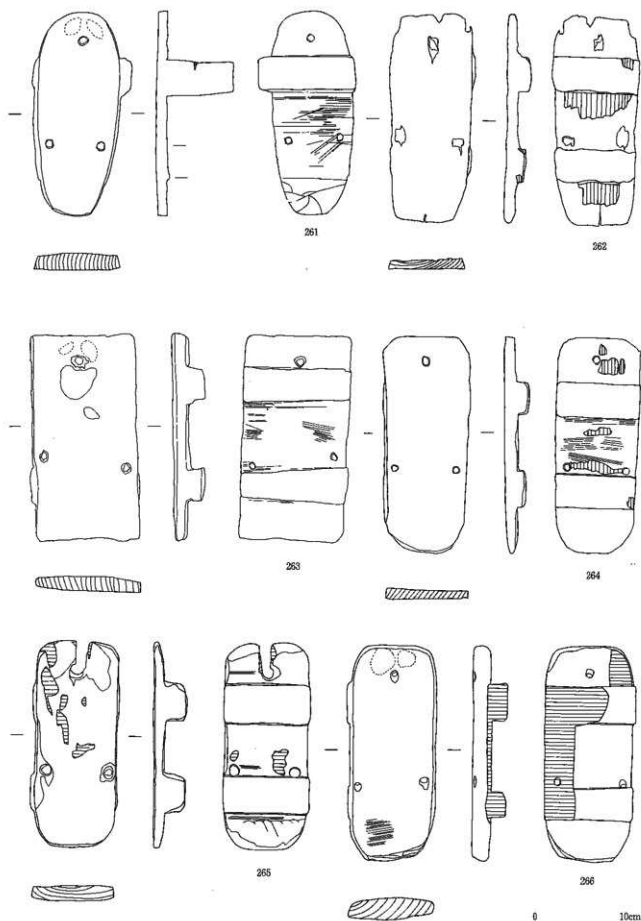
第28図 木製品(16)



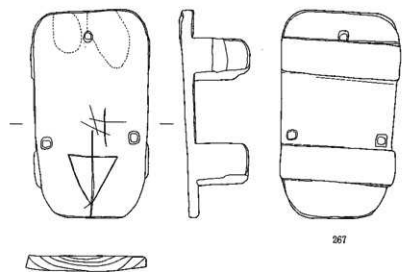
第29圖 木製品(17)



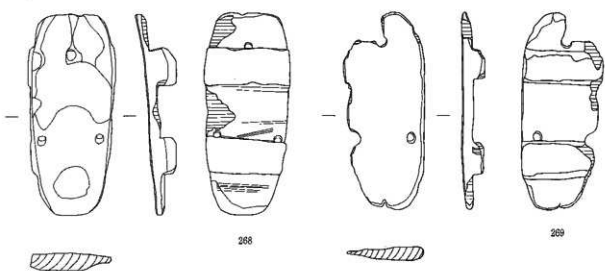
第30図 木製品(18)



第31圖 木製品(19)

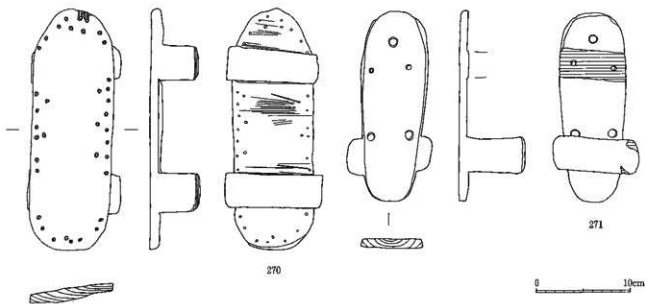


267



268

269

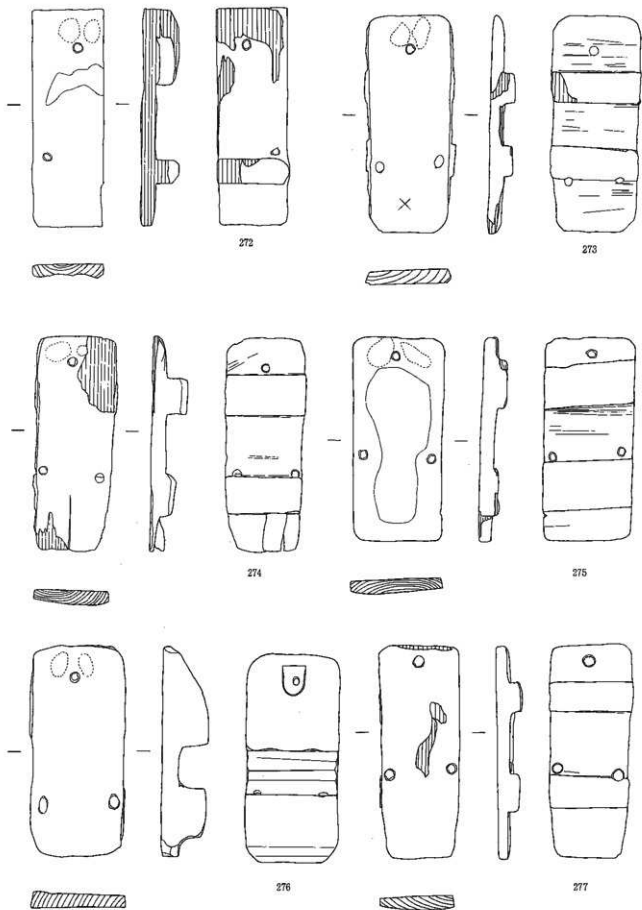


270

271

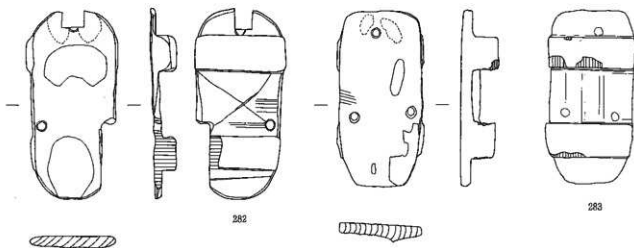
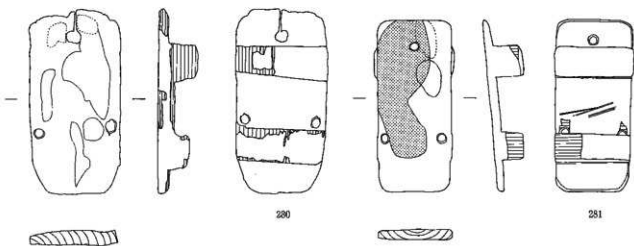
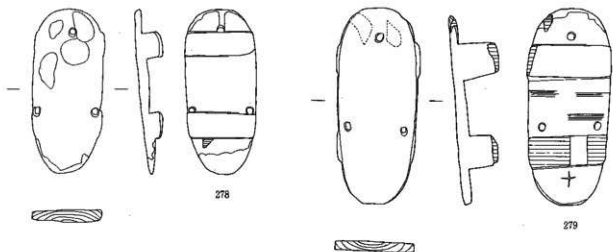


第32図 木製品(20)



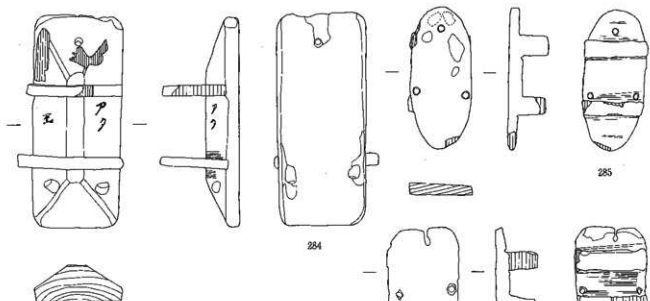
0 10cm

第33圖 木製品(21)



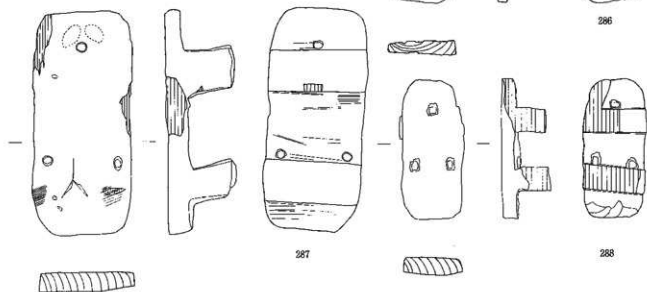
0 10cm

第34圖 木製品(22)



284

285

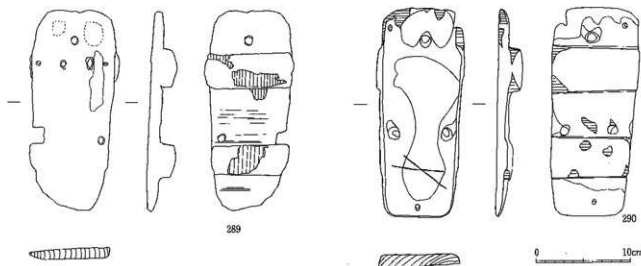


287

286

288

IV 椀 (289~309)

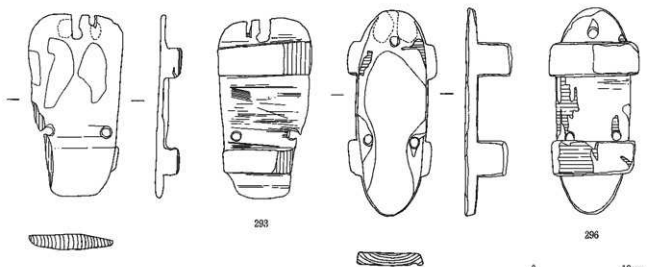
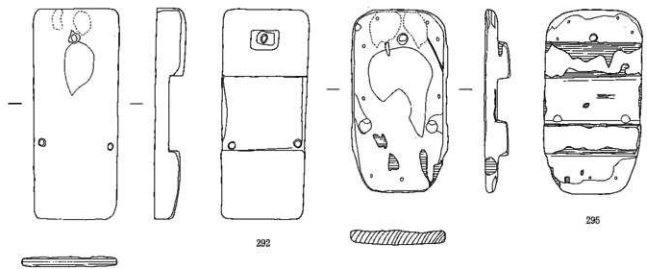
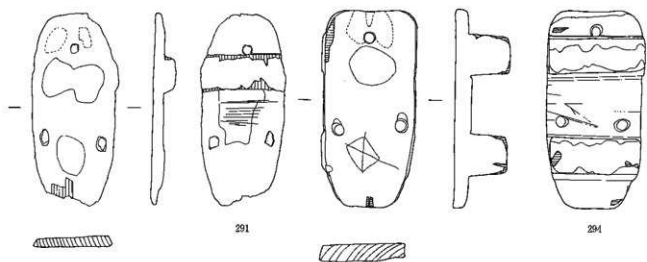


289

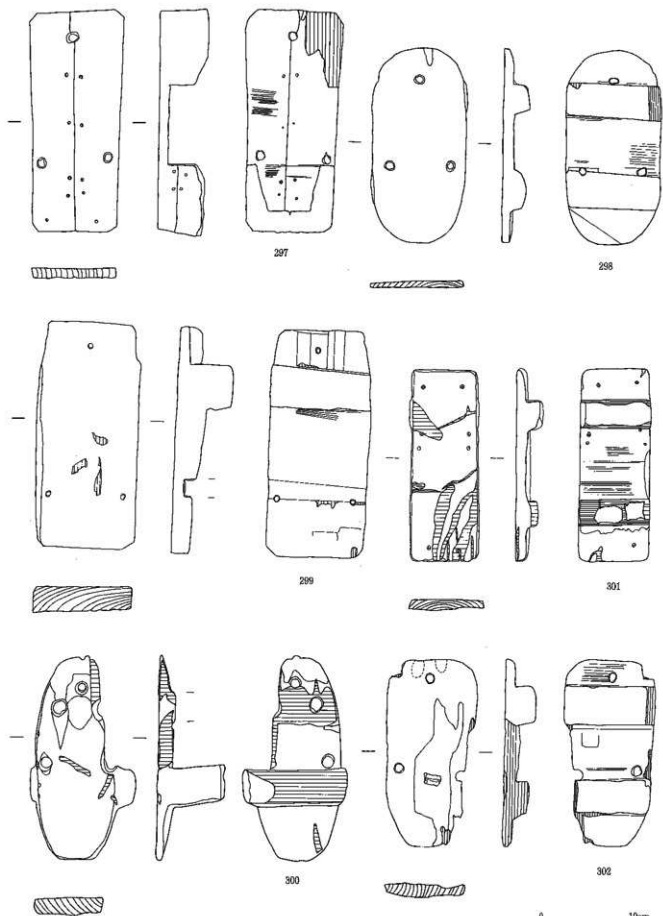
290

0 10cm

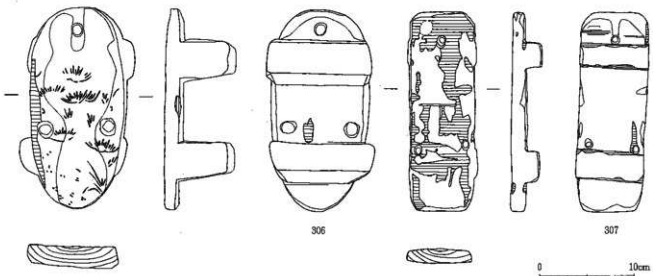
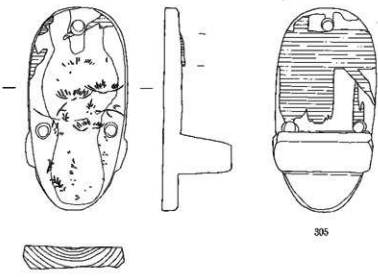
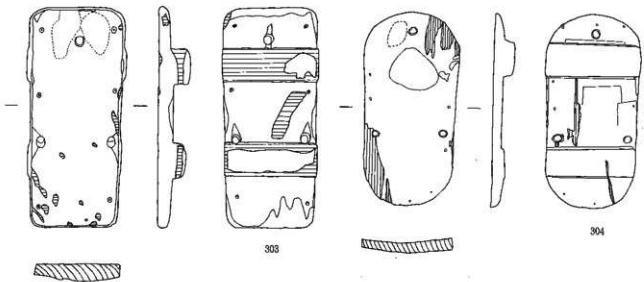
第35図 木製品 (23)



第36圖 木製品(24)

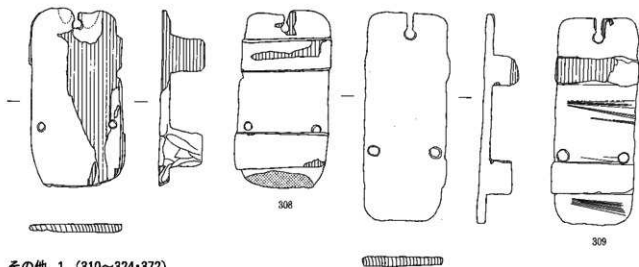


第37図 木製品(25)

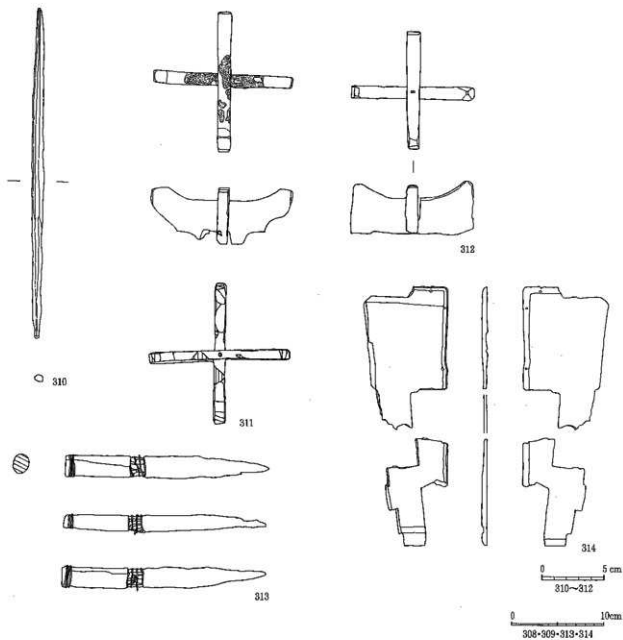


0 10cm

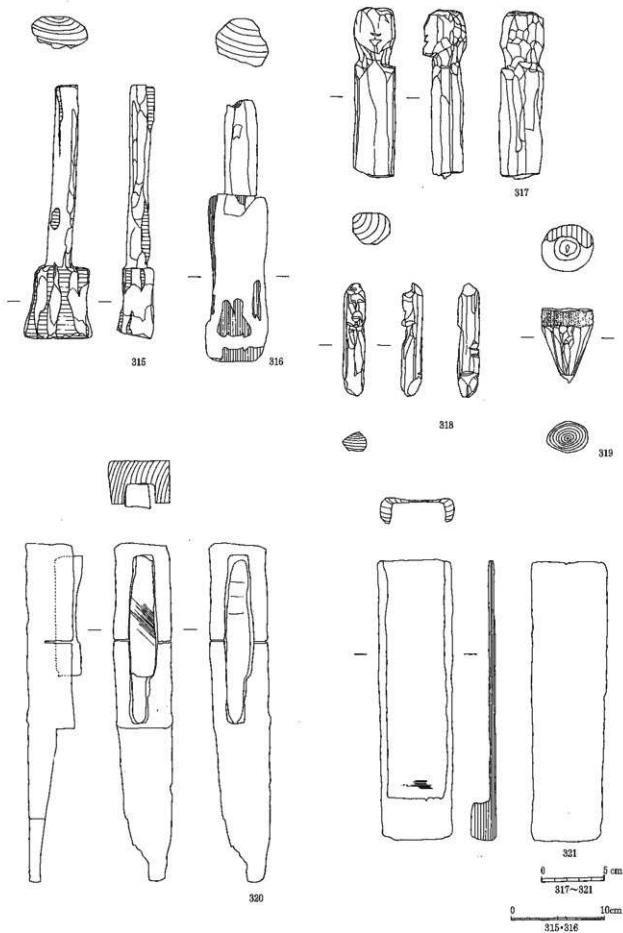
第38圖 木製品(26)



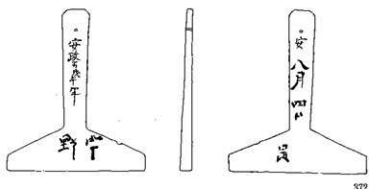
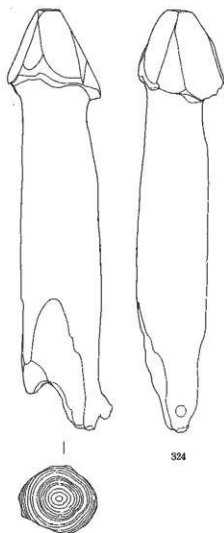
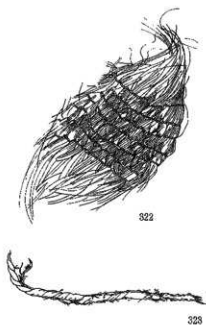
その他 1 (310~324・372)



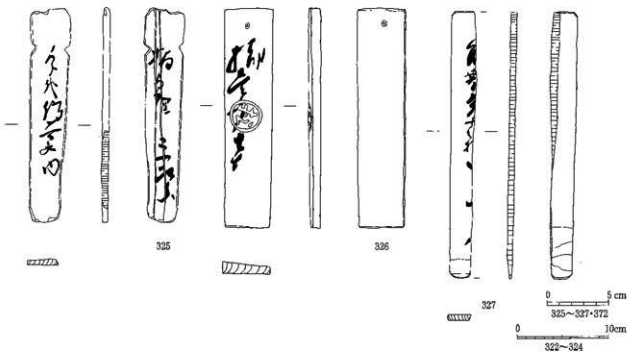
第39図 木製品 (27)



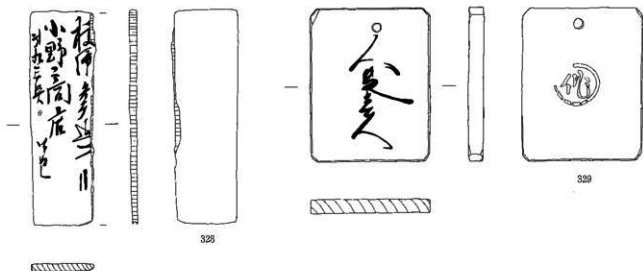
第40図 木製品 (28)



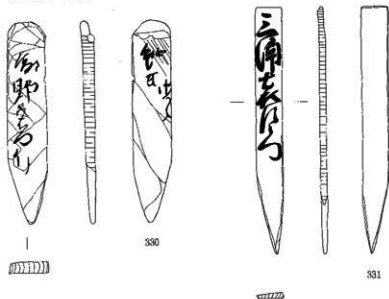
荷 札
III 検 (325~329)



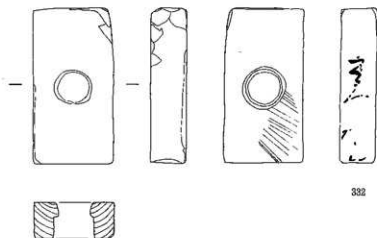
第41圖 木製品(29)



IV 梭 (330~331)



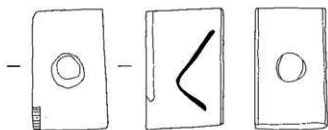
II 梭 (332~334)
ジョイント



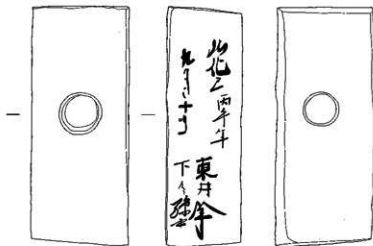
0 5 cm
328~331

0 10 cm
332

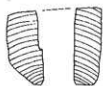
第42図 木製品 (30)



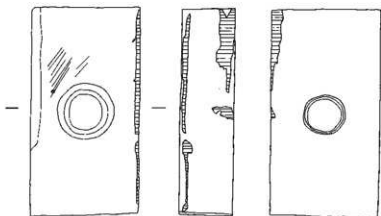
333



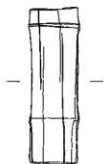
334



III 椀 (335~338)



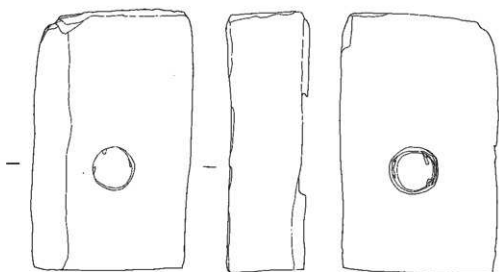
335



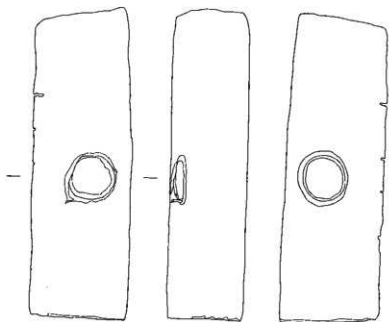
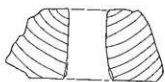
336



第43圖 木製品 (31)



337



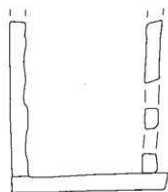
338



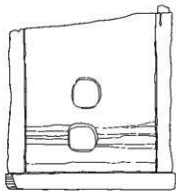
0 10cm

第44図 木製品(32)

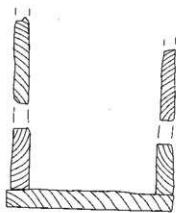
集水枡 (339)



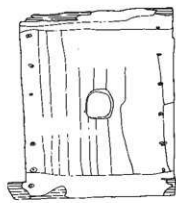
A-C 断面図



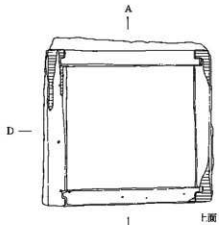
A面



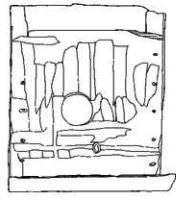
D-B 断面図



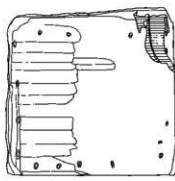
D面



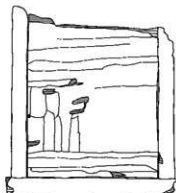
上面



B面



裏面



C面



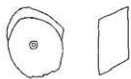
A面上の穴の径

339



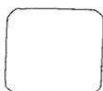
第45図 木製品 (33)

その他 2 (用途不明品)
II 椀 (340)



340

III 椀 (341~358)



341



342



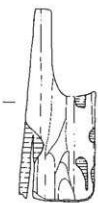
343



344



345



348



347



346



349

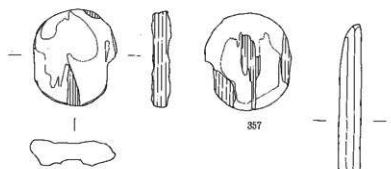
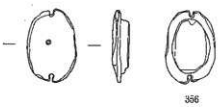
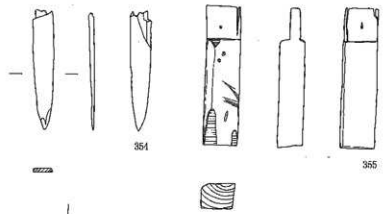
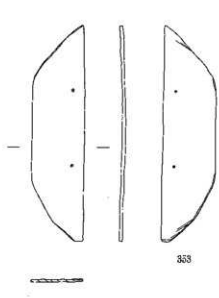
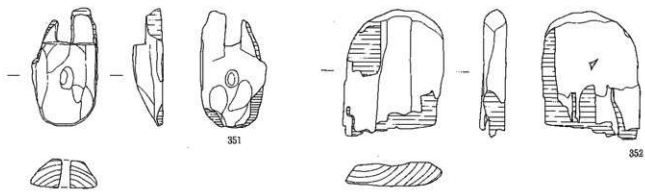


350

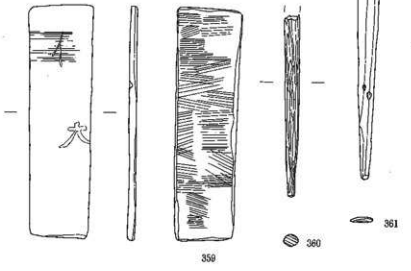
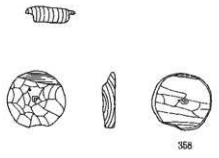
0 5 cm
340~342・344~349

0 10cm
343~350

第46図 木製品 (34)



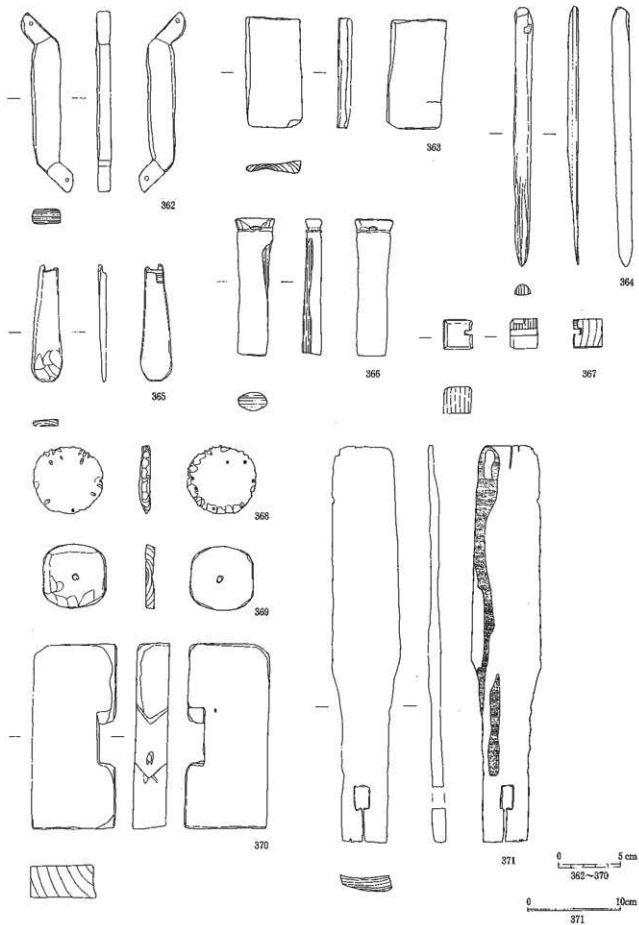
IV 椀 (359~371)



0 5 cm
351・352・354~358・360

0 10 cm
353・359・361

第47図 木製品 (35)



第48圖 木製品(36)

V 考 察

1 本遺跡出土漆碗の横相について

本調査で出土した漆器は、Ⅲ章で述べたとおり144点におよぶ。これまでの松本市内の遺跡において、漆器がこれほど多量に出土した遺跡はない。漆器は遺存しにくいので、これまでその実態は判然としななまであった。このため、本稿では基礎資料の整理という意味で、本遺跡出土漆碗71点の分類作業を試みてみた。ただし近世における漆碗は、飯碗・平碗・汁碗・壺碗などのように、碗としての用途が細分化されている。したがって、本来なら用途を考慮して分類しなければならないが、本稿では形態的な特徴を列挙するに留めておく。

(1) 器種分類

本遺跡出土漆器碗は、器形的な特徴から以下の6類型に分類できる(第49図漆碗器形分類図)。

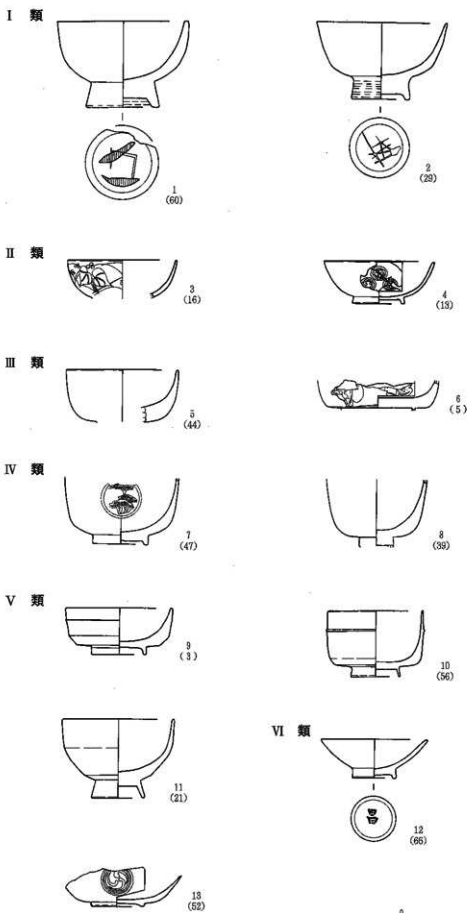
- I類： 高台から口縁部までが稜のない曲線で立ち上がり、腰部が張って立ち上がる深碗。高台は高いが、底裏のロクロ挽きが浅いため、底部が厚くなるもの。
- II類： 比較的小振りで高台の低いもの。
- III類： 体部は、稜のない曲線で立ち上がり、腰部から底部にかけての器厚が非常に厚く、口縁部に向けて薄くなるものである。
- IV類： 腰部が湾曲しながら立ち上がり、口縁にむけてほぼ垂直に立ち上がるものである。III類よりも器高が高く、深い碗形となるものである。高台は、概して低いものが多い。
- V類： 高台から口縁部にかけて、いくつかの稜をもつもの。
- VI類： I～V類のいずれにも含まれないもの。

I類(第49図1・2)

大型でどっしりとした深碗形態のものである。口縁は14cm、底径が6～7cm、高台の高さは2cm以上と高いものである。高台部は、内面のロクロ挽きが非常に浅いため、柱状高台となっている。I類の中でも、体部の形態で2種類に細分できる。腰部は緩やかに湾曲し、体部中位から口縁部にかけてほぼ垂直に立ち上がるものをI-1類、腰部にわずかに稜をもちながら、口縁に向かってハの字状に開くものをI-2類とした。高口比率(器高÷口径)は、0.60～0.68となり、深い碗形であるという特徴がみられる。1はI-1類に該当する。碗見込み・底裏ともに挽きが浅く厚みがあり、体部器厚にも比較的厚みがある。口径14.2cm、底径7.6cm、器高9.4cm、高台高2.8cmで、内外ともに黒漆塗りである。2はI-2類に該当する。高台部外面に、ロクロ挽き痕が明瞭に観察できる。口径14.0cm、底径6cm、器高8.5cm、高台高2.5cm。外側黒漆・内側朱漆塗りである。

II類(第49図3・4)

口径11～12cm、器高4～5cm、高台0.4～1.5cmで、高口比率は0.36～0.42となる小振りの碗形である。器形の特徴で2種類に大別できる。腰部がゆるやかに湾曲し、胴部から口縁にかけて垂直気味に立ち上がるものをII-1類、胴部がやや反ししながら立ち上がり、口縁が開き気味なものをII-2類とした。また、高台のつくりが、高台脇から垂直に下がるタイプと、高台脇からハの字状に開くタイプが見られる。3は、II-1類に該当する。器厚はほぼ均一になっている。底部は欠損しているため、口径以外の法量は不明(口径12.0cm)である。4は、II-2類に該当する。器厚はややうすい。高台はハの字状に開くタイプで、口径11.8cm、底径5.6cm、器高4.7cm、高台高0.8cmを測る。3・4いずれも外側黒漆・内側朱漆塗りである。



0 10cm
 () 内の数字は報告図 No.

第49図 漆碗分類図

Ⅲ類 (第49図5・6)

Ⅲ類は、腰部から底部にかけて器厚が非常に厚く、口縁部に向かうにしたがってうすくなるものである。残存部から器形の特徴をみると、底部から腰部の成形で2種に細分できる可能性がある。いずれも外側黒漆塗り・内側朱漆塗りである。

Ⅳ類 (第49図7・8)

Ⅳ類は、腰部が湾曲しながら立ち上がり、口縁にむけてほぼ垂直に立ち上がるものである。Ⅲ類よりも器高が高く、深い碗形となるものである。7は底部が残存しており6.0cmである。高台が低く、深い形と考えられる。いずれも外側黒漆塗り・内側朱漆塗りである。

Ⅴ類 (第49図9・10・11)

Ⅴ類は体部下半に稜をもち、体部上方に突帯状の稜線をもうけた器形である。9は腰部に明瞭な稜線が2箇所みられ、腰部に平坦な面取りがみられる。伝統的に「面取り」と呼ばれる形態である。胴部はほぼ垂直に立ち上がり、体部上方には稜線が巡る。器厚はやや厚く、高台外面は垂直に下がる。口径11.5cm、底径5.8cm、器高5.1cm、高台高0.9cm、高口比率0.44を測る。10は、腰部がやや屈曲して胴部は垂直に立ち上がる。9と同様に、体部上方に稜線がもうけられている。器厚は腰部が厚く、口縁部にむけて薄くなっていく。高台は、ハの字状に開く。口径10.4cm、底径5.3cm、器高7.2cm、高台高1.1cm、高口比率0.69を測る。11は腰部がやや角度をつけながら湾曲し、胴部は垂直気味に立ち上がる。腰部・胴部の器厚はほぼ均一だが、底部に厚みがある。9・10に比べて、高台・器高が高い。口径12.0cm、底径5.7cm、器高8.6cm、高台高2.0cm、高口比率0.71を測る。いずれも外側黒漆塗り・内側朱漆塗り。

Ⅵ類 (第49図12・13)

Ⅵ類は、Ⅰ～Ⅴ類のいずれにも相当しないものである。12・13を同形式とは捉えられない。12は、高台脇から口縁にかけてハの字状に直線的に開くものである。口径11.4cm、底径4.7cm、高台高1.1cm、高口比率0.36を測る。内外ともに朱漆塗り、底部のみ黒漆塗りである。13は遺存状況が悪いが、腰部がやや張り、口縁にむけてハの字状に開いて立ち上がるものである。底径5.6cm、高台高0.4cmを測る。外側黒漆塗り・内側朱漆塗り。

・(2) まとめ

本遺跡出土漆碗を、器形的な特徴から6類型に分類してみた。最後に近世の碗揃えについても簡単にふれてみる。近世の碗は、飯碗・汁碗・平碗・壺碗の四碗が基本となり、これに杯または腰高を加えたものが一般的であるといわれている。文献2・4では、碗の各用途別の特徴として、高口比率での分析を試みている。これによれば、飯碗は65%代、汁碗・平碗で40%代という数値が得られている。これを参照すると、Ⅰ類は高口比率が0.6～0.68であり、飯碗の可能性が高い。Ⅰ類のような深碗型は、他地域の調査事例から戦国期～江戸初期に強い共通性をもって一般的にみられる器形である。本遺跡においても、下層のⅢ～Ⅳ検出面のみしか出土していないため、他地域と同様に古様相の系譜をひくものと考えられる。Ⅱ類は、高口比率から平碗と考えられる。Ⅴ類については、9が平碗、10・11は飯碗に該当するものと考えられる。Ⅲ・Ⅳ類については底部の器厚が厚く、口縁に向かうに従ううすくなる点が類似しているため、産地・意匠などが同類の可能性も考えられる。しかし、残存率が低く、出土量も少ないため、今後他遺跡の出土事例と照らし合わせながら検討していく必要がある。また、松本城下において碗揃えの形式が一般化する時期についても今後検討していかなければならない。また、食膳具における陶磁器との使い分けも考慮していかなければならない事項であろう。

今回は、製作技法や産地の確定・編年作業までには至らなかったが、今回の分類と共存遺物との関係も併せ、今後の課題としたい。

最後に、本稿をまとめるにあたり木曾地域地場産業振興センターの太田洋志氏・工房やまとの小椋正幸氏に多大な御教示をいただいた。記して感謝の意を表したい。

<参考文献>

- 文献1 橋本鉄男 1982 『ろくろ』 法政大学出版社
文献2 梅村清春 1987 「清洲城下町跡出土の木製挽物漆器について」『年報』愛知県埋文センター
文献3 西柳嘉章 1987 「中・近世漆器の編年」『西川島一能登における中世村落の発掘調査—』穴水町教育委員会
文献4 江戸遺跡研究会編 1992 『江戸の食文化』吉川弘文館
文献5 江戸遺跡研究会 2001 『江戸考古学研究辞典』柏書房

2 松本城下出土下駄の様相について

松本城跡および城下町跡の遺跡からは、多量な下駄が良好な状態で出土している。本報告地点以外に城下町跡伊勢町第1次調査(町屋:文献14・調査概報)・三の丸跡土居尻第2次調査(武家屋敷:H13年度調査・未報告)でも多くの下駄が発見されている。本報告書作成に際し、前述の2調査地点から出土した下駄もあわせて、比較検討を試みてみた。なお本文中に使用する分類は、本報告書IV-11で述べたものである。

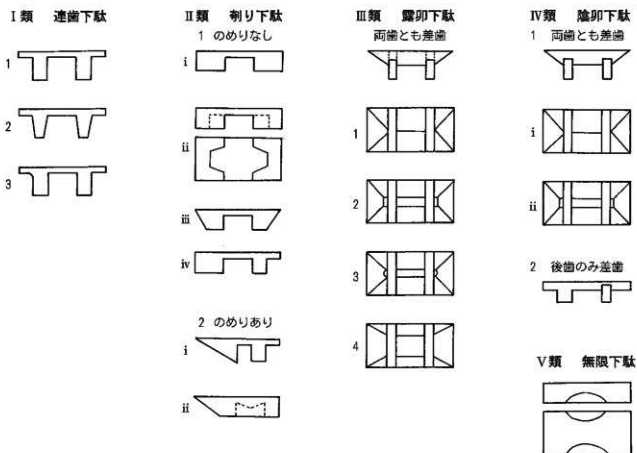
(1) 下駄の出土傾向と年代観

本調査で出土した下駄の大半は、第Ⅲ・Ⅳ検出面(16世紀末～18世紀前半)から発見された。このうち形態分類ごとの出土量をみると、Ⅰ類(連歯下駄)が85.1%を占めて最も多い。Ⅰ類への偏りは本報告調査地点に限らず、伊勢町第1次調査で89.7%、土居尻第2次調査でも82.6%みられることから、戦国末～近世の松本城下ではⅠ類の連歯下駄が主に使用されていたことがわかる。Ⅰ類の中では、歯が扁平な板状を呈するⅠ-1類が大半を占める。歯の基底部が厚く、接地面が狭いⅠ-2類は少ない。傾斜の角度は小さく積極的な加工ではない。Ⅰ-1類・Ⅰ-2類ともに、最下層の第Ⅳ検出面でも多量に出土することから、城下町初期の16世紀末～17世紀前半頃から既に広く使用されていたことが分かる。Ⅰ-3類は、土居尻第2次調査地点でのみ確認されており、18世紀後半～19世紀初頭の遺構から発見された。

Ⅱ類の割り下駄では、Ⅱ-1類は16世紀末からの使用が確認されている。Ⅱ-2類は、17世紀後半～18世紀前半の遺構から出土している。本調査区では、前金の装着された痕跡のあるⅡ-2-ii類(118)が第Ⅱ検出面で発見されたが、標記3調査地点での前金付の下駄は、118以外に発見されていない。土居尻第2次調査で出土した近代の下駄にも前金の痕跡はなく、118は時期的に非常に新しいものである可能性が高い。

差歯下駄ではⅢ類が16世紀末以降から使用され、Ⅳ類は遅れて18世紀以降に出現した。Ⅳ-2類は本調査区の第Ⅳ検出面で確認されたが、城下町期の遺構では本調査区でのみ出土している。Ⅴ類は土居尻1・2次調査からのみ出土し、18世紀後半～19世紀に使用された。

江戸時代に使用された下駄に関して、民俗学や文献史料などの研究では、一般的に次のようにいわれてきた。江戸初期には、中世からの足駄系統の差歯下駄が専ら使用されており、貞享期(1684～87)頃から一木作りの駒下駄が使用され始めた。また、文政期(1818～29)以降には下駄の着用が一般的に広まり、元文期(1736～40)以降では、晴天用にも下駄が使用され始め、江戸末期には堂島、草履下駄などさまざまな種類が製作された(文献13)とされる。これに対して、江戸遺跡の調査結果では、下駄の出現時期に史料とのズレが指摘されている(文献3)。同様に、松本城下町の出土事例でも、各検出面の下駄の出土量や主要な種類などが、これまでの通説とは異なっている。特に跡歯下駄(Ⅳ-2類)は、これまで元文中期頃以降に出現(文献4)、堂島下駄(Ⅱ-2-i類)は江戸末期に出現(文献13)とされているが、276・299はそれらよりも早い時期の遺構から出土している。118・276・299については、他の出土遺物もあわせて遺構の年代を再検討する必要がある。



第50図 下駄分類図

(2) 法量分析

次に下駄の寸法について検討する（尺貫法に換算）。全体では台長は6.6～7寸代とかなり散在的だが、これはI-A類が広範囲に分布するためである。I-B類は6.6～7.4寸にまとまり、I-A類では7寸以下と7.3～7.8寸に分かれる。II・IV類は出土点数が少ないが、7.3～7.8寸に限られ、IV類では6寸以下の下駄は出土していない。台幅は形態・台形に関係なく2.8～3.5寸の範囲に集中している。3調査地点の寸法を比較すると、ほぼ台長6.8～7寸、7.3～7.8寸に集中し、前者は長円形、後者は長方形の台形が多い。松本城下町では人骨の資料は残っておらず、松本城下町の住人の身長を知ることはできないが、平本氏による江戸時代の推定身長（文献8）を基に真家・笹本の計算式（文献9）を利用して足長を計算すると、男性では7.1～8.7寸、平均7.9寸、女性では6.4～7.7寸、平均7.0寸となる。例外もあるが、足長から判断して3調査地点での6.8～7.0寸の下駄は女性用、7.3～7.8寸の下駄は男性用、概ね長円形は女性用、長方形は男性用だったと言える。現在は足長よりやや小さい下駄を使用するが、台表面に残る使用痕から、城下町期には個人の足に合わせて、足とはほぼ同じ大きさに作られていたようだ。推定足長から6寸以下の下駄は明らかに子供用と考えられる。出土した子供用下駄の形態はI類（連歯下駄）で特別な配慮は見られないが、台幅は大人の下駄とほぼ同じで、幅広な分、安定感があっただろう。6寸以下の下駄の出土量が少ないのは使用期間の短いことが影響しているのだろうか。台幅に関しては土居尻1次調査では3寸以上のものが多いが、伊勢町1次調査では3寸以下のものが主流で、町人は幅の狭い幹下駄を好んだと推測される。

下駄は装身具の一つであり、草履表や鼻緒の付属品や漆などがその装飾性を高めた。本調査では、台に草履表を装着した表付下駄の使用が想定される。245、270、290、295、301は台の周囲に形の小さい貫通した孔や釘跡があり、草履表が留められたことが分かる。塗下駄と判明した下駄は119のみだが、本調査区の遺物には桶頭など漆器が多数出土しており、119以外にも塗下駄が使用されていた可能性は十分に考えられる。1750(寛延3)年に幕府は町人の塗下駄使用を禁止したが(文献1)、松本藩の表付下駄や塗下駄に関する法令は確認できていない。現在のところ、表付下駄や塗下駄は土居尻調査区で確認されているだけで、法令を反映した結果か、今後の調査で町人地でも高価な下駄が出土するか、興味深いところである。

出土下駄には鼻緒が残存せず、どんな鼻緒が使用されたかは不明だが、松本町では草緒・天鷲絨緒の使用が禁止されたことから(文献2)、当時流行した可能性がある。草緒・天鷲絨緒は享保期(1716~35)に切付緒になった(文献4)とされる。切付緒は現在の鼻緒と同じで前緒が細く、前壺は小さくあけられたはずである。草緒の遺存した土居尻2次調査出土の下駄(近代)では前壺の径0.7~0.9cm、横緒穴1.0~1.5cmと前・横とで径の大きさが異なったが、城下町期の出土下駄の鼻緒は径0.8~1.1cmで3箇所ともほぼ同径で、切付緒が使用されたか確認は得られない。草や天鷲絨緒が使われていれば、切付緒ではなかった可能性もある。

いずれの下駄も歯が磨り減り、指頭圧痕のある例も見られるので、下駄は概ね使用後に廃棄されたようだ。歯の摩滅具合はそれぞれ異なるが、大半は台も含めて高さ2~4cm前後である。高さ7、8cmの下駄は使用開始後、間もなく歯が欠けて捨てられたのだろう。下駄は歯が完全に摩滅するまで使用できるのに対して、出土下駄はまだ使用に耐えられそうに見える。本調査と伊勢町1次調査では台や歯に修理痕のある下駄が複数出土しており、使用者は町人・武士の階層に関係なく、下駄を修理しながら使用し、粗略には扱っておらず、高さ2cm前後が当時の下駄の使用限度であったと考えるべきだろう。松本城下町の遺跡で出土した下駄は主に雨天や降雪時等で晴天時の日常履きではなかったと推測される。

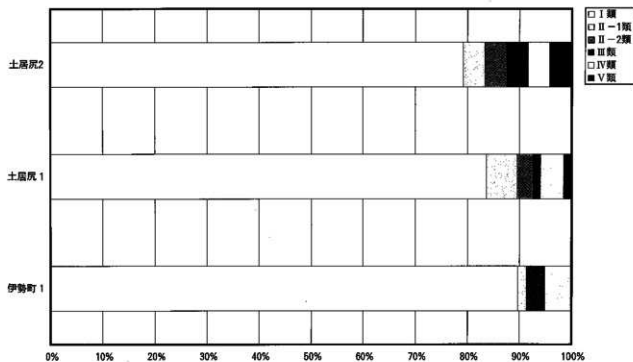
最後に、城下町期の下駄生産や流通に関して文献によれば、1725(享保10)年頃と推測される『松本市中記諸職人丑年改』には松本町に木履屋が9人もいた(文献12)。1763(宝暦13)年の『松本町中馬往来荷書上』に高遠町から木履が輸送されている(文献6)。江戸時代後半以降に開始された犀川通運でも下駄・下駄緒が輸送された(文献7)が資料不足で下駄の交易は不明な点が多い。しかし、松本町の人口は約14,000人(文献7)で、需要は町内で賄われたと考えてよいだろう。

下駄の製作については、江戸時代から桐正(桐材を柱目を取った下駄)が好まれ、材質も『近世風俗志』には杉や檜なども使われたが専ら桐が使用された(文献4)とある。筆者は修士論文作成に際して、土居尻1次調査・伊勢町1次調査の出土下駄材の調査を試み、任意に選択した10点の下駄の中から切片を採取し、同定を筑波市森林総合研究所の能城修一氏に依頼した。同定の結果、ヒノキが最も多く使用され、他にスギ・二葉マツ・五葉マツなどが10点中9点と、針葉樹が多く利用されていた。広葉樹はキハダが1点だけ確認され、キリは見つからなかった。また、木取りの方法も柱目・板目が混在し、柱目に偏ってはいない。桐下駄が出土しない点は江戸遺跡の白鷺遺跡(文献5)や溜池遺跡(文献11)などでも同様で、資料の記述と人々の実情は異なっていたことが伺える。松本藩では大量消費地への搬出手段を欠き、林産の大半は松本を中心とした領内の需要に充てられた(文献7)ので、山土下駄は主に藩内の木材を利用して生産されたと考えられる。

今回は土居尻1・2次調査、伊勢町1次調査で出土した下駄を対象にまとめたが、城下町期の他遺跡からも多数の下駄が出土しており、継続的な調査が必要である。樹種同定に関しては試料の点数が少ない割に一定の結果を示したが、今後より点数を増やした調査が課題となるだろう。

本文執筆にあたり、市田京子氏(日本はきもの博物館)、能城修一氏(森林総合研究所)、堀木真美子氏(愛知県埋蔵文化財センター)に大変お世話になった。記して感謝申しあげる。

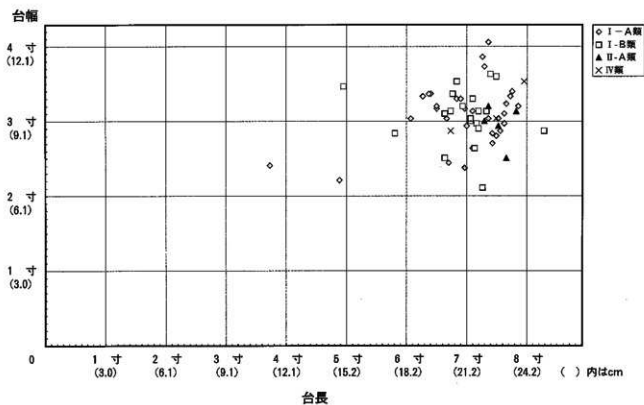
出土下駄 形態別割合



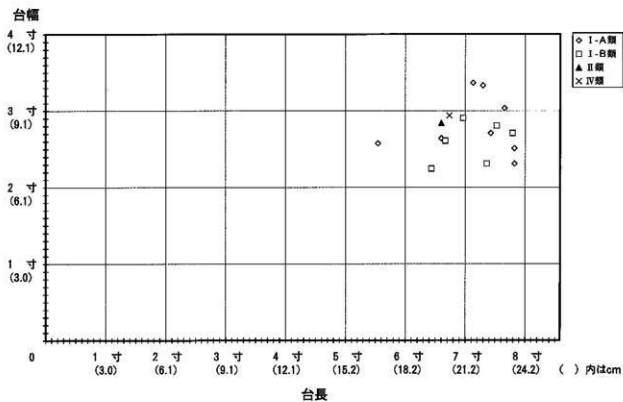
遺跡\形態	I 類	II-1類	II-2類	III類	IV類	V類
伊勢町1	52 (89.7)	1 (1.7)	0	2 (3.4)	3 (5.2)	0
土居尻1	56 (83.6)	4 (6.0)	2 (3.0)	1 (1.5)	3 (4.5)	1 (1.5)
土居尻2	19 (79.2)	1 (4.2)	1 (4.2)	1 (4.2)	1 (4.2)	1 (4.2)

() 内の数字は全体の割合 %

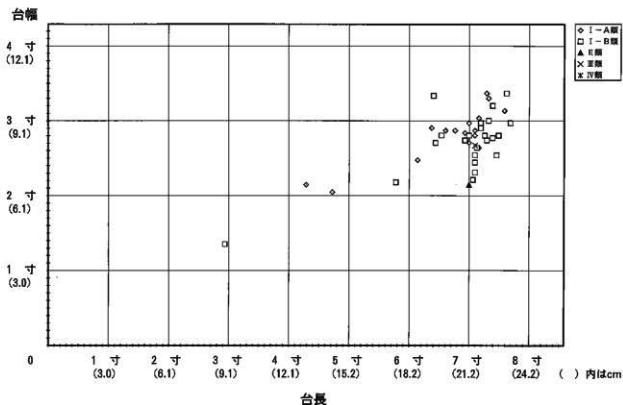
土居尻1次調査



土居尻2次調査 江戸時代



伊勢町 1 次調査



出土遺跡	図No.	整理番号	形態	樹種
土居尻 1	265	A-188	連歯下駄	ヒノキ
土居尻 1	280	A-198	連歯下駄	ヒノキ?
土居尻 1	288	A-186	連歯下駄	二葉マツ
土居尻 1	292	A-240	剃り下駄	スギ
土居尻 1	304	A-232	連歯下駄	ヒノキ
土居尻 1	307	A-239	連歯下駄	ヒノキ
土居尻 1	309	A-236	連歯下駄	ヒノキ
伊勢町 1		A-4-70	連歯下駄	キハダ
伊勢町 1		A-4-74	連歯下駄	ヒノキ
伊勢町 1		A-4-87	連歯下駄	五葉マツ

樹種	連歯下駄	剃り下駄	計
ヒノキ	5		5
ヒノキ?	1		1
スギ		1	1
二葉マツ	1		1
五葉マツ	1		1
キハダ	1		1

第3表 松本城三の丸跡土居尻第1次調査出土下駄 観察表

No.	図No.	検出面	遺構	整理番号	形態	台形	手法	台長	台幅	高さ	
1	118	A-II	井戸9	A-499	II-2-2	A	敷				ボックリ、前金の跡
2	119	A-II	検出面	A-272	IV-1-2	B	目	20.4	8.7	6.2	
3	244	A-II	検出面	A-3	V	B	目	(12.1)	6.5	2.3	
4	245	A-II	検出面	A-289	I-1	A	敷	22.9	8.7		12箇所的小孔、指頭圧痕
5	247	A-III	±301	A-203	I-1	A	敷	23.8	9.7	3.7	指頭圧痕あり
6	248	A-III	±301	A-191	I-1	B	目	22.4	8.7	4.7	指頭圧痕あり
7	249	A-III	±302	A-193	I-1	A	敷	22.0	11.7	4.7	指頭圧痕あり
8	250	A-III	±330	A-190	I-1	A	敷	20.7	10.0	2.4	指頭圧痕あり、工具痕明瞭
9	251	A-III	±336	A-178	I-2	A	目	21.5	8.0	3.4	線刻あり
10	252	A-III	±336	A-170	III-1-2	B	目				指頭圧痕あり
11	253	A-III	±342	A-209	I-1	A	敷	23.1	9.4	3.3	指頭圧痕あり
12	254	A-III	±352	A-183	I-1	A	目	20.2	9.2	3.3	指頭圧痕あり
13	255	A-III	±362	A-206	I-1	B	目	22.2	9.1	2.9	
14	256	A-III	±368	A-196	I-1	A	目	22.3	9.2	3.5	指頭圧痕あり
15	257	A-III	±399	A-192	I-1	B	目	21.6	9.5	4.8	末広の歯
16	258	A-III	±402	A-202	I-1	B	目	22.7	8.0	2.8	指頭圧痕あり
17	259	A-III	±416	A-207	II-1-1	A	敷	22.8	8.9	4.0	指頭圧痕あり
18	260	A-III	±418	A-181	I-1	A	目	21.1	9.6	2.3	指頭圧痕あり
19	261	A-III	±427	A-172	I-1	B	目	22.0	10.9	8.3	末広の歯
20	262	A-III	±435	A-189	I-1	A	敷	22.5	8.6	2.6	
21	263	A-III	±435	A-208	I-1	A	目	22.1	11.3	3.2	粗雑な作り
22	264	A-III	±435	A-185	I-1	A	目	23.1	9.0	2.6	
23	265	A-III	±430	A-188	I-1	A	敷	22.2	9.5	4.0	
24	266	A-III	±430	A-182	I-1	A	目	23.2	9.8	3.6	
25	267	A-III	池伏遺構	A-169	I-1	A	目	22.3	12.3	7.1	線刻あり
26	268	A-III	竹301	A-179	I-1	B	目	21.4	9.5	3.9	指頭圧痕あり
27	269	A-III	検出面	A-176	I-1	B	目	21.0	8.6	2.4	指頭圧痕あり
28	270	A-III	検出面	A-210	I-1	B	目	25.1	9.5	5.0	小穴37箇所あり
29	271	A-III	検出面	A-171	I-1	B	目	20.1	9.0	7.4	末広の歯
30	272	A-III	検出面	A-187	II-1	A	敷	23.2	7.6	4.0	1/3欠損
31	273	A-III	検出面	A-201	I-1	A	目	22.8	9.2	2.5	指頭圧痕あり
32	274	A-III	検出面	A-206	I-1	A	目	22.7	8.5	3.4	指頭圧痕あり
33	275	A-III	検出面	A-197	I-1	A	目	21.5	9.5	2.6	
34	276	A-III	検出面	A-184	II-2-1	A	目	22.3	9.7	4.8	工具痕明瞭
35	277	A-III	検出面	A-200	I-1	A	目	22.5	8.2	2.2	
36	278	A-III	検出面	A-173	I-1	B	目	17.6	7.6	2.8	
37	279	A-III	検出面	A-175	I-1	B	目	20.7	8.8	5.3	
38	280	A-III	検出面	A-198	I-1	A	目	19.7	9.6	3.9	指頭圧痕あり
39	281	A-III	検出面	A-174	I-1	A	目	18.3			被熱痕あり
40	282	A-III	検出面	A-177	I-1	B	目	20.4	9.7	3.0	
41	283	A-III	検出面	A-204	I-1	A	目	18.4	9.2	4.1	被熱痕あり
42	284	A-III	検出面	A-474	IV-1-2	A	目	22.7	9.2	8.7	
43	285	A-III	±430	A-199	I-1	B	目	15.0	6.4	3.7	
44	286	A-III	検出面	A-194	I-1	A	目	11.3	7.3	4.4	被熱痕あり
45	287	A-III	検出面	A-195	I-1	A	目	23.5	10.3	7.5	線刻あり
46	288	A-III	検出面	A-186	I-1	A	目	14.8	6.7	5.0	工具痕明瞭
47	289	A-IV	検出面	A-245	I	A	目	21.2	8.9	2.6	修理痕あり
48	290	A-IV	井戸501	A-234	I-1	A	目	22.1	9.2	2.6	指頭圧痕あり
49	291	A-IV	±560	A-242	I-1	B	目	20.1	9.2	2.7	指頭圧痕あり
50	292	A-IV	±560	A-240	II-1-1	A	目	22.1	9.1	3.1	
51	293	A-IV	±560	A-243	I-1	A	目	19.0	10.1	3.6	
52	294	A-IV	溝502	A-225	I-1	A	目	20.9	10.0	6.1	線刻あり
53	295	A-IV	溝502	A-241	I-1	A	目	19.4	10.2	2.6	穴8箇所
54	296	A-IV	±589	A-235	I-1	B	目	21.8	9.4	5.0	末広の歯
55	297	A-IV	±558	A-226	II-1-2	A	目	23.7	9.5	5.0	修理痕あり
56	298	A-IV	±588	A-233	I-2	B	目	20.5	10.2	2.6	焼印風線刻あり
57	299	A-IV	±543	A-231	IV-2-1	A	目	24.1	10.7	5.7	
58	300	A-IV	±566	A-238	I-1	B	目	21.8	11.0	7.2	末広の歯
59	301	A-IV	検出面	A-230	I-1	A	目	20.3	7.4	2.7	鼻緒穴、小穴8箇所
60	302	A-IV	検出面	A-244	I-1	A	目	19.7	9.7	3.2	
61	303	A-IV	検出面	A-237	I-1	A	目	23.4	10.1	3.5	指頭圧痕あり
62	304	A-IV	検出面	A-232	I-2	B	目	20.5	10.0	2.0	
63	305	A-IV	検出面	A-227	I-2	B	目	21.5	10.7	7.4	焼印風線刻、A-228と対
64	306	A-IV	検出面	A-228	I-1	B	目	21.4	10.5	7.6	A-227と対
65	307	A-IV	検出面	A-239	I-1	A	目	21.1	7.2	3.1	
66	308	A-IV	検出面	A-229	I-2	A	目	19.3	10.2	4.7	
67	309	A-IV	検出面	A-236	I-1	A	目	22.5	8.6	4.2	
68		A-III	±301	A-180	I	B	目	21.7	7.6	1.7	穴9箇所あり

第4表 松本城下町跡伊勢町第1次調査出土土駄 観察表

No.	検出面	出土遺構	整理番号	形態	台形	手法	台長	台幅	高さ	厚さ	備考
1	A-1	楠103	A-1-37	I-1	B	掘目	(13.9)	8.0	0.9		
2	A-1	±101	A-1-19	II-1.3	A	掘目	21.2	6.5	6.0		
3	A-1	±101	A-1-68	IV-1-1	不明	掘目	(13.5)	4.5	6.7		
4	A-1	±101	A-1-69	IV-1-2	A	掘目	(11.7)	7.2	7.2		
5	A-1	±101	A-1-70	IV-1-1	A	掘目	(13.2)	7.8	10.0		
6	A-2	±206	A-2-1	I-1	B	掘目	21.6	8.0	4.2		
7	A-2	±206	A-2-12	I-1	B	掘目	(17.0)	8.5	4.0		
8	A-2	±201	A-2-19	I-1	B	掘目	23.3	9.0	2.7	1.2	
9	A-2	±201	A-2-20	I-1	B	掘目	22.0	8.5	4.0	1.1	
10	A-2	溝201	A-2-21	I-1	A	掘目	19.3	8.8	4.7	1.8	
11	A-3	±303	A-3-51	I-1	B	掘目	21.4	6.7	2.7	1.4	指頭圧痕あり
12	A-3	±305	A-3-13	I-1	A	掘目	21.9		4.8	0.7	
13	A-3	±308	A-3-24	I-1	A	掘目	21.0	8.6	3.0	1.2	前歯に補強の釘2本
14	A-3	±308	A-3-25	I-1	B	掘目	22.7	8.5		1.0	指頭圧痕あり
15	A-3	±323	A-3-30	I-1	B	掘目	17.5	6.6	4.0	0.8	指頭圧痕あり
16	A-3	±319	A-3-31	I-1	A	掘目	22.5	(6.5)	3.0	1.2	
17	A-3	±319	A-3-32	I-1	A	掘目	23.0	9.5	4.2	1.4	
18	A-3	±319	A-3-33	I-1	B	掘目	19.4	10.1			
19	A-3	±319	A-3-37	I-1	A	掘目	18.6	7.5	2.2	0.4	指頭圧痕あり
20	A-3	±319	A-3-38	I-1	A	掘目	21.2	8.2	2.4	0.9	指頭圧痕あり
21	A-3	溝301	A-3-34	I-1	A	掘目	22.2	10.0	3.5	1.0	
22	A-3	溝301	A-3-35	I-1	B	掘目	21.8	8.8	6.5	1.0	前歯修理(釘)
23	A-4	±406	A-4-82	I-1	B	掘目	16.0		3.5	1.1	
24	A-4	±408	A-4-2	I-1	B	掘目	21.8	9.0	4.5	0.8	指頭圧痕あり
25	A-4	±408	A-4-4	I-1	B	掘目	19.8	8.5	1.9	1.0	修理の釘
26	A-4	±409	A-4-13	I-1	A	掘目	21.5	8.5	2.0	0.7	
27	A-4	±409	A-4-14	I-1	A	掘目	21.2	9.0	2.6	0.9	
28	A-4	±409	A-4-15	I-1	A	掘目	(22.1)	8.0	2.5	2.5	後に眼をあけて使用
29	A-4	±409	A-4-16	I-1	A	掘目	22.2		2.5		
30	A-4	±409	A-4-51	I-1	A	掘目	13.0	6.5	3.5	0.9	
31	A-4	±414	A-4-44	I-1	B	掘目	8.9	4.1	2.4	0.5	径0.5cmの穴2箇所(眼)
32	A-4	±415	A-4-87	I-1	B	掘目	(17.8)	(4.8)	4.0	1.6	
33	A-4	±415	A-4-88	III-4	B	掘目	(16.6)	8.0		2.5	露出下駄(台)、ホソ4箇所
34	A-4	±415	A-4-90	I-1	B	掘目	22.4	9.7	4.0	1.4	指頭圧痕あり
35	A-4	±415	A-4-93	III-2	A	掘目	21.5	8.1		3.0	露出下駄(台)、ホソ2箇所
36	A-4	±415	A-4-94	I-1	B	掘目	21.5	7.7	4.3	0.8	指頭圧痕あり、高歯、捺印あり
37	A-4	±415	A-4-95	I-1	B	掘目	19.5	8.2	6.9	1.5	
38	A-4	±415	A-4-96	I-1	B	掘目	23.1	10.2	7.8	1.2	高歯、前歯欠損・修理の穴5箇所
39	A-4	±417	A-4-7	I-1	B	掘目	22.6	7.7	3.5	0.7	指頭圧痕あり
40	A-4	±417	A-4-8	I-1	A	掘目	20.0	8.7	6.4	1.1	指頭圧痕あり
41	A-4	±417	A-4-9	I-1	B	掘目	22.1	8.3	7.0	1.4	指頭圧痕あり、前歯に修理の釘
42	A-4	±417	A-4-10	I-1	B	掘目	21.2	8.5	4.8	1.4	指頭圧痕あり
43	A-4	±417	A-4-20	I-1	A	掘目	21.5	8.7	3.5	1.1	
44	A-4	±417	A-4-30	I-1	B	掘目	22.4	8.4	6.3	1.1	前歯に修理の釘4箇所
45	A-4	±417	A-4-31	I-1	B	掘目	22.2	9.1	5.1	1.1	指頭圧痕あり
46	A-4	±417	A-4-33	I-1	A	掘目	22.1	10.2	4.8	0.9	
47	A-4	±417	A-4-34	I-1	A	掘目	20.5	8.7	4.8	1.1	
48	A-4	±417	A-4-35	I-1	B	掘目	21.0	8.3	4.8	1.1	
49	A-4	±421	A-4-69	I-1	A	掘目	14.3	6.2	2.8		
50	A-4	±421	A-4-70	I-1	B	掘目	(13.1)	7.9	4.0	1.1	指頭圧痕あり
51	A-4	±421	A-4-71	I-1		掘目	(17.7)	(6.6)	6.7	1.3	
52	A-4	±450	A-4-74	I-1	B	掘目	(13.5)	(5.8)	2.8	1.1	
53	A-4	±450	A-4-79	I-1	B	掘目	(17.6)	(8.0)	3.8	1.2	
54	A-4	±451	A-4-84	I-1	B	掘目	21.5	7.4		1.2	指頭圧痕あり
55	A-4	溝401	A-4-60	I-1	A	掘目	21.7	9.2	3.0	1.0	指頭圧痕、後歯修理の釘2箇所
56	A-4	溝401	A-4-51	I-1	B	掘目	21.5	7.0	1.4	1.4	指頭圧痕あり
57	A-4	溝401	A-4-62	I-1	A	掘目	21.7	8.0			指頭圧痕あり
58	A-4	溝401	A-4-103	I-1	A	掘目	(7.5)	7.7	4.0	1.5	

第5表 松本城三の丸跡土居尻第2次調査出土下駄 観察表 (近世該当分)

No.	検出面	遺構	整理番号	形態	台形	手法	台長	台幅	厚さ	高さ	備考
1	A-I	埋設幅2	A-1-12	Ⅱ-2	B	板目	20.0	8.6		2.7	後部欠損、使用痕、指頭圧痕あり
2	A-II	土20	A-2-39	I-1	B	板目	23.6	8.2	1.4	7.2	横緒孔後歯の後
3	A-II	土20	A-2-58	I-1	不明	板目	(16.7)	9.1			前後部欠損、横緒孔後歯の後、使用痕
4	A-II	土20	A-2-62	I-1	A	板目	23.7	7.0		6.5	前部欠損、横緒孔後歯の後
5	A-II	土20	A-2-63	I-1	A	板目	23.7	7.6	1.2	5.7	後部欠損、使用痕、指頭圧痕あり、A-2-62と類似
6	A-II	土20	A-2-88	I-1	A	板目	(12.3)	9.2	1.0	2.4	1/2欠損、使用痕、指頭圧痕
7	A-II	土20	A-2-37	I-3	A	板目	(20.1)	8.9		2.5	前部欠損、横緒孔後歯の後
8	A-II	土20	A-2-84	I-3	B	板目	22.3	7.0	1.2	5.5	一部欠損、前歯の前アーチ型、使用痕、指頭圧痕
9	A-II	土20	A-2-92	I-3	B	板目	22.8	8.5		5.4	歯が未広がりが、使用痕、台に釘跡4箇所
10	A-III	土24	A-3-2	I-1	A	板目	23.2	9.2	1.5	3.1	使用痕、指頭圧痕あり
11	A-III	土24	A-3-3	I-1	A	板目	22.1	10.1	1.7	4.0	使用痕、指頭圧痕あり、工具痕あり
12	A-III	土24	A-3-4	I-1	A	板目	22.5	8.2	1.2	2.7	鼻緒孔細く前後に2つずつあり、工具痕あり
13	A-III	土24	A-3-5	I-1	B	板目	19.5	6.8	1.1	2.6	使用痕、指頭圧痕あり
14	A-III	土24	A-3-24	I-1	A	板目	21.6	10.2	1.5	2.4	使用痕、指頭圧痕あり
15	A-III	土24	A-3-18	Ⅲ-歯			8.5	12.2	1.5		露卵下駄の歯、使用痕あり
16	A-III	土11	A-3-10	I-1	A	板目	16.8	7.8	0.8	3.9	×の線刻あり、使用痕、指頭圧痕あり
17	A-III	検出面	B-3-2	Ⅱ-1	A	板目	(6.5)	9.0		5.2	工具で切断、指頭圧痕、使用痕あり
18	A-IV	土12	A-4-7	Ⅲ	B	板目	(13.0)	8.9		3.5	1/2欠損、使用痕、指頭圧痕あり
19	B-II	検出面	A-II-222	I-1	B	板目	19.4	8.5	3.3	1.3	線刻、左に傾く、指頭圧痕
20	B-II	建物1	A-II-203	I-1	B	板目	21.1	8.8	1.2	2.4	披染痕、厚手の歯
21	B-II	建物1	A-II-211	V	B	板目	(9.7)	5.6	2.6		未広の歯、3箇所、釘穴1箇所
22	B-II	建物1	A-II-246	IV-1	A	板目	20.4	8.9		3.0	台、横緒孔は後歯の後、指頭圧痕
23	B-II	土坑27	A-II-171	I-1	A	板目	20.0	8.0		3.5	未広の歯
24	B-II	土坑27	A-II-219	I-1	B	板目	20.2	7.9		3.5	焼印状の線刻、鼻緒孔四角形
25	B-II	土坑27	A-II-170	I		板目	(17.4)	10.0		4.9	厚手の歯

<参考文献>

- 石井 良助編 1959 『徳川禁令考』前集5巻 創文社
- 市川 準一編 1964 『信州松本郷土史料市川文書』知新社
- 市田 京子 1992 『江戸時代の下駄』『第5回江戸遺跡研究会発表要要』pp.237~255 江戸遺跡研究会
- 喜多川 守貞 1928 『類従 近世風俗志』魚住書店
- 都立学校遺跡調査会編・発行 1990 『白鷺遺跡』2
- 長野興編 1974 『長野県史』近世資料編 第五巻(三) 中信編 長野県史刊行会
- 東京摩部・塩尻市・松本市郷土史料編纂会編・発行 1968 『東京摩部・松本市・塩尻市誌』第二巻歴史下
- 平本 嘉助 1972 『縄文時代から現代にいたる関東東地方人身長の時代的变化』
『人類学雑誌』80(3)pp.221~236 日本人類学会
- 真家 和生・笹本 信子 1999 『遺跡出土足跡痕からの身長測定 - その問題と検討 -』
- 『大妻女子大学紀要-家政系-』第35号pp.45~54 大妻女子大学
- 松葉礼子 1999 『溜池遺跡・汐留遺跡・墨田区三遺跡から出土した木製品の樹種から類推される近世江戸城周辺の木材消費』『植生史研究』pp.59~70 日本植生史学会
- 松本市編・発行 1995 『松本市史』第二巻 歴史編Ⅱ近世
- 宮本 馨太郎 1968 『かぶりもの・きもの・はきもの』岩崎美術社
- 松本市教育委員会 1996 松本市文化財調査報告No.122 『松本城下町跡 伊勢町 ~近世・町屋跡の発掘調査~』

写真図版

79



80



82





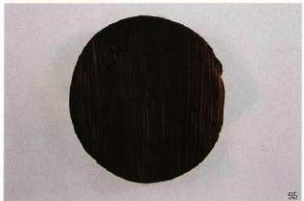


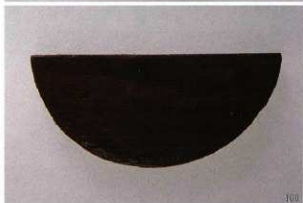
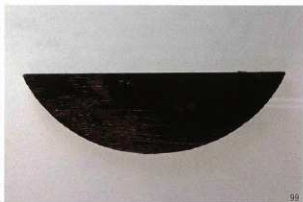


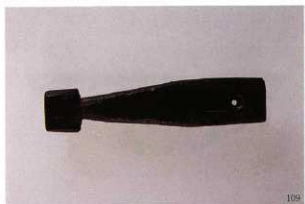


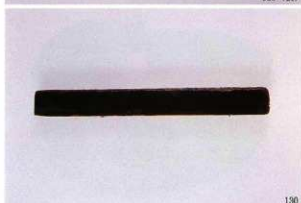
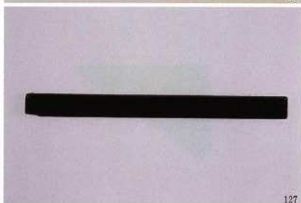


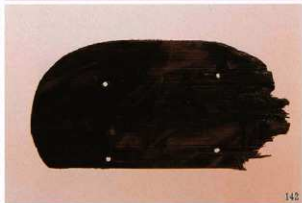
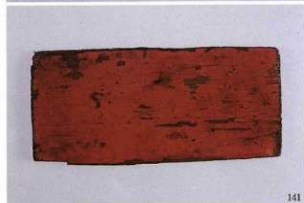
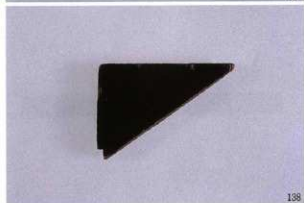














甕 豆

122



栗杖漆器

143

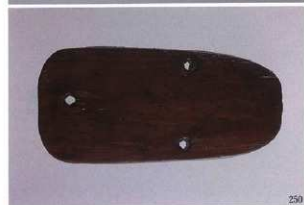
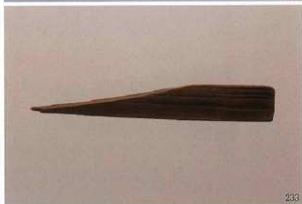
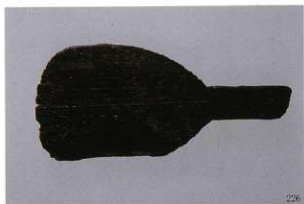


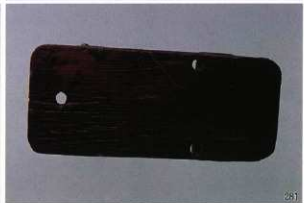
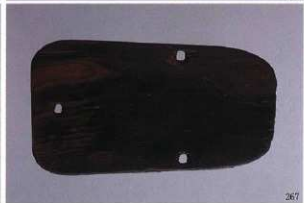
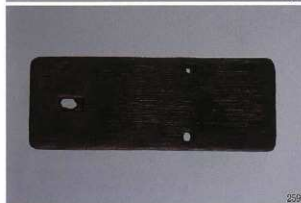
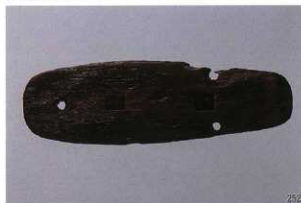
栗杖漆器 (横)

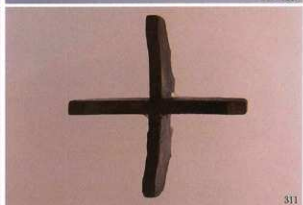
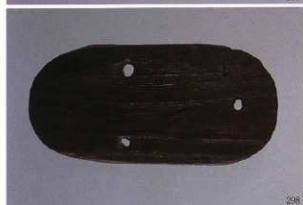
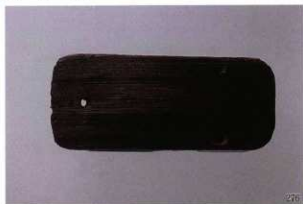
143 (横)

















199



284



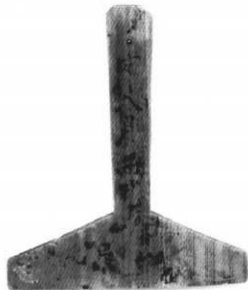
325 (表)



325 (裏)



327



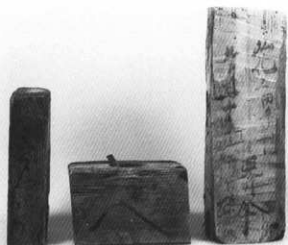
372 (表)



372 (裏)



329



332



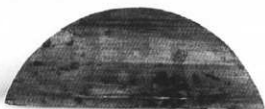
328



331



330



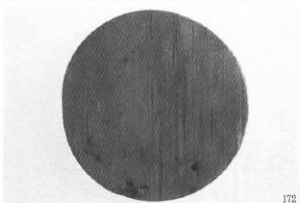
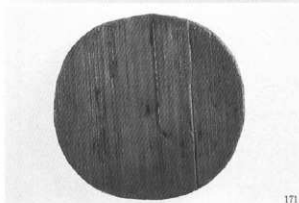
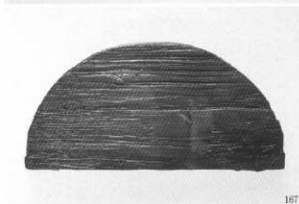
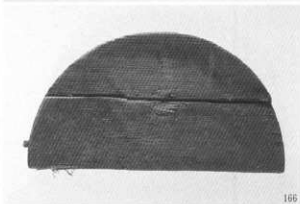
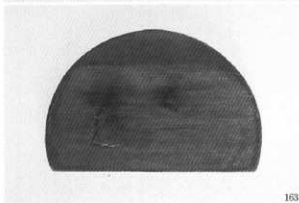
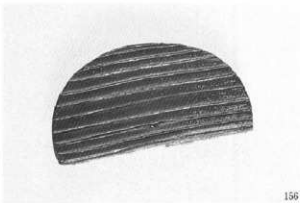
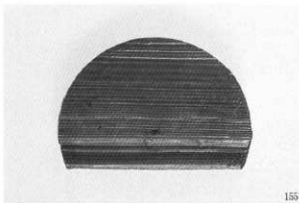
198



330 (左)

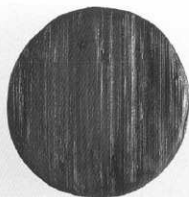


330 (右)





173



176



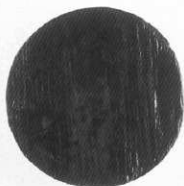
177



178



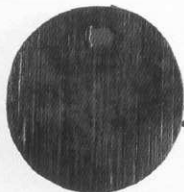
179



180



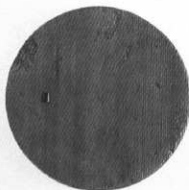
181



182



184



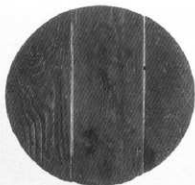
185



186



187



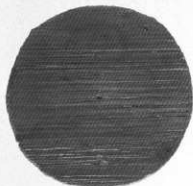
188



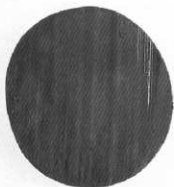
189



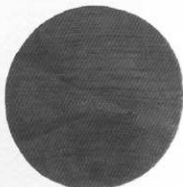
190



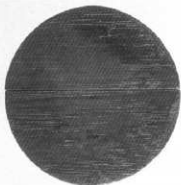
191



192



193



194



195



196



197



210



211



212



214



215



216



222



223



225



227



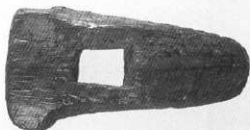
229



232



239



241



243



244



119 (背)



119 (腹)



247 (表)



247 (裏)



249 (表)



249 (裏)



253 (表)



253 (裏)



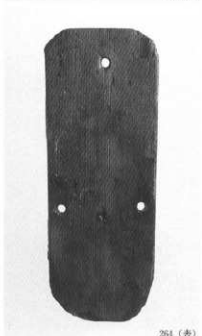
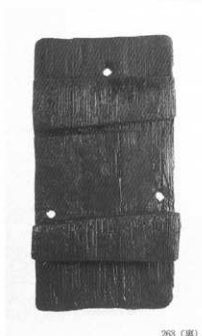
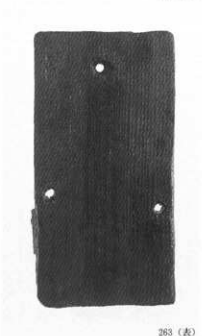
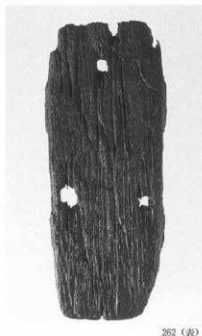
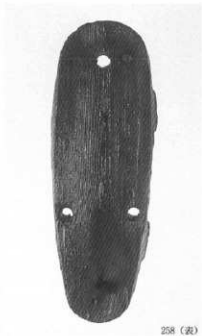
256 (表)



256 (裏)

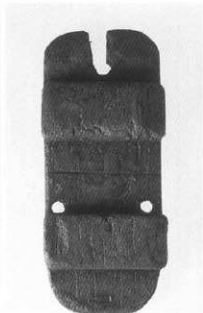


257 (表)





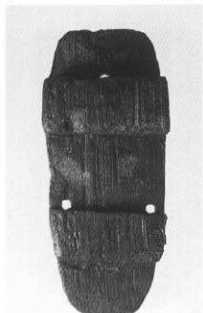
265 (A)



265 (B)



268 (A)



268 (B)



269 (A)



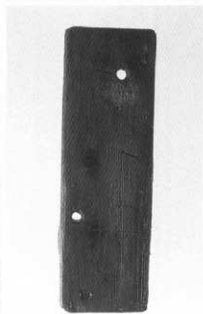
269 (B)



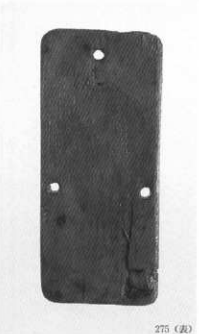
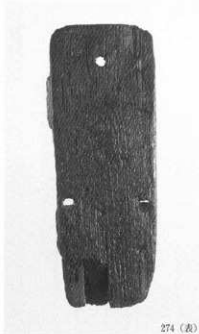
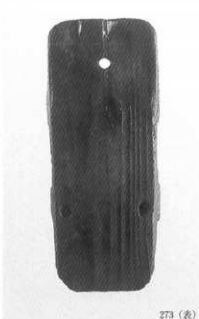
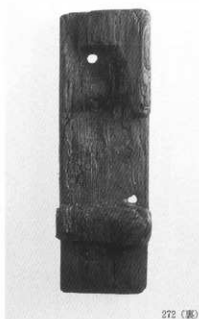
271 (A)



271 (B)



272 (A)

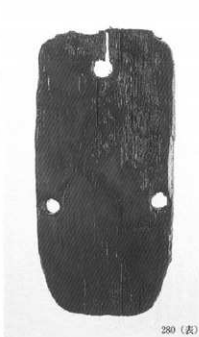




278 (表)



278 (裏)



280 (表)



280 (裏)



282 (表)



282 (裏)



283 (表)



283 (裏)



285 (表)



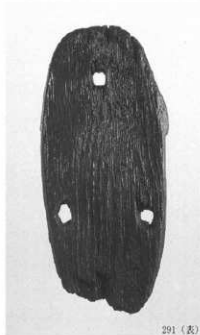
285 (裏)



290 (表)



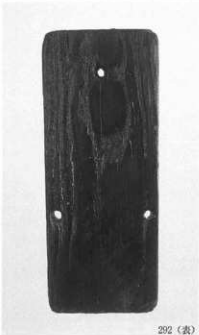
290 (裏)



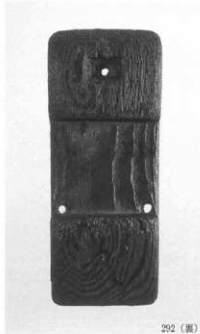
291 (表)



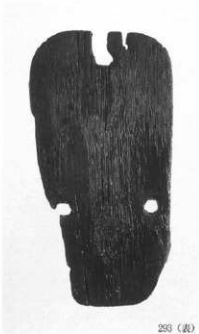
291 (裏)



292 (表)



292 (裏)



293 (表)



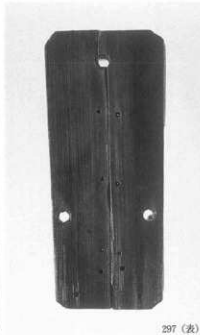
293 (裏)



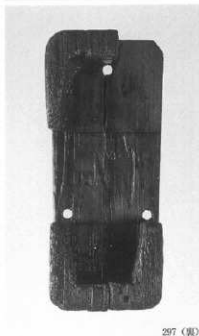
295 (表)



295 (裏)



297 (表)



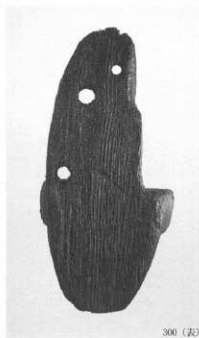
297 (裏)



299 (表)



299 (裏)



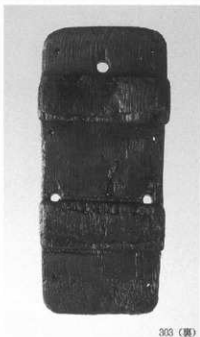
300 (表)

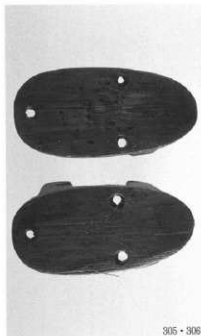


300 (裏)

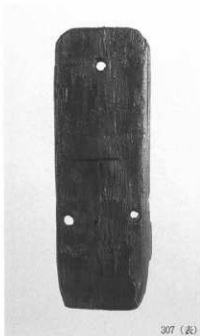


301 (表)





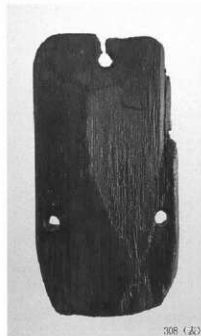
305・306



307 (表)



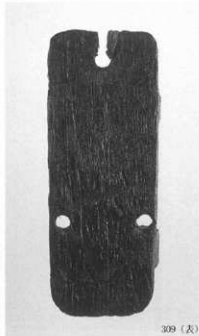
307 (裏)



308 (表)



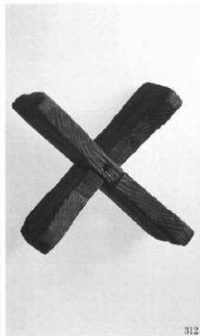
308 (裏)



309 (表)



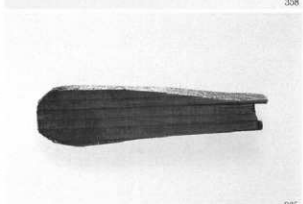
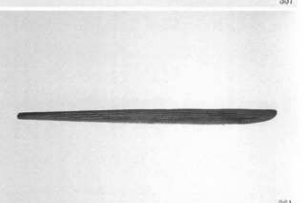
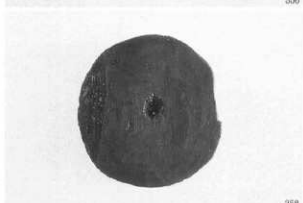
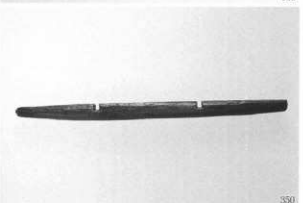
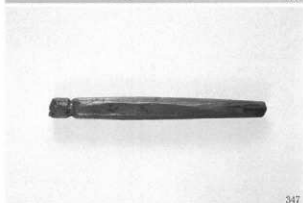
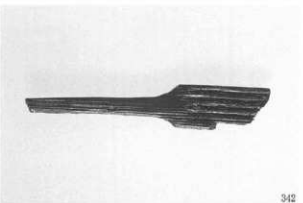
309 (裏)

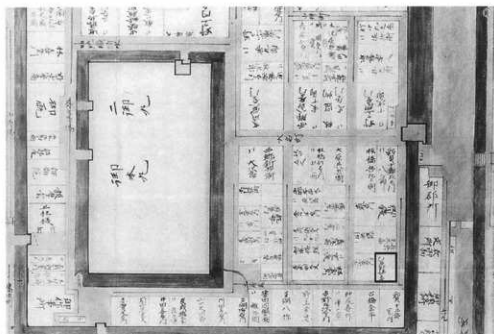


312



316





調査地の位置

「嘉永七年三月改帳中名の附図」
より



木製品出土状況
第Ⅲ検出面 土342



木製品出土状況
第Ⅳ検出面

長野県松本市 松本城三の丸跡 土居尻第1次 緊急発掘調査報告書 ～遺物編2（木器編）～

ふりがな	ながのけんまつとし まつもとじょうさんのまるあと どいじりきんきゅうはくつほうこくしょ もっさへん							
書名	長野県松本市 松本城三の丸跡 土居尻第1次 緊急発掘調査報告書 ～遺物編2（木器編）～							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.169							
編著者名	竹内晴長、太田万壽子、廣田早和子							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号 TEL0263-34-3000(代) (記録・資料保管：松本市立考古博物館 〒390-0823 松本市大字中山3738-1)							
発行年月日	2003(平成14)年3月20日 (平成14年度)							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
松本城三の丸跡土居尻	長野県松本市 大手3丁目2-27、 2丁目3-10	20202	494	36° 13' 55"	137° 58' 16"	19910409 ～ 19910719	1,360.5㎡ (4面調査： 48816.442㎡)	松本市営大手駐車場 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
松本城三の丸跡土居尻	城館跡 (武家屋敷)	近世	建物址、土坑、ピット、 水道遺構、井戸、溝、 築石遺構	土器・陶磁器、金属 製品、木製品、石製 品		三の丸跡の上級武家屋敷の調査である。松本城築城時から近世末までの屋敷の変遷や井戸・水道遺構が良好な状態で確認できた。出土遺物も多く、武士の生活様相を考える上で、良好な調査事例となった。		

松本市文化財調査報告 No.169

長野県 松本市
松本城三の丸跡

土居尻 第1次

— 緊急発掘調査報告書 —
～ 遺物編2（木器編）～

発行日 平成14年3月20日
 発行者 松本市教育委員会
 〒390-0872 長野県松本市丸の内3番7号
 印刷 株式会社 プラルト

